

平成 26 年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会

— 目 次 —

土佐厚生会	1
障害者支援施設 こくふ	7
短期入所事業所 こくふ	14
相談支援センター アルペジオ	15
就労継続支援 B 型事業所 ウィール社	17
障害者就労継続支援 B 型 ワークセンターファースト	29
障害者支援施設 あき	37
短期入所事業所 あき	48
特別養護老人ホーム 八流荘	49
短期入所特別養護老人ホーム 八流荘	59
デイサービスセンター やながれ	60
ホームヘルプステーション やながれ	63
在宅介護支援センター やながれ	66
小規模多機能型居宅介護事業所 南風	67
障害者支援施設 とさ	71
短期入所事業所 とさ	84
デイサービスセンター とさ	85
就労継続支援 B 型事業所 カトレア	86
障害者共同生活援助事業所 古里の家	96
障害者福祉ホーム コーポラスこくふ	98
公益を目的とする事業	101

土佐厚生会

I 基本方針

土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、福祉サービスを必要とされる利用者様が地域社会の一員として社会、経済、文化活動等に参加をし、有する能力に応じた日常生活を営むための適切な支援を行い、安全で安心できる良質なサービスを継続的かつ安定的に提供できるよう活気のある経営を進めた。

II 事業の総括

- 1 役職員は、本会の基本理念とする「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を旨とし、必要な知識と技術の習得など、実践を重ねながら切磋琢磨し、常に改善を進めていく土壌を築いた。
- 2 役職員は、法人の基本方針に則り、社会福祉事業の主たる担い手として利用者等に対し、継続的かつ適切な福祉サービスの提供に努めた。
- 3 役職員は、提供する福祉サービスの質の向上をはかるため全施設、事業所は自己評価を行い、その結果を公表し社会福祉事業活動の透明化に努めた。
- 4 役職員は、個人の尊厳や社会的倫理を遵守し、社会福祉事業者に求められている自立性、公益性の確保に努めた。
- 5 本会の運営する施設、事業所は、地域住民の福祉ニーズに応えるため、行政機関その他福祉サービスを提供する者との連携を密にし、地域福祉の向上に尽力した。

III 事業の概要

- 1 法人の主たる活動
(1) 理事会等の活動は以下のとおりである。

活動名	実施日	実施場所	主たる活動内容
理 事 会	平成 26 年 5 月 24 日	障害者支援施設とさ	平成 25 年度事業報告、決算、諸規程の変更などの審議
	平成 26 年 10 月 25 日	法 人 本 部	平成 26 年度補正予算、事業の進捗状況、諸規程の一部変更などの審議
	平成 26 年 12 月 13 日	新阪急高知	評議員・役員の選任等
	平成 26 年 12 月 17 日	法 人 本 部	会長、理事長の選任
	平成 27 年 1 月 10 日	高 知 会 館	法人の人事議案
	平成 27 年 3 月 28 日	法 人 本 部	平成 27 年度事業計画、予算、諸規程の一部変更及び評議員等の選任
評 議 員 会	平成 26 年 5 月 24 日	障害者支援施設とさ	平成 25 年度事業報告、決算、定款変更などの審議
	平成 26 年 10 月 25 日	法 人 本 部	平成 26 年度補正予算、事業の進捗状況などの審議
	平成 26 年 12 月 13 日	新阪急高知	評議員・役員の選任等

	平成 27 年 3 月 28 日	法人本部	平成 27 年度事業計画、予算、諸規程の一部変更及び役員等の選任
監事による 監査	平成 26 年 5 月 14 日～ 平成 26 年 5 月 16 日	—	法人の事業、会計、財務についての書類監査、業務監査
	平成 26 年 5 月 19 日	法人本部	施設、事業所の経営および会計事務、決算書の確認監査

(2) 各種委員会の活動は、以下のとおりである。

活動名	開催年月日	実施場所	主たる活動内容
常任委員会	毎月 1 回	法人本部	理事長、常任理事等による重要案件の調査・審議を行った。
褒賞・懲戒委員会	平成 27 年 2 月 3 日	法人本部	就業規則第 46 条に基づき平成 27 年度、当法人および関係機関へ表彰を行う役職員の選考

- 2 本会の施設、事業所は、安芸市、南国市および土佐市の 3 ゾーンに展開、その連携を密にして、相互に協同して利用者サービスの充実に努めた。

事業名	開催年月日	実施場所	主たる活動内容
防災会議	平成 26 年 8 月 6 日	法人本部	各施設災害時の対応にあわせた周辺機器の見直しと地震災害に備えた各施設の取組、課題について検討

- 3 土佐厚生会の第三者機関である地区施設運営委員会は、あき、こくふ、とさの 3 ゾーンにおいてそれぞれに設置されている。施設の利用者様やその家族様及び地域住民の方々の苦情受付およびその解決に積極的に取り組んだ。
- 4 就労継続支援 B 型事業所カトレアの就労事業材料置き場およびとさゾーンの駐車場確保のため、下記土地の買取り計画を立て、土佐市ならびに関係機関の指導を受けて平成 26 年 10 月農地法第 5 条第 1 項の規定による許可申請を行った。また、同時に都市計画法第 29 条第 1 項の規定による開発行為許可申請も行い、平成 27 年 3 月 30 日併せて許可され、平成 27 年 3 月 31 日所有権の移転を行った。

所在地	地番	地目		面積 (㎡)
		公簿	現況	
土佐市波介字古川	1281 番	田	田	1,051
土佐市波介字古川	1282 番	田	田	1,084
土佐市波介字八反田	1345 番	田	田	188
土佐市波介字八反田	1346 番	田	田	188
土佐市波介字八反田	1347 番	田	田	396
合計	—			2,907

5 人材の確保とその育成

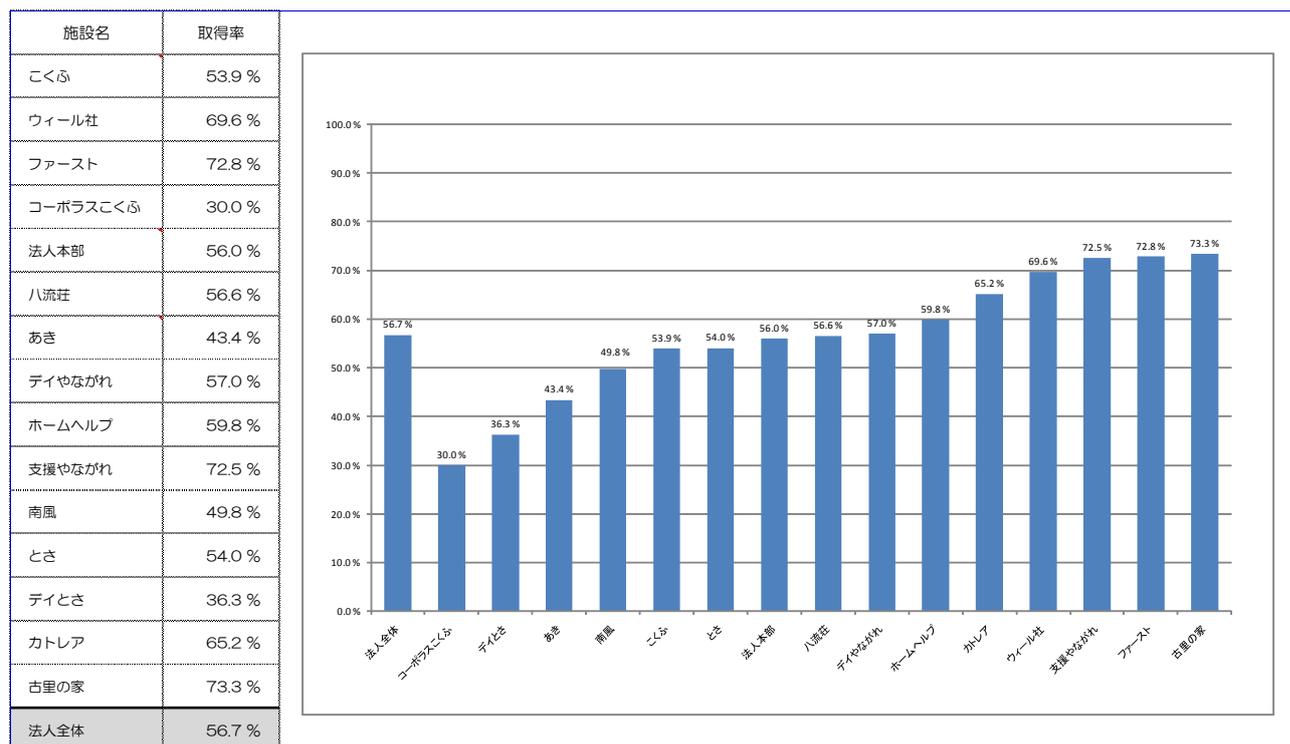
- (1) 人材の確保の重要性を認識し、新規学卒者の採用、特に高等学校を卒業する若年層の確保を重点目標に、6月から9月にかけて高等学校、専門学校、大学等の学校訪問を実施した。また、ハローワーク、高知県社会福祉協議会等が開催する事業所説明会で使用する求人パンフレット、ブースのレイアウトも工夫した。面接当日は希望者がリラックスして担当職員に質問出来るよう、入職1～2年の介護員を動員し面接にあたった。
- (2) また、ホームページのリニューアルに併せて求人のコーナーを設けた。
平成26年4月1日付け採用職員は以下のとおり

職種	経歴	人員
生活支援員 介護員	高等学校卒業者	1人
	専門学校	1人
	大学等卒業者	2人
	臨時職員から登用	4人
主 事	専門学校	1人
	大学等卒業者	1人
	中途採用	1人
	臨時職員から登用	1人

- (3) 福祉サービスの質の向上や職員の配置後の定着、優秀な人材の育成を図るためには、職員の教育訓練は最重要課題であり、平成26年度は法人一体となって外部講師を招聘し次の教育訓練を実施した。また、それぞれの担当者が専門知識の習得のため、全国経営者協議会、全国社会福祉協議会等の主催する研修会に出席した。

研修名	対象者	実施年月日	研修の内容
新規採用職員研修	新規採用職員	平成26年4月1, 2, 12日	土佐厚生会職員として日常業務に必要な基本となるものを習得
		平成26年8月～12月	社会福祉法人の基礎知識と職業倫理、コミュニケーションと接遇、人事考課制度について外部講師等による講義
	平成27年度新規学卒採用職員	平成27年3月26, 27日	社会人としての基礎知識の習得 (高知県産業訓練協会主催)

① 平成 26 年度(4～3 月) 有給休暇取得率 (施設別一覧)



② H26 年度「時間外労働」の施設別合計 (単位：時間)

施設名	施設別合計
こくふ	3,787
ウィール社	703
ファースト	124
コーポラスこくふ	16
ファーモニー	1
法人本部	346
とさ	2,154
デイとさ	51
カトレア	85
古里の家	1
あき	2,086
八流荘	2,487
ホームヘルプ	88
デイやながれ	273
南風	530
支援やながれ	44
合計	12,776

③ 平成 26 年度退職者数

	こくふ	アルペジオ	ウイール社	ファースト	コーポこくふ	あき	八流荘	デイやながれ	ヘルプやながれ	支援やながれ	南風	とさ	デイとさ	カトレア	古里の家	合計
正規職員	4	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	2	0	0	0	13
臨時職員	5	0	2	1	0	3	2	1	0	0	4	6	0	1	0	22

④ 平成 26 年度事故件数

		こくふ	アルペジオ	ウイール社	ファースト	コーポこくふ	あき	八流荘	デイやながれ	ヘルプやながれ	支援やながれ	南風	とさ	デイとさ	カトレア	古里の家	合計
利用者	ヒヤリハット	29	0	1	0	4	92	74	4	0	0	3	66	1	0	0	279
	インシデント	57	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	41	1	1	0	109
	事故	5	0	0	1	1	3	127	2	5	0	10	30	0	0	0	184
職員	車 輛 事 故	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	労 働 災 害	1	0	0	0	0	2	2	2	0	1	0	0	0	0	0	8
	通 勤 災 害	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

6 その他

本会が設置経営している施設および事業所の状況、その他、法人の透明性をはかるため、次のとおり情報の公開を行った。

事 項	時 期	場 所
法人経営状況の公開、閲覧	7月～	こくふ、やながれ、とさの各福祉ゾーンで定款に定める情報開示を行った。
現況報告、財務諸表	11月～	全国社会福祉法人経営者協議会ホームページ
財務諸表	10月	福祉新聞

7 社会福祉法人新会計基準への移行に備え、財務ソフトの選定と導入、拠点区分、勘定科目の決定および入力を済ませ平成 27 年 4 月開始の準備を整えた。また、新会計基準に添った本会の会計経理規程を作成、平成 27 年 3 月理事会で承認を受けた。

8 就業規則、賃金規則、旅費規定等就業規則関連規程およびそれに掛かる細則等について、平成 26 年 7 月に委託業者選定、8 月委託契約を交わし 26 件の規程を改正、平成 27 年 3 月理事会で承認を受けた。

障害者支援施設 こくふ

I 事業の総括

- 1 土佐厚生会の会是である「愛情」・「奉仕」・「連帯」の精神を遵守し、利用者の人権の尊重とプライバシーの保護に努めると共に、利用者の意向に沿った支援が提供できるようスタッフの意識改革に努めた。
- 2 利用者の個別支援計画は3か月ごとの評価実施、また6か月ごとにニーズや状態変化に応じたプランの見直しも確実に実施し、安全で安心できる福祉サービスの提供に努めた。また入院・退院に伴う個別支援計画の修正も随時行った。
- 3 地域住民と利用者との交流を図る為にふれあいの機会作りに努めた。

II 事業の概要

- 1 施設経営の安定ができるよう、数値目標の確保について
(1) 福祉事業の運営にあたっては、利用稼働率が第4四半期に落ち込みが見られたが目標の96%は達成できた。

① 年間の実稼働率の状況は次のとおりであった。(平成27年3月31日現在 単位%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
96.8	96.5	96.1	96.0	97.6	97.5	96.0	96.3	95.6	94.6	94.9	93.8	96.0

- (2) 利用者の平均障害支援区分については、4.7から0.1引き上げる目標であり、関係機関に支援区分の見直しについて早期の再調査依頼をし、4.97に引き上がり目標は達成できた。

① 利用者の障害支援区分は、次のとおりであった。(平成27年3月31日現在)

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
37人	20人	13人	8人	0人	0人	78人

- (3) 光熱水費等のコスト削減については、電気使用量を前年比5.3%削減できたが、電気料金の単価アップにより金額削減までには至らなかった。

- 2 スタッフの人材確保と人材育成について

- (1) スタッフの質の向上を図る為の職員研修を行い資質の向上に努めた。

① 施設外研修への参加状況は次のとおりであった。

事項	実施年月日	場所	人員
高知県食と栄養の会 第1回	H26.6.5	高知市	1人
高知県リハビリテーション研究大会	H26.7.6	高知市	1人
排泄ケア 基礎研修	H26.7.14	高知市	2人
全国身体障害者施設協議会研究大会	H26.7.29~30	横浜市	1人
合同視察研修	H26.7.7~9	東京都	3人
腰痛予防基礎研修	H26.8.5	高知市	2人
施設長実学講座	H26.8.6~7	東京都	1人
指導職員研修	H26.8.6~7	高知市	1人
ステップ3身体介護・生活介助研修	H26.8.24	高知市	1人
排泄ケア アドバンス	H26.8.18~19	高知市	1人
中四国身障施設協議会事務管理研修	H26.8.28~29	徳島県	1人
高知県食と栄養の会 第2回	H26.9.10	高知市	1人

事 項	実施年月日	場所	人員
平成 26 年度福祉サービス苦情解決セミナー	H26. 9. 16	高知市	3 人
腰痛予防 アドバンス研修	H26. 9. 17～18	高知市	2 人
業務の標準化研修	H26. 9. 18	高知市	2 人
清潔ケア研修	H26. 9. 22	高知市	2 人
中四国身障施設協会職員研修大会	H26. 10. 9～10	山口県	4 人
ステップ 3 身体介護・生活介助研修	H26. 10. 10	高知市	2 人
アサーティブコミュニケーション研修	H26. 10. 14	高知市	1 人
研修計画策定研修	H26. 10. 15	高知市	1 人
ステップ 2 介護基本研修	H26. 10. 20	高知市	2 人
OJT 研修	H26. 10. 23	高知市	1 人
施設長実学講座（特別編）	H26. 10. 16～17	東京都	1 人
清潔ケア アドバンス研修	H26. 10. 21～22	高知市	2 人
ファシリテーション研修会	H26. 11. 4	高知市	1 人
中四国身障施設協会支援職員研修会	H26. 11. 5～7	高知市	3 人
「食べる」を支援する基礎研修	H26. 11. 11	高知市	2 人
企業防衛の為にマイカー通勤リスク管理	H26. 11. 14	高知市	2 人
高知県福祉施設士会第 2 回研修会	H26. 11. 18	高知市	4 人
業務の標準化研修	H26. 11. 18	高知市	2 人
メンタルヘルス対策促進の為に講習会	H26. 11. 26	高知市	1 人
受動喫煙防止対策講習会	H26. 12. 3	高知市	1 人
高知県食と栄養の会 第 3 回	H26. 12. 3	高知市	1 人
中四国福祉施設士会ブロックセミナー	H26. 12. 3～4	広島県	1 人
「食べる」を支援するアドバンス研修	H26. 12. 17～18	高知市	1 人
施設長実学講座	H26. 12. 18～19	東京都	1 人
リスクマネージャー養成講座（1）	H26. 12. 22～24	東京都	1 人
姿勢管理基礎研修	H27. 1. 10	高知市	2 人
ストレスケア研修	H27. 1. 21	高知市	5 人
ステップ 3 身体介護・生活介助研修	H27. 1. 22	高知市	2 人
WHO 版 PFA 研修	H27. 1. 23	高知市	3 人
施設長実学講座	H27. 1. 25～26	東京都	1 人
第 2 回福祉避難所 ブロック別研修	H27. 1. 28	香南市	2 人
高知県身障者（児）施設協会生活部会	H27. 1. 29～30	四万十市	3 人
人の尊厳を考えるベーシック研修（Ⅰ・Ⅱ）	H27. 2. 3	高知市	2 人
衛生管理者能力向上研修	H27. 2. 9	高知市	1 人
リスクマネージャー養成講座（2）	H27. 2. 16～17	東京都	2 人
姿勢管理アドバンス研修	H27. 2. 16～17	高知市	2 人
中四国身障施設協議会施設長研修	H27. 2. 19～20	松山市	1 人
ステップ 2・介護基本研修	H27. 3. 6	高知市	2 人
全国身障施設協議会「経営セミナー」	H27. 3. 12～13	東京都	2 人
ストレスケア	H27. 3. 17	高知市	1 人

- ② 利用者への虐待防止意識を高める為、虐待防止委員会では施設内で実際起こりうる内容のチェックリストを作成し、スタッフへのアンケート実施、内部研修を行った。
- ③ 高知法務局様に人権研修依頼をし、虐待防止に対する意識啓発をおこなった。

(2) スタッフが自由な発想と柔軟な思考を身に付けることに努めた。

- ① 改善提案制度を活用したが、年間総件数が 147 件と少なく、年間トップ賞表彰基準の 170 件には満たなかった。
- ② 危険予知トレーニングの実施方法を見直し、より現実的な場面をモデルに危険を予測する能力が身に付くよう訓練を行った。

(3) 人材確保ができるよう関係機関、専門学校等に働きかけを行った。

- ① 施設近隣の高等学校や福祉専門学校に訪問し就職先の斡旋をお願いした。
- ② ハローワークや介護労働安定センター等の就職説明会、就職フェアに参加し、求職動向の把握に努めた。

3 利用者・家族等との信頼関係の構築を図る為、次の事を実施した。

(1)

- ① 家族面会の際は、日頃の体調や様子を直接お伝えするように努めた。
- ② 利用者のニーズにあった支援を行い、信頼関係の構築に努めた。

(ア) 利用者の嗜好の把握と献立への反映状況は次のとおり。

嗜好の把握方法	年間回数	献立への反映の状況
嗜好調査	3回	行事食、代替食または複数献立で対応した。
残滓調査	延 1,095 回	
食事委員会	12回(月1回)	
嗜好カルテ	有	

(イ) 食事が楽しめるようイベント・ご当地メニュー等に取り組み、工夫した。

(ウ) リハビリテーションの実施状況は次のとおり。

(個別訓練および自主訓練の延べ人数は、1日平均 29.2 名であった。)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
602	628	586	516	583	575	636	501	560	514	525	564	6,790

(エ) 利用者の内 77 名のリハビリテーション実施計画書を作成し、それに基づいて訓練をすすめた。

(オ) 職員の腰痛予防対策として、理学療法士モデルの体操をビデオ撮影し、毎朝朝礼で体操をおこなった。

(カ) 主な医療的行為の実施状況は次のとおり。

内 容	人 数
経管栄養(鼻腔)	3人
胃 瘻 栄 養	2人
バルンカテーテル留置	10人
吸入・吸引	6人(適宜)
摘便・ガス抜き	5人(適宜)
慢性創傷・皮膚科処置	8人(適宜)

- ③ 利用者が安心した生活を営むことができるよう、当施設に関する苦情や相談に対して、「こくふ地区施設運営委員会」を設置して、目安箱を設け、苦情等の受付の他、毎月利用者からの相談、意見徴収の機会を設けた。なお、相談受付は年間 12 回、定例会は年間 3 回実施した。

(ア) 平成 26 年度に寄せられた苦情、意見の概要は次のとおりであった。

	施設内の問題	その他の問題	計
こくふの苦情等の申出窓口	4	0	4
こくふ地区施設運営委員会	3	0	3
高知県こまりと相談所	0	0	0

- ④ 利用者の安心・安全を確保するため、またサービスの質の向上を図るため、諸会議を行った。諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

(ア) 施設運営関係

職員会(月1回)、事業会(月1回)、サービス改善委員会(月1回)、
虐待防止委員会(隔月1回)、安全衛生委員会(月1回)

(イ) 利用者サービス関係

懇談会(月1回)、朝の集い(月1回)、食事委員会(月1回)、ケア会(年44回)、
リハ会(年44回)、栄養計画担当者会(年44回)、身体拘束廃止委員会(年12回)

(2) 年1回居室担当スタッフが日頃の利用者の状況を「家族への手紙」として郵送した。また、
事務所主催の「ふれあい計画」での様子を、写真と手紙を添えて家族にお知らせした。

(3) 利用者が入院した際は2週間以内に病院へ見舞に伺い関係機関との信頼にも努めた。

(4) 非常災害時に備え、地域の方々の支援を仰ぎ連携を図ることに努めた。

① 総合的な防災訓練、避難訓練を次のとおり行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練		5/21										3/18	2
消火訓練		5/21										3/18	2
通報訓練		5/21						11/14				3/18	3
地震訓練								12/3					1
図上訓練		5/21										3/18	2
夜間訓練		5/21										3/18	2

② 南海大地震に備え、マニュアルの把握に努め、利用者用にも掲示した。

③ 福祉避難所として南国市と提携を結んだ。

④ 利用者が安全で安心して日常生活を営む事が出来るよう環境の整備、充実とその維持管理に努めた。

(ア) 施設の老朽化による10万円以上の修繕・移設工事等は次のとおりであった。

・飛散防止フィルム貼付	1,050千円
・駐車場アスファルト舗装工事	264千円
・エレベーター修繕	695千円
・清拭車修理	167千円
・自家発電設備取り替え及びキューピクル移設工事	39,331千円
・自家発電機階段通路設置工事	594千円
・中庭喫煙所設置	628千円
・物干し場差し掛け屋根設置工事	248千円

計 42,977千円

(イ) 設備・備品の見直しを行い、サービスの向上、経費削減、業務の省力化に努め10万円以上の備品取り替えは次のとおりであった。

・洗濯機制御用インバーターボックス取り替え	245千円
・洗濯機ドラム駆除用モーター取り替え	245千円
・衣類乾燥機主軸部部品交換	228千円
・号棟清拭車取り替え	147千円
・解析付心電計	896千円
・静養室保護観察カメラ一式	220千円

計 1,981千円

4 社会参加への機会や日中活動の充実を図る為の推進を次のように実施した。

(1) 年1回施設近隣への外出行事の取り組みにおいては、利用者の意向を伺い希望地への外出を実施した。

① 施設外出状況は次のとおりであった。(平成27年3月31日現在)

行事名	実施日	実施場所	参加者
花見外出	平成26年5月14日	高知駅	利用者17名
初夏の外出	平成26年7月16日	イオンモール高知	利用者6名
秋の外出	平成26年11月26日	西島園芸団地	利用者20名

(2) 日中活動の活性・充実については次のようなサークル活動等を行った。

① サークル参加者状況 (平成27年3月31日現在)

加入者			未加入者			合計		
男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
29	32	61	14	3	17	43	35	78

② サークルの運営・開催状況 (平成27年3月31日現在)

	男	女	計	指導者の区分	指導補助者	開催状況
俳句	1	6	7	スタッフ	無	月1回
生花	1	11	12	ボランティア	有	月1回
リズム音楽	9	4	13	スタッフ	無	月2回
麻雀	5	0	5	スタッフ	無	月2回
手芸	3	9	12	スタッフ	無	月2回
カラオケ	10	11	21	スタッフ	無	月2回
レクリエーション	8	7	15	スタッフ	無	月2回
園芸	5	4	9	スタッフ	無	月2回
筆でアート	6	5	11	スタッフ	無	月2回
散歩・外出	14	13	27	スタッフ	無	月2回
リラクゼーション	2	6	8	スタッフ	無	月2回
映画鑑賞	12	12	24	スタッフ	無	月1回
ミニ喫茶	希望者	希望者		スタッフ	無	月1回
料理教室	希望者	希望者		スタッフ	無	月1回
計 種目(延べ)	76	88	164			

③ 利用者の日常生活を通じて、文化的・社会活動への参加と自立生活への意欲を高めるため、次のような行事を行った。(平成27年3月31日現在)

行事名	実施日	実施場所	実施内容・参加者
外注の日	2か月に1回実施	モデル住宅	都人寿司店からの取り寄せ 1回8人
桜の下コーヒータイム	平成26年4月2日	玄関前	桜の木の下にカフェテラス式テーブル設置
深沢繁人様による ギターライブ	平成26年5月12日	食堂ホール	南国市社会福祉協議会協力 福祉施設でホスピタルライブ展開
アニマルセラピー	年間3回実施	施設内	ボランティアの協力を得て犬や猫と直接触れ合って頂く・20人程度
村岡マサヒロ様 トークショー	平成26年6月16日	施設内	高知県出身の漫画家・トークとマンガ実演と指導を兼ねて実施・ウィール社利用者も参加
ふれあい買い物外出 (事務所対応)	年間10回実施	近隣大型 商業施設	目的別商業施設で、意向に沿った買い物を楽しむ
散歩外出(事務所対応)	平成26年 5月21・28日	施設周辺	散歩しながら季節の草花を楽しむ

流しソーメン	平成 26 年 8 月 13 日	北川駐車場	流しソーメンをして利用者とのコミュニケーションを図る
かき氷	平成 26 年 8 月 27 日	喫茶シンフォニー	かき氷をして利用者とのコミュニケーションを図る
秋の法要	平成 26 年 9 月 25 日	施設内銀杏の間	国分寺住職による法要 15 名程度
オープンカードライブ	平成 26 年 10 月 15 日	施設周辺	四国マツダ様の協力を得てドライブ・15 名
ミニ運動会	平成 26 年 10 月 29 日	食堂ホール	利用者・家族・職員共に心身のリフレッシュを図る
からくり人形実演	平成 26 年 11 月 6 日	食堂ホール	南国市生涯学習課様の協力にて実演
クリスマス演奏会	平成 26 年 12 月 24 日	食堂ホール	事務所スタッフ中心の演奏会を楽しんで頂く
クリスマス忘年会	平成 26 年 12 月 24 日	食堂ホール	地域関係者招待しコミュニケーションを図る
マジックショー	平成 27 年 1 月 15 日	食堂ホール	マジシャンによる実演を楽しむ
節分豆まき	平成 27 年 2 月 3 日	施設内中庭	年男年女中心に豆まきをし、厄払いをする
春の法要	平成 27 年 3 月 19 日	施設内銀杏の間	国分寺住職による法要 10 名程度

5 施設のコンプライアンスとガバナンスの強化について

- (1) 平成 26 年度法人研修に参加し、コンプライアンスやガバナンスの重要性等々を学び意識改革に繋がった。
- (2) 規定等に基づく手続きの厳守については、やや希薄であった。
- (3) 事業計画やスローガンの周知徹底の方法として、朝礼でのスローガン実践の呼びかけ、また、スローガンを各部署に掲示した。
- (4) リスクに対する組織づくりにおいては、中国四国身障施設職員大会において発表する等、こくふの風土づくりのきっかけとなった。

6 報告・連絡・相談・確認の徹底と各部署の連携について

- (1) 部署長間の連携強化については、事故等が発生した際等、すぐに現場へ部署長が集まり、現場検証を行い対策の検討をするよう努めた。
- (2) 部署内の連携の見直しについては、部署単位での意見交換会を実施しコミュニケーションが図れるように努めた。

7 業務の効率を高める為の業務の見直しについて

- (1) 施設の生産性を高める為の業務の見直しについては、人員配置や介助方法・使用物品等の見直しを適宜実施した。
- (2) 業務ミスや無駄のないよう支援手順書を作成する件については
 - ① 生活支援員(介護)では、業務調整を主な役割とした職員を配置し、情報伝達等のルートを手順化した事でスムーズな対応が実施できた。
 - ② 生活支援員(介護)では、発注等の管理をグループ化し適宜検討コスト削減に努めた。
 - ③ 業務・作業手順書作成のグループ編成をしたことにより、手順書作成の必要性が理解され、職員の意識にも変化が見られ、手順書作成もすすんでいる。

8 平成 27 年度に向け、新会計基準への準備とスムーズな移行に努めるについて

- (1) 移行に向け、法人内事務職の研修に参加して準備に努めた。
- (2) 新会計基準に対応する為、全国身障施設協議会主催の「経営セミナー」(東京都で開催)に参加し、知識を広めた。

9 地域福祉の拠点としての施設づくりについて

(1) 地域の学校等との交流や、福祉専門学校実習生の受け入れによる福祉人材の育成について

① 地域住民との交流活動状況は次のとおりであった。

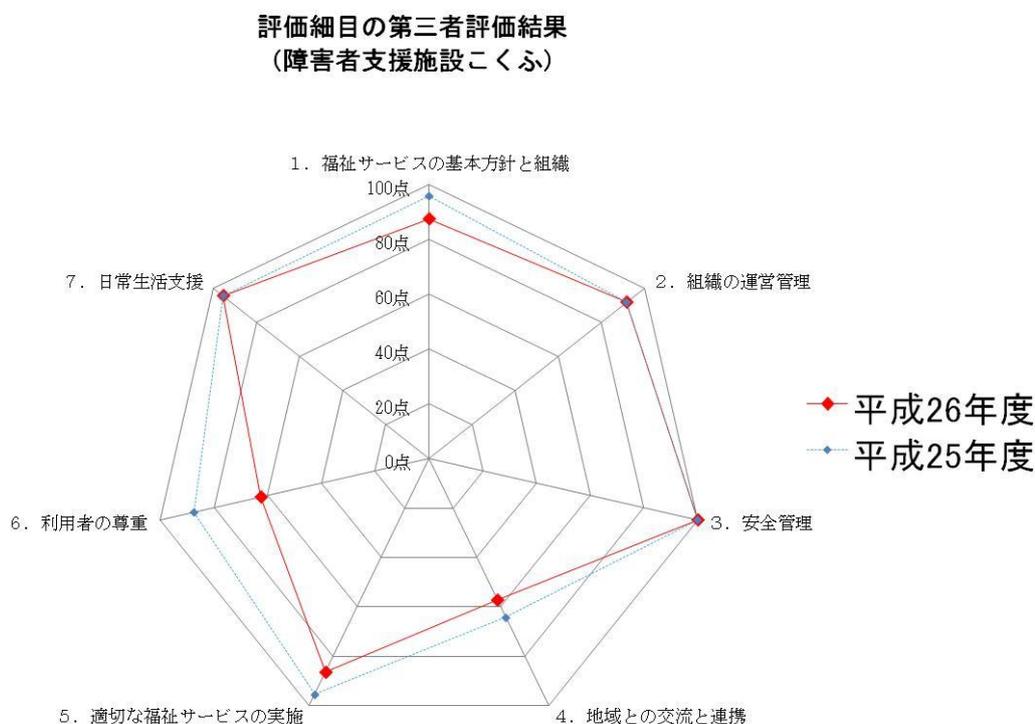
交流活動	実施日	実施場所	ボランティア・団体など
清掃ボランティア	平成 26 年 4 月 29 日	施設内	天理教比江分教会様
こくふ福祉の村まつり	平成 26 年 9 月 20 日	施設内	地域の方、南国市地区社協様他
熊野神社大祭	平成 26 年 10 月 30 日	施設内	熊野神社氏子の皆様
焼き芋外出	平成 26 年 11 月 15 日 22 日・29 日	瓶岩地区	期間限定瓶岩地区地域活性化事業へ参加。安納芋の焼き芋を購入し地域住民とふれあう
日本舞踊	平成 27 年 1 月 17 日	食堂ホール	土佐国府ライオンズクラブ様
クリスマスのキャロリング	平成 26 年 12 月 19 日	食堂ホール	清和女子中学高等学校様
人権の花贈呈式	平成 26 年 12 月 9 日	施設内	久礼田小学校様
プリンター贈呈	平成 26 年 12 月 25 日	施設内	北陵中学校生徒会様
施設見学	随時	施設全般	入所希望者、介護関係求職者等

② 介護実習や体験実習の受け入れは次のとおりであった。

平成福祉専門学校	介護実習（第1・3段階）各2名
高知県立大学	介護実習（Ⅰ・Ⅱ）Ⅰ…2名(3回)Ⅱ…2名(1回)
介護労働安定センター	介護実習 2名(2回)

(2) 平成 26 年 10 月 19 日に国府地区の自主防災訓練にも参加し、地域との連携を深めた。

別表1 評価細目の第3者評価結果
(障害者支援施設こくふ)



短期入所事業所 こくふ

I 事業の総括

利用者様の介護に伴う、ご家族の身体的、精神的な負担を一時的に軽減するとともに、利用者様が可能な限り居宅において自立生活を営むことができるよう、障害者支援施設こくふに準じたサービスを提供させていただき、心身機能の維持向上につとめた。

II 事業の概要

1 スタッフの配置人員

施設長	事務員	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	管理栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	用務員	合計
1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(3)	1(1)	1(1)	13(13)

(注) 単位は人、()は人員のうち兼務の人員

2 短期入所利用者様に対する日常生活の介護は、障害者支援施設こくふの利用者様の支援に準じて行い、安全で安心して生活を営むことができる事業所設備の維持管理と環境の保持につとめた。

- ① 自立生活を促進するために必要な支援と相談を行った。
- ② 基本的な日常生活の支援を行った。
- ③ 医療ケアと疾病の予防、健康管理を行った。
- ④ 適切な食事の提供と健康の保持につとめた。

3 利用者様の状況

事業所における利用者様の状況は、次のとおり。

市町村名	障害程度区分	利用延日数
高知市	区分6	41日
高知市	区分5	49日
高知市	区分4	274日
高知市	区分3	24日
高知市	区分2	90日
南国市	区分6	82日
南国市	区分2	2日
本山町	区分3	33日
本山町	区分2	40日
計		635日

相談支援センター アルペジオ

I 事業の総括

特定相談支援事業の円滑な運営を図るとともに、利用者の意思及び人格を尊重した指定計画相談支援の提供に努めた。

II 事業活動報告

- 1 利用者が有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活を営む事が出来るようサービス利用計画作成にあたっては十分なアセスメントを行い、利用者のニーズに対して適切な障害福祉サービスの利用ができるように努めた。
- 2 障害者支援施設こくふと就労継続支援B型事業所ウィール社を利用されている利用者のサービス利用計画案作成・モニタリングの実施を図る計画であったが、両施設以外にも障害者支援施設とさや在宅障害者の方も作成した。
またこくふ利用者の支援機関高知市の方 38 名は高知市の整備遅れの関係で平成 26 年 10 月以降の更新利用者の方のみの作成となった。

(1) サービス等利用計画作成状況は次のとおり (平成 27 年 3 月 31 日現在)

施設名 月	こくふ	ウィール社	とさ	在宅	計
4月	3名	1名	0	0名	4名
5月	3名	5名	0	0名	8名
6月	8名	2名	1名	0名	11名
7月	13名	2名	0名	0名	15名
8月	4名	0名	0名	0名	4名
9月	0名	0名	1名	0名	1名
10月	0名	0名	0名	2名	2名
11月	1名	1名	0名	0名	2名
12月	0名	0名	1名	0名	1名
1月	2名	2名	2名	0名	6名
2月	1名	0名	0名	1名	2名
3月	2名	0名	2名	1名	5名
計	37名	13名	7名	4名	61名

(2) モニタリングの状況は次のとおり 単位：件 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

施設名 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
こくふ								2					2
ウィール社			1	2	1		1	5	1				11

3 相談支援に関する説明会や各種研修会に参加し、相談支援専門員としての専門性を高めるよう努めた。

(1) 研修会等への参加状況は次のとおり

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

研修名	参加回数
南国市相談支援事業所 意見交換会	年間 7 回
中央東圏域相談支援事業所 事例検討会・連絡会	年間 3 回
相談支援従事者スキルアップ研修	年間 1 回
高知県災害時の心のケア研修会	年間 1 回

4 相談支援事業所運営に関する法律や関係法令を遵守するよう努めた。

5 こくふ利用者のサービス等利用計画作成にあたっては、こくふの個別支援計画作成時のケア会に参加した。

6 個人情報については、関係機関や他事業所の情報取得に際しても慎重に扱い、ケースによって情報の持ち出しは出来ない場合があった為、関係事業所でサービス利用計画を作成するなど個人情報の適正な対応に努めた。

7 利用者意向調査を行い、苦情に適切な対応を図る件については、特に在宅利用者の場合、モニタリング以外にも自宅へ訪問したり、電話連絡等で連携を図る事により、苦情等には繋がらなかった。

8 地域に支持される事業所作りの推進に関しては、南国市の相談支援事業所と連携を図り易いよう、意見交換会には参加をし、地域活動支援センター等とも日頃から連携を取りあった。

就労継続支援B型事業所 ウィール社

I 事業の総括

- 1 ノーマライゼーションとリハビリテーションの理念に基づき、利用者が地域社会の一員として自立生活ができるよう支援を行うとともに、利用者の主体的意欲を尊重し、経済的、文化的活動に参加できるよう支援した。
- 2 職員は、会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を遵守し、人権尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者の立場に立った福祉サービスの提供に努めた。
- 3 利用者個々に対する個別支援計画に基づき、必要な支援と仕事の提供を行い、経済的、社会的参加を促進した。
- 4 提供する福祉サービスの内容は、サービス利用説明書に基づいて行い利用者の自立生活と地域社会の一員としての自覚を促した。
- 5 地域社会と在宅者との結びつきを重視し、利用者・市町村・保健・医療およびその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する障害者支援施設こくふや福祉ホームコープラスこくふとともに「チームワークで築く信頼関係」をスローガンとして総合的な活動を行った。

II 事業の概要

- 1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上をはかった。
 - (1) 利用契約の状況は次のとおりであった。
 - ① 定員 20 名に対し、24 名の契約であり定員に対する稼働率は 109.0%であり、実稼働率は 88.4%であった。

平成 27 年 3 月 31 日現在

障害の程度 区分	該当	区分	区分	区分	区分	区分	区分	合計
	無し	1	2	3	4	5	6	
契約者	16 人	2 人	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	24 人

- (2) 職種・職員定数など配置規準を遵守し、優秀な人材の確保と職員の資質向上のための研修を行った。
 - ① 職員の配置状況は、次のとおりであった。

平成 27 年 3 月 31 日現在

職種名	所	所	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	事 務 員	生 活 支 援 員	職 業 指 導 員	医 師	栄 養 士	そ の 他	合 計
	長	長 補								
職員配置数	(1) 兼	(1)	1	1	(1) 兼	4 (1) 兼	(1) 兼		(2) 臨	10 (4)

()内は臨時または兼務職員

- ② 提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、施設外研修・施設内研修等に参加をし、知識・技能の向上に努めた。

【施設外研修】	研修内容	実施年月日	会場	人	対象者
	JP2014 情報印刷展	2014/5/16	インテックス大阪	2	指導員
	甲種防火管理者新規資格講習会	2014/5/22・23	南国市立スポーツセンター	1	所長補
	第5回高障連研修会「どこへ行きゆうニッポンのフクシ」	2014/5/25	ふくし交流プラザ	5	所長、所長補、サビ管、指導員
	障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」平成26年度中央東地区連絡会	204/6/1	プラザ王子	1	サビ管
	発達障害に関するセミナー	2014/7/8	県民文化ホール	1	所長
	社会福祉簿講座(中級)	2014/9/8・9	ふくし交流プラザ	1	事務員
	平成26年福祉サービス苦情解決セミナー	2014/9/16	ふくし交流プラザ	1	サビ管
	社会福祉法人新会計基準研修会	2014/9/24	ふくし交流プラザ	1	所長補
	平成26年度第1回発達障害者就労支援セミナー	2014/10/31	県民文化ホール	1	所長
	企業防衛の為にマイカー通勤・自転車通勤リスク管理セミナー	204/11/14	サンピア	1	所長補
	第44回中国・四国社会就労センター協議会職員研修会	2014/11/20・21	ホテルサンシャイン徳島	2	所長、所長補
	平成26年度高次脳機能障害支援地域研修会	2014/12/20	中央東福祉保健所	2	所長、サビ管
	ストレスケア「自分のこころの5つのエネルギーバランスを知ろう」	2015/1/21	県民文化ホール	1	サビ管
	平成26年度高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	2015/2/5・26	ふくし交流プラザ	1	サビ管
	平成26年度高知県身体障害(児者施設協会作業部会・	2015/2/12	高知共済会館	2	所長、長補
	平成26年度自殺対策・うつ対策事業普及啓発演説	2015/2/16	中央東福祉保健所	3	所長、導員
	平成26年度高知県身体障害(児)者施設協会・高知県社会就労センター協議会・高知県共同受注窓口運営協議会合同職員研修会	2015/2/20・21	サウスブリーズホテル	8	所長、所長補、サビ管、指導員、事務員
	平成27年度社会福祉施設総合保険制度説明会	2015/2/18	ふくし交流プラザ	2	所長補、事務員
	ストレスケアコミュニケーション能力を高めて相手の心に寄り添う手法」	201/3/17	県民文化ホール		サ管

【施設内研修】	研修内容	実施年月日	会場	人数	対象者
	職場研修担当者研修会	2014/6/9	南国市立スポーツセンター	1	所長補
	エルダー研修会	2014/6/9	南国市立スポーツセンター	1	指導員
	サービス管理責任者研修会	2014/6/19	南国市立スポーツセンター	1	サビ管

施設長(補)研修会	2014/6/25	南国市立スポーツセンター	2	所長、所長補
職場研修担当者研修会	2014/7/9	南国市立スポーツセンター	1	所長補
職種別研修会	2014/7/31	南国市立スポーツセンター	1	事務員
エルダー研修会	2014/8/13	障害者支援施設こくふ	1	指導員
施設長(補)研修会	2014/8/20	南国市立スポーツセンター	2	所長、所長補
施設長(補)研修会	2014/8/21	障害者支援施設こくふ	1	所長補
サービス管理責任者研修会	2014/8/27	南国市立スポーツセンター	1	サビ管
施設長(補)研修会	2014/9/10	障害者支援施設こくふ	2	所長、所長補
職種別研修会	2014/9/24	障害者支援施設こくふ	1	事務員
施設長(補)研修会	2014/10/15	サザンシティーホテル	2	所長、所長補
施設長(補)研修会	2014/12/12	サザンシティーホテル	2	所長、所長補
サービス管理責任者研修会	2014/12/18	障害者支援施設こくふ	1	サビ管
エルダー研修会	2015/1/14	南国市立スポーツセンター	1	指導員
職種別研修会	2015/1/22	南国市立スポーツセンター	1	事務員
職場研修担当者研修会	2015/1/28	南国市立スポーツセンター	1	所長補

(3) 業務改善提案表彰制度を活用し、施設内・外の作業(業務)内容についての手法や手順、作業環境および安全管理に対して常に問題意識を持ちながら、改善を図り、利用者支援の向上と業務の省力化を図った。

- ① 平成26年度の改善提案件数は3件であった。
- ② 諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

ア 施設運営関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の授産及び活動予定 ・利用者の出欠状況、健康状態の把握、注意事項の確認 ・職員の動きと仕事の流れ、業務連絡事項、家族調整の予定、課題など
職員会	月1回程度	12	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議(利用者全員対象、入所時、入所3ヶ月、6ヶ月毎) ・施設運営全般に関する連絡、報告、調整会議 ・出張報告・業務改善 ・利用者工賃の評価、決定その他
安全衛生委員会	月1回	12	有	所長 所長補	<ul style="list-style-type: none"> ・労衛生働安全法第19条に基づく、職員の安全と保健衛生に関する協議
調整会	月1回	7	有	所長 サービス管理責任者 所長補	<ul style="list-style-type: none"> ・各ゾーンの近況報告 ・各ゾーンの行事予定

虐待防止委員会	2月1回	5	有	所長 所長補	・こくふ福祉の村における利用者に対する虐待防止のため、虐待防止に関するマニュアル作成、研修検討、啓発活動の検討などを行なう
就労部会	年4回程度	4	有	所長、所長補、 サービス管理責任者、職業指導員	・就労事業所合同での課題、状況等意見交換

イ 利用者サービス関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
利用者との懇談会	月1回程度	12	有	利用者 全職員	・利用者、所長、職員との懇談会 ・利用者からの意見・要望・質問等に対して主に所長が回答する相互意見交換
食事委員会	年2回	2	有	所長 利用者 栄養士 サービス管理責任者	・食事に関する協議。利用者からの意見要望を聴き、毎日の献立や行事食に反映させる
こくふ地区施設運営委員会	相談受付月1回	12	有	—	・毎月1回、担当委員による相談受付
	定例会年3回	2	有	所長	・定例会は第三者委員4名が出席し、相談内容等を協議

2 利用者が安全で安心して利用することができる環境整備の充実とその維持管理に努めた。

(1) 施設・設備の充実とその維持管理に努めた。

- ① 施設内の整理整頓および清掃による環境美化に努めた。
- ② 四季の花を植え、快適で潤いのある生活環境を作るよう努めた。
- ③ 室内の温度、湿度空調設備などの管理を適切に行い、快適な日常生活が送れるよう努めた。
- ④ 冷暖房による室温管理に注意を払うとともに、感染症予防のための清掃・消毒および手洗い、うがい励行の促進に努めた。ノロウイルス対策としては、11月から3月までの毎週1回、次亜塩素酸ナトリウムを使用したモップかけ、雑巾がけを行った。
- ⑤ 設備の保守点検は、自主点検や外部委託により実施した。
- ⑥ 施設、設備の利用にあたっては、「施設利用にあたっての留意事項」を提示し、協力を要請した。
- ⑦ 施設の修繕工事
耐震対策として、全ての窓ガラスに飛散防止フィルム貼りを行った。

(2) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策の徹底をはかった。

- ① 非常災害時に備えて、地域の方々の支援を仰ぐため、地域住民との連携を深めるように努めた。

② 総合的な防災訓練、避難訓練を実施した。その内容は次のとおりであった。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/21							12/3			3/12	3
消火訓練		5/21										3/12	2
夜間通報訓練								11/14					1
図上訓練													0
夜間訓練													0
防災地震訓練									12/3				1

③ 施設の内外に発生する傷害事故などの予防に努めた。

④ 施設設備の管理や防災上で重要な場所、または火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。

⑤ 施設設備の点検は別に定める方法で行い、改善の結果は、施設全体に公表した。

⑥ 利用者の入所時には、「火災及び災害時の心得」を提示して理解と協力を求めた。

⑦ 害虫駆除（鼠・ゴキブリ）を定期的に行った。

⑧ 喫煙場所は屋根のある屋外とし、受動喫煙や分煙対応に努めた。

3 就労支援活動と自立生活へ向けての生活支援に努めた。

(1) 個別支援計画に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

① 利用者個人個人に応じた個別支援計画の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて、その見直しを行った。

② 作成した個別支援計画は、利用者およびその扶養義務者に十分な説明を行い、かつ、計画書のコピーを渡し、納得を得よう努めた。

③ 職員は、利用者およびその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らしてはならないこととした。

④ 利用者の入・退所に伴い、医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。

⑤ 利用者や家族の関係など、利用者が抱えている悩み・不安の解決やその調整に努めた。

⑥ 利用者の日常生活や社会生活上の相談助言など、ケースに応じた必要な支援を行った。

⑦ 利用者の健康状態に応じて、主治医のいる受診病院等に同行し、情報提供と共に健康維持、管理上の所見を得て支援した。

⑧ 就労を希望する利用者に対して、関係機関と連携をとりながら、その支援を行った。

(2) 苦情解決の窓口は次のとおりであった。

① 当施設等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために、「こくふ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱（1か所）を設け、苦情等の受付の他毎月1回利用者の相談日を設けた。意見箱への投稿0件、個別相談は5件であった。

② ①のほかに次の苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情の受付、解決にあたることにした。

苦情解決責任者	所長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

(3) 利用者の自治会（わかば会）の活動尊重

ウィール社は、地域で生活する利用者の方の生産活動の場である。社会人としての義務と責任を果たし、職員と対等の立場で意見交換をしながら、お互いに成長していくことを目標にして活動を尊重し支援している。行事の買物や銀行での通帳出し入れ等の支援は行っているが、主体は自治会であることを常に意識した活動を促進している。

(4) 車椅子給付および修理手続き

高齢化と身体機能の低下、また障がいにより歩行機能が低下している方が多くなっている。支給された車椅子が安全に安心して乗れているかチェックを行い、必要に応じて車椅子給付や修理手続きの支援を行った。

(5) 地域住民、施設ボランティア等との交流を深め、地域社会の一員としての自覚を促すため、地域のイベントへ参加した。また、外出を通じて親睦を深め、利用者の気分転換を図った。年間行事は、次のとおり行った。

時 期	行 事	備 考
平成 26 年 3 月 19 日	春の法要	敷地内にある祠の供養を行うと共に、利用者・職員の安全と健康を祈願した
4 月 2 日	花見（早明浦ダム）	ウィール社から、いの町を經由し、早明浦ダムまでのドライブを行った。ダム周辺での食事や散策、地元の直産市場、ファーストにも立ち寄り、花見外出を楽しんだ。
9 月 20 日	こくふ福祉の村まつり	利用者、家族、職員、地域住民、ボランティア等が参加をし、地域交流の一環としての相互理解を深めた。
9 月 25 日	秋の法要	敷地内にある祠の供養を行うと共に、利用者・職員の安全と健康を祈願した
10 月 5 日	南国ボランティア DAY	地域交流活動の一環として、希望者が参加をした。ウィール社は焼き芋とポップコーンを販売した。
10 月 24 日	日帰り研修 (愛媛県砥部動物園)	愛媛県の砥部動物園まで外出し見学した。仲間同士でグループになり、集団行動で自由に動物園内を散策し、普段作業に従事している利用者の気分転換をはかった。
10 月 30 日	熊野神社大祭	地域の神祭行事に参加した
12 月 25 日	クリスマス・忘年会	地域の方を招待し、ゆっくりと食事をとり、ビンゴゲームやカラオケ、ポッチャ等のレクリエーションを楽しんだ。一年間の労をねぎらい互いの親睦を深めた。

(6) 施設見学希望者には、その都度対応し説明を行った。また、実習生に関しては、福祉を学ぶ学生に対して、現場実習訓練の場を提供した。

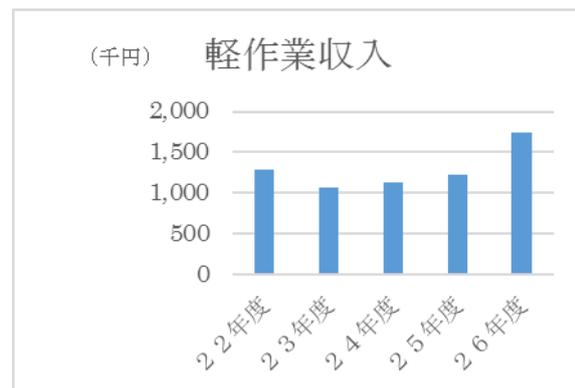
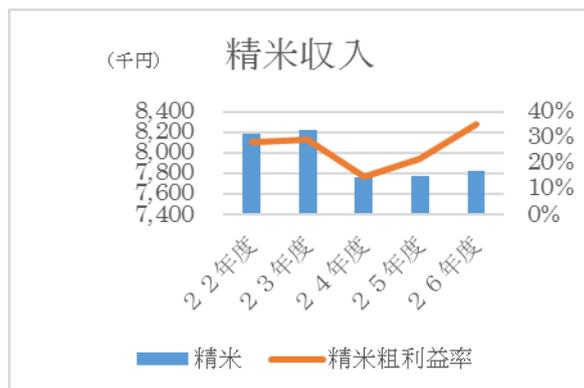
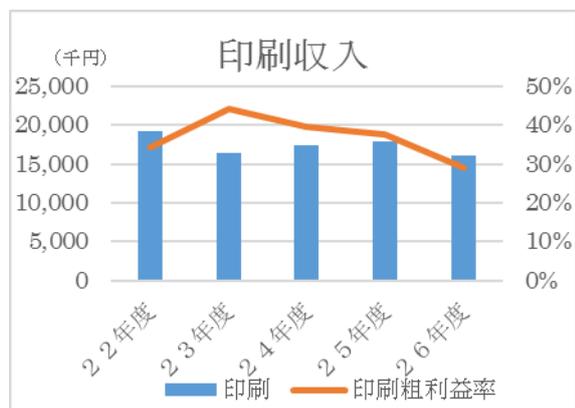
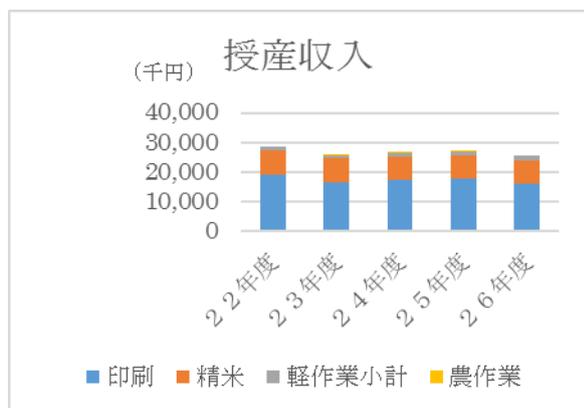
4 就労支援活動

(1) 授産事業売上実績

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
印刷	19,254,300	16,457,107	17,348,249	17,996,477	16,037,048
精米	8,183,600	8,226,060	7,760,720	7,773,551	7,816,029
煎茶	362,460	354,667	318,542	347,175	325,946
浜幸	152,426	95,426	87,462	48,800	181,299
ミニパック	358,899	224,685	174,891	382,516	366,632
高生連	64,600	57,052	56,491	60,146	57,579
和光製紙	62,833	50,096	106,942	232,261	224,951
やまくに				110,255	425,205
ヘイワ原紙	118,368	240,000	316,800		
その他	168,316	41,781	72,417	49,050	159,515
軽作業小計	1,287,902	1,063,707	1,133,545	1,230,203	1,741,127
農作業		14,920	66,906	72,880	
合計	28,725,802	25,761,794	26,309,420	27,073,111	25,594,204

印刷粗利益率	34.4%	44.3%	39.8%	37.8%	29.1%
精米粗利益率	28.3%	29.0%	14.4%	21.6%	35.1%

収支差額	1,392,327	-1,254,764	-15,140	578,121	-604,140
------	-----------	------------	---------	---------	----------



(2) 軽作業

① 作業内容

個別支援計画に基づき軽作業を行っている利用者は、ウィール社を利用されている 24 名中 13 名であり、全体の半数近くにあたる。これらの利用者の障害は脳血管障害や、頭部外傷等による右片麻痺、左片麻痺、四肢障害、脳性麻痺による両下肢障害、知的障害、精神障害等、それぞれの障害特性を持っている。

この障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施した。障がいのカバー、補助する手立てとして作業用自助具（滑り止めシート、片手シール貼り用自助具等）の活用や工夫をし作業効率や流れが円滑になるよう努めた。過去 5 年間でも最も多い受注売上となり、前年比 141%であった。利用者確保の関係を考えると、この状態を継続できるものにしたい。

作業内容としては、衛生用品、ティッシュ、砂糖、日本茶の袋詰め、ゼリーの帯かけ、割りりこ作業、石灰の袋詰め等であった。

② 作業内容別の状況

(ア) ミニパック（衛生用品）

突発的な作業依頼も多いが、納期までに消化する姿勢が定着し、安定した売り上げを保っている。

(イ) 高生連（砂糖）

毎年ほぼ同じぐらいの受注量であり、間隔を置いた作業として行っている。

(ウ) 浜幸（ゼリー）

5 月～8 月期間商品のゼリーの帯かけ作業の注文が大幅に増加し、収入増となった。

(エ) 和光製紙（ティッシュ）

多くの利用者が作業に携わっており、単価は低いが受注・売上は安定している。

(オ) やまくに（いりこ）

平成 25 年度より始まった割りりこの新しい作業。安定した作業量があり、軽作業の中心的な存在となりつつある。

(3) 精米作業

① 作業内容

精米作業は、精米器の組立、玄米を精米器に投入、精米した米の検品、袋詰（5k、10k、20k）、ぬかの袋詰、保管庫へ搬入、精米器の分解清掃の手順で行われる。その過程で、精米器の組立以外の作業を利用者が係って行う。

② 売上状況

平成 24 年度以降売上げは持ち直しつつあり、26 年度は原価が下がった要因により粗利益率は大幅に伸びた。

(4) 印刷部門

① 作業内容

受注した印刷物は、編集科での入力・デザイン・編集・校正作業を経て、印刷科で印刷仕上げ作業を行う。利用者はその過程で、入力・検品・機械操作など障害特性や能力に応じて作業を行う。

② 売上状況

過去5年間の売上を見ても状況は悪く、売上・粗利ともに減少している。26年度は、県からの受注が少なく、減少分に対する新規開拓が伴わず売り上げは予想以上に落ち込んだ。また、見積価格の不適も考えられる。

5 平成26年度利用者の在籍状況および理由別入退所状況（毎月初日現在）

区分 月	毎月初日現在 在籍者数	入所前の状況						退 所 理 由								
		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	その他	計	社会復帰		家庭復帰	医療機関入院	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	死亡	その他	計
								就職	自営							
26年 4月	24	1					1									
5月	24															
6月	25	1					1									
7月	25															
8月	25															
9月	26	1					1									
10月	25														1	1
11月	25															
12月	25															
27年 1月	25															
2月	24											1				1
3月	25	1					1									
計	298	4					4					1			1	2

6 支援実施の状況と献立

(1) 利用者の状況

① 利用者性別・年齢別構成状況 (平成27年3月31日現在)

区 分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	3	0	3
30～39歳	1	3	4
40～49歳	4	1	5
50～59歳	6	0	6
60～69歳	5	1	6
70歳以上	0	0	0
計	19	5	24
平均年齢	50.0歳	41.0歳	48.1歳

② 手帳の交付状況 (受給者証障害種別) (平成27年3月31日現在)

【身体】 身体障害者手帳		【知的】 療育手帳		【精神】 精神障害者保健福祉手帳		計
1級	7	A2	1	2級	2	24
2級	5	B1	1			
3級	4	B2	2	手帳なし	1	
		手帳なし	1			
計	16		5		3	

③ 月別利用状況

平成26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者契約者数(人)	24	25	25	24	25	24	24	25	25	25	25	25	24.7
利用者延人数(人)	462	509	479	450	413	434	461	464	459	472	409	480	5,492
開所日数(日)	21	22	21	21	19	21	22	21	21	22	19	22	252
1日平均(人)	22.0	23.1	22.8	21.4	21.7	20.7	21.0	22.1	21.9	21.5	21.5	21.8	21.8
稼働率(契約者)	91.7%	92.5%	91.2%	89.3%	86.9%	86.1%	87.3%	88.4%	87.4%	85.8%	86.1%	87.3%	88.4%
稼働率(定員)	110.0%	115.7%	114.0%	107.1%	108.7%	103.3%	104.8%	110.5%	109.3%	107.3%	107.6%	109.1%	109.0%

(2) 基本的な日常作業訓練の指導・支援に努めた。

- ① 作業活動の指導方針は、個別支援計画に基づき実施した。
- ② 個人個人の実態を的確に把握し支援を行った。

(3) 医療、疾病の予防、健康管理とその保持に努める。

① 医療サービスの状況

- (ア) 時期に応じて自己管理の徹底を促した。
- (イ) 定期健康診断を行い、未受診者のないよう配慮した。
- (ウ) 加齢に伴う疾患（生活習慣病など）の予防とその対策に留意した。
- (エ) 保健衛生や健康に関する相談を受け付けた。
- (オ) 通院や入院は利用者やその扶養義務者の責任において対応の依頼をした。
- (カ) インフルエンザと施設内感染症発生時や、季節の変わり目などにおこりがちな集団疾患が発生したときには、施設だけでは対応困難が予想され、扶養義務者等の支援と協力を依頼した。

② 利用者が専門医師等の診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院、または次の協力病院において受診、治療を依頼した。

協力病院名	診療科目	所在地
J A高知病院	内科・外科・他	南国市明見字中野 526-1

③ 内部疾患だけでなく、未服薬者も加齢とともに血圧上昇がある。また、健康診断結果などから見ても、成人病予備軍となっている。

- (ア) 時期に応じ自分の健康は自分で守るという意識付けを行った。
- (イ) 健康に関する個人的な情報や疑問に対して、医師や看護師に気軽に相談できるよう努めた。
- (ウ) 月に一度、定期的に体重と血圧測定を実施し、健康状態と変化の把握に努め、対応をした。

④ 施設は就労支援活動を主とする場である。医療対策は、家族の対応や協力を得て行なった。

(4) 適切な食事の提供と健康の保持に努めた。

- ① 食事は外部委託しており、委託先業者の調理により提供した。
- ② 季節感ある食事や行事食、外食の工夫をして、食事の楽しみができるようにした。
- ③ また、所要摂取カロリーは、1食 550 kcal を基準とした。
- ④ 食品、調理場、その他器具などの衛生管理の徹底をはかった。
- ⑤ 給食費、栄養量、保健、衛生および食事摂取状況

(ア) 平成26年度各月の栄養量は、次のとおりである。

区 分	エネルギー Kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンB1 ug	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
平成26年4月	524	21.0	110	2.3	180	0.25	27
5月	552	21.7	120	2.6	201	0.31	32
6月	549	21.4	107	3.3	162	0.33	31
7月	546	21.9	106	2.2	200	0.32	33
8月	586	22.5	133	2.9	163	0.31	27
9月	559	21.2	100	2.8	201	0.33	29
10月	550	22.8	140	3.4	170	0.24	25
11月	528	21.3	97	2.9	201	0.31	30
12月	535	22.1	111	2.3	146	0.34	30
平成27年1月	533	21.6	129	2.5	175	0.34	26
2月	547	20.7	119	2.9	172	0.24	29
3月	538	21.3	109	2.6	209	0.23	25
平均	546	22.75	115	2.7	181.7	0.30	28.7

(イ) 嗜好の把握と献立反映状況

把握方法 嗜好調査 年 1回
 残滓調査 年 247回
 嗜好カルテ 有

(ウ) 食事委員会の実施状況

年2回、所長、利用者、サービス管理責任者、管理栄養士、委託先業者職員が参加をし実施している。

(エ) 食事環境に対する配慮として、季節に応じた献立や行事の飾り付けをし、食事が楽しく食べられるように工夫している。

(オ) 献立内容にあった食器の配慮を行い、食材にあった食器・丸皿・小鉢等を使用し食事に変化をつけている。

(カ) 栄養指導の状況

選択食の聞き取りや嗜好調査など、できる限り希望に沿った対応をしている。

継続支援B型ワークセンター ファースト

I 事業の統括

土佐厚生会の会是である、「愛情」・「奉仕」・「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努め、障がい者が働きながら地域において自立した生活ができるよう、主体的意欲と、作業能力を尊重した支援計画を作成している。利用される方々が安全で安心できる日常生活を営むことができるよう、各スタッフが連携を取りながら下記の目標の達成に努力をした。

1 活動援助

生産活動時間は、9時30分から16時の5時間30分とした。利用者個々の障害特性に配慮し、利用者本人の働く意欲と作業能力を尊重し、所得の向上を目指した作業の確保や生産に努めるとともに、一般就労を希望する方には資格取得と実習の支援も行った。

2 生産活動、健康管理

利用者個々の心身の健康状態を常に把握するとともに、日常生活を送るうえでの必要な金銭管理や対人関係の指導・援助を行いながら、自立した地域生活が送れるよう支援を行った。

3 個人情報保護法と虐待防止の遵守

個人の尊厳を旨とし、業務上知り得た利用者の個人情報は「土佐厚生会個人情報保護の基本方針」に従い厳重に管理し、利用者に対する虐待を防止するための必要事項を定めた「土佐厚生会虐待防止委員会運営要綱」を確実に遵守するとともに、虐待の防止に当たっては、「虐待防止マニュアル」に沿って、迅速かつ適切な処置を講ずるよう努めた。

4 環境の整備

安全で安心できる生産活動を行うために施設内外の改修、美化及び整理整頓に努めるとともに、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に努めた。

5 業務改善提案表彰制度への取り組み

施設内外の業務内容についての手法や手順、業務環境及び安全管理に対して常に気づきや問題意識を持ちながら、ムリ・ムラ・ムダをなくすための発想転換や創意工夫を行った。

II 事業の概要

1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上

(1) 利用契約の状況は次のとおりであった。

平成27年3月31日現在

区分	障害				合計
	身障	精神	知的	身障・知的	
契約者数	2人	4人	5人	1人	12人

(2) 職種、職員定数など配置基準を遵守し、優秀な人材の確保と職員の資質向上のための研修にも積極的に参加した。平成23年10月からは、所長がウィール社と兼務となった。

① 職員の配置状況は、次のとおりである。

平成27年3月31日現在

職種名	所長	サービス管理責任者	所長補事務主任	生活支援員	職業指導員	パート運転手	合計
	職員配置数	1(兼)	1(兼)	1(兼)	1	1	

- ② 提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、施設内研修を系統的且つ効果的な研修に参加をし、スタッフの資質向上に努めた。

事 項	実施年月日	場所または会場	人 数	対象者
第5回高障連研修会 「どこへ行きゆうニッポンのフクシ」	平成26年5月25日	ふくし交流プラザ	1	生活支援員
エルダー研修会	平成26年6月9日	南国市立スポーツセンター	1	生活支援員
サービス管理責任者研修会	平成26年6月19日 平成26年8月27日 平成26年12月18日	南国市立スポーツセンター 南国市立スポーツセンター 障害者支援施設こくふ	1	所 長
一般（新人）職員研修会	平成26年8月21日 平成26年10月16日、17日 平成26年11月19日 平成26年12月11日	こくふ藤の間 いのスポーツセンター こくふ藤の間 サザンシティーホテル	1	職業指導員
平成27年度社会福祉施設総合保険制度説明会	平成27年2月18日	ふくし交流プラザ	1	生活支援員

- ③ 業務改善提案表彰制度を活用し、施設内・外の作業（業務）内容についての手法や手順、作業環境及び安全管理に対して常に問題意識を持ちながら改善を図り、利用者支援の向上と業務の省力化を図った。（平成26年度、業務改善提案件数 5件）

- ④ 諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

ア 施設運営関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	当日の活動内容、出欠の確認 連絡事項伝達
職 員 会	月1回	12	有	全職員	施設運営全般に関する連絡、調整 個別支援計画
安全衛生委員会	月1回	12	有	所 長	安全と保健衛生に関する協議 業務改善提案審査
虐待防止委員会	2ヵ月1回	5	有	所 長	こくふゾーンにおける利用者に対する虐待 防止マニュアル作成、啓発活動の検討

イ 利用者サービス関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
利用者懇談会	月1回	12	有	利用者 全職員	利用者職員との相互意見交換会
施設運営委員相談日	2ヵ月1回 (奇数月)	6	有	—	年6回、担当委員（大豊町知的障害者相談 委員）による相談受付

2 利用者が安全で安心して作業や利用することができる環境整備の充実とその維持管理

(1) 環境の整備

- ① 銀不老豆の選別と碁石茶の袋詰めのために、作業部屋の設置と銀不老豆選別がしやすいように照明の設置をして作業環境を整えた。
- ② 施設内外の美化及び整理整頓に努めると共に、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に留意し、特に新型インフルエンザやノロウイルス等の流行期には感染症対策マニュアルに沿って適切な予防と対策を講じた。
11月～3月まで、毎週月曜日始業前に施設内の消毒を実施した。
- ③ 農作業で収穫した野菜の洗浄・水切りと苗作りに使用していない風呂場（ファースト入居以前はデイサービスで使用）のスペースを利用して室内でできるように改修を行なった。
又この後洗い場の汚れをなくす対応をした。

(2) 冬期における送迎車の安全運転管理

中山間の冬場の厳しい自然環境（積雪や早朝の道路凍結等）に対応するために、12月初旬から3月初旬までの約4ヵ月間、施設管理車両はスタットレスタイヤを装着させ、スリップ事故などの防止に取り組んだ。（平成26年度 送迎車事故0件）

(3) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策の徹底を図った。

- ① 非常災害時に備えて、隣接の「大豊園」との連携を深め、合同で訓練を実施した。防災、地震避難訓練等の実施内容は下記のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練	30日						29日						2
消火訓練	30日						29日						2
図上訓練													
夜間訓練													
防災地震訓練	30日						29日						2

- ② 施設整備の管理や防災上で重要な場所、または火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。
- ③ 業務上の各種マニュアルを整備して、利用者の安全、保健衛生の徹底に努めた。
- ④ 害虫駆除（ゴキブリ）を定期的に行なった。

3 就労支援活動自立生活へ向けての生活支援

(1) 個別支援計画書に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

- ① 利用者個々の特性に応じた個別支援計画書の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて見直しを行なった。
- ② 作成した個別支援計画は、利用者およびその扶養義務者に十分な説明を行い、同意の確認をした。
- ③ 行政機関等へ提出する申請書や書類への記入の手伝いや、就職の準備のための資格取得講習会への参加、実習計画を担当者で話し合い等、利用者が地域において快適に生活ができるよう支援を行った。
- ④ 平成26年度の一般就労（病院看護職）は1名であり、平成21年度の開所来3人目の一般就労となった。

- ⑤ 開所時は 3,000 円であった工賃を段階的に、10,500 円まで引き上げることができた。
- ⑥ 現在も同じ金額であるが、年度末において就労支援会計で期末手当として今年度に限りとしながらも就労意欲向上を目指し、若干ではあるが出勤率に応じて初めて利用者に渡すことができた。
- ⑦ 職員は、利用者およびその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人情報には他に漏らしてはならないことを徹底している。

(2) 苦情解決の窓口は次のとおりである。

- ① 当施設に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「施設運営委員会」を設置して、ご意見箱（1 か所）を設け、苦情などの受け付けのほか奇数月（年 6 回）には相談日を設けた。苦情件数は 0 件であった。
- ② 苦情解決責任者と申出窓口は次のとおりとした。

苦 情 解 決 責 任 者	所 長
苦 情 等 の 申 出 窓 口	生活支援員

(3) 利用者の生活支援

- ① 入退所に伴い、医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。
- ② 日常生活や社会生活上の相談助言等、ケースに応じた支援を行った。
- ③ 利用者の地域交流や趣味活動のため下記の行事を行った。

時 期	行 事	備 考
平成 26 年 4 月 4 日	春のクラブ活動・花見	香美市鏡野公園で花見を行う。昼食は各自に前もって渡した金額の予算内で好きなお弁当、デザート、飲み物を購入する。予算内で買物する体験を行った。
8 月 19 日	クラブ活動、バーベキュー	土佐町「おこぜハウス」でバーベキューをした。ファーストの畑で収穫した野菜等は事前に職員、利用者で準備をしていき、当日はおなかいっぱいおいしく食べた。
11 月 3 日	大豊町町民文化祭	地域の文化祭に参加してカレーライス、銀不老アイスの販売と地域の人々との交流をした。
12 月 2 日	あったかハートふれあい大会	れいほく地区福祉イベントに参加して、利用者 2 名が「一分間スピーチ」を行った。また、カレーライスや銀不老アイスの販売を行って地域の人々や他の事業所との交流をした。
12 月 24 日	クリスマス忘年会	一年間の労をねぎらい利用者と職員、地域保健師等の出席により会食、ゲームで親睦を深めた。計画、進行は利用者が行った。

(4) 利用者主体の自治会「シエル」活動尊重

地域で生活する利用者の方が社会人としての義務と責任を果たし、成長していくことを目標にして、主体的活動を尊重し支援している。作業時間内であっても、必要であれば自治会のために時間を設け、行事の買物や郵便局への自治会費入出金などの支援を行った。

4 支援実施の状況

(1) 利用者の状況

① 利用者性別・年齢別構成状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

区 分	男	女	計	身障	精神	知的	身障/知的
20 歳未満	2		2			2	
20～29 歳	1		1			1	
30～39 歳	2	2	4		2	2	
40～49 歳	1	2	3		2		1
50～59 歳	2		2	2			
60～69 歳							
70 歳以上							
計	8	4	12	2	4	5	1
平均年齢	34.5 歳	39 歳	36 歳	51.5 歳	40 歳	25.6 歳	41 歳

② 手帳の交付状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

身体障害者手帳		
等級	性別	年齢
1 級	男	53
2 級	男	50

身体障害者手帳・療育手帳			
等級	程度	性別	年齢
3 級	B 2	女	41

療育手帳		
程度	性別	年齢
B	男	16
B 2	男	18
B 1	男	27
B 2	女	30
B 2	女	37

精神障害者保健福祉手帳		
障害	性別	年齢
精神	男	30
精神	男	48

手帳なし		
障害	性別	年齢
精神	男	34
精神	女	48

③ 町別状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

性 別	町 村			計
	大豊町	本山町	土佐町	
男 性	2	1	5	8
女 性	1	3	0	4
計	3	4	5	12

(2) 基本的な日常就労活動の指導、支援に努めた。

- ① 就労活動の指導方針は、個別支援計画に基づき実施した。
- ② 個人個人の適性を的確に把握し支援を行った。

(3) 医療、疾病の予防、健康管理とその維持に努めた。

① 医療サービス状況

- (ア) 時期に応じて自己管理の徹底を促した。
- (イ) 定期検診を行ない、未受診者のないよう配慮した。
- (ウ) 加齢に伴う疾患（生活習慣病等）の予防とその対策に留意した。
- (エ) 保健衛生や健康に関する相談を受けた。
- (オ) 通院や入院は利用者やその扶養義務者の責任においてお願いした。

② 利用者が専門医師などの診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院または 協力病院において受診、治療をお願いしている。また、必要時には病院を訪問し、利用者の同意のもと直接情報を得ている。

協力病院名	診療科目	所在地
嶺北中央病院	内科・外科・その他	本山町本山 620

③ 内部疾患の方や、未服薬者も加齢とともに血圧上昇があり、健康診断結果などから見ても成人病予備軍となっている。

- (ア) 毎月体重測定、血圧測定を行ない、自己管理の意識付けを行うとともに、健康維持に努めた。

(4) 昼食と健康管理

- ① 昼食はお弁当を持参か、実費購入（店舗で購入のための送迎または弁当の発注）にて対応した。
- ② 国府寮診療所において健康診断の実施を行った。

5 平成 26 年度利用者の在籍状況および理由別入退所状況

区分 月	毎月1日現在在籍者数	入所前の状況						退所理由							
		家庭	医療機関	社会福祉施設(同種)	社会福祉施設(他種)	その他	計	社会復帰		家庭	医療機関	社会福祉施設(同種)	社会福祉施設(他種)	死亡	その他
								就職	自営						
26年4月	10														
5月	10														
6月	10														
7月	11	1					1								
8月	12					1	1								
9月	9										1				2
10月	9														
11月	10	1					1								
12月	11		1				1								
27年1月	13	1				1	2								
2月	12														1
3月	11							1							
計	128	3	1			2	6	1			1				3

6 授産活動

(1) 作業内容

障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施した。障がいカバー、補助するための作業用自助具（滑り止めシート、紙折り自助具等）工夫をして、作業効率や流れが円滑になるよう作業活動を行った。一つの作業を数名で行い、作業の役割や担当を決めて流れ作業により質の確保と効率化を図った。

作業内容としては、衛生用品、木工用品ペーパーがけ、シール貼り、掛け紙折り、農作業、野菜の販売、大豊町の特産銀不老豆の等級選別、ほこりチェックと袋詰めや碁石茶の20g、100g袋詰め、50g箱詰め、ティーバッグ箱詰め等を行っている。

(2) 作業内容別の状況

① ミニパック

作業種類は少なく単価は低いが、昨年より作業の受注が多く収入増となった。

② 菊水酒造

作業種類と量が増えたため、収入増となった。

③ ばうむ合同会社

マグネット作業のみとなり、受注回数が減り、収入減となった。

④ 農作業

畑で収穫した野菜を地域施設や個人に販売して、収入増となった。

⑤ 印刷

姉妹施設ウィール社の印刷（名刺、年賀状等）の窓口を行う。また障害者優先調達法により地域自治体等からの作業依頼があり、収入増となった。

⑥ 土佐の風

大豊町の特産である銀不老豆の選別や碁石茶のアウトレットや粉末等の袋詰め、セット詰めを行ったが、平成27年1月から銀の市に変更となり収入減となった。

⑦ 銀の市（大豊町銀不老生産組合）

平成27年1月から土佐の風よりの受託作業を引継ぎ行う。

⑧ 大豊町碁石茶協同組合

碁石茶の20g、100g袋詰め、50g箱詰め、ティーバッグ箱詰め等の作業と各種を仕入れて販売を行い、収入増となった。

⑨ その他

地域イベントでカレーライス、銀不老アイスの販売等を行った。

(3) 売上状況

詳細については下記のとおりである。

	25年度	26年度	変動額
ミニパック	316,783	376,564	59,781
菊水酒造	378,727	429,671	50,944
ぼうむ	49,980	27,760	△ 22,220
印刷	472,855	926,228	453,373
土佐の風	194,082	76,855	△ 117,227
銀の市	0	32,189	32,189
大豊町銀不老生産組合	0	19,645	19,645
大豊町碁石茶協同組合	139,153	224,996	85,843
碁石茶（個人）	166,360	65,385	△ 100,975
ハート	9,015	0	△ 9,015
農作業	99,760	194,280	94,520
その他	15,911	0	△ 15,911
合計	1,842,626	2,373,573	530,947

Ⅲ 今後への課題

- 1 平成 27 年 3 月末日、定員 10 名に対し利用契約者 12 名となっている。年度を通じての稼働率は 73.5%である。開所当時からの稼働率は、平成 21 年度 40.8%、22 年度 57.1%、23 年度 70.6%、24 年度 72.7%、25 年度 70.2%、26 年度 73.5%と増加している。3 障害の中でも精神の方が多く、通院や健康体調上、または知的な方では自宅の都合で休まれる方が多い。平成 27 年度は 13 名の契約人数と稼働率 80%以上を目指し施設経営の安定化を図りたい。
- 2 平成 27 年度の授産収入もプラス（黒字）を目標としたい。開所来のファースト全体の赤字はすぐに解消は困難であるが、単年度を黒字にすることを当分の間の目標にしたい。
- 3 中山間地域という、地理的・物理的な厳しい条件はあるが、ご利用者の工賃を小遣い程度から、生活費の一部となると感じとってもらえる収入としたい。平成 27 年度は 26 年度を上まわる工賃支給としたい。
- 4 現在の受託作業の多い授産活動から、多額な工賃アップは難しい。しかし少なくとも、通所されることに対する楽しい作業場づくり、仲間づくり、役割づくりと少しでも多い社会参加の機会づくりに努めたい。
- 5 嶺北地域から特別支援学校高等部に在学している生徒に対し、夏休み、冬休み、春休み等の日中を過ごす学童保育的支援がない。このため、卒業後の就労に対する準備支援と社会生活や仲間づくりの支援として、平成 26 年度は高等部入学前 1 名、在学中 1 名の計 2 名を受け入れ支援してきた。生活リズムの維持や日常生活の自立、就労への準備参加を目標として、今後も受け入れ、家族、地域相談支援員、地域行政、特別支援学校、ファーストが連携をとりながらやっていきたい。

障害者支援施設 あき

I 事業の総括

- 1 会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、「温かく迎え入れ、まごころを込めたサービスの提供」をスローガンとして、人権の尊重とプライバシーの保護につとめるとともに、利用者様の意向を尊重したサービスの提供を行った。
- 2 業務改善提案表彰制度により、提案された改善のアイデアを活用しサービスの質の向上に努めた。
- 3 法人研修や職場研修を重ね、施設外研修にも積極的に参加し、スタッフ一人ひとりが自身の能力を発揮できるよう人材育成に努めた。
- 4 スタッフの体制が十分に整わず、時間外労働の縮減には至らなかった。
- 5 利用者様の増員は大きな課題であるが、待機者数が低迷したため在籍者数は40名にとどまった。

II 事業の概要

- 1 利用契約状況、スタッフの配置状況、施設外研修への参加状況

(1) 利用契約の状況 (平成27年3月31日現在)

区分	6	5	4	3	2	1	合計
生活介護	25人	8人	4人	3人	0人	0人	40人
施設入所支援	25人	8人	4人	3人	0人	0人	40人

(2) スタッフの配置状況 (平成27年3月31日現在)

職種名	施設長	事務員	サービス管理責任者	理学療法士	医師	看護師	栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	その他	合計
職員配置数	1	1	1	1	1	3(1)	1(1)	1	21(11)	1(1)	6(6)	38(20)

(注) 臨時職員は () 書で再掲

(3) 施設外研修への参加状況

研修名	実施年月日	場所	内容及び目的	人員
中・四国身体障害者施設協議会第1回施設長研修会	5.27~28	鳥取県	運営管理上の諸問題についての情報共有と解決に向けた意見交換	1
施設長マネジメント研修会	8.6~7	東京都	施設長の役割と運営管理に必要な視点の理解、課題解決に向けてのスキルや経験値を高める研修	1
福祉サービス苦情解決セミナー	9.16	高知市	苦情の本質を理解したうえで解決を図ることはもとより、提供している福祉サービスの見直しや質の向上に向けた研修	2

サービス管理責任者指導者養成研修	10.1~3	東京都	サービス提供プロセスの管理習得や事例研究をと おとしての研修指導者養成研修	1
中・四国身体障害者施設協議会職員研修大会	10.9~10	山口県	障害者支援施設としての今後のあり方を探り、相互 の実践を理解し共有をはかる	2
施設長実学講座（特別編）	10.16~17	東京都	論理的思考力を高め、実践力の習得	1
ノロウイルス対策研修会	10.23	安芸市	実践的な実技実習と情報共有	5
中・四国身体障害者施設協議会支援職員研修会	11.5~7	高知市	実践的なサービス技術の向上と、災害発生時の判断 と行動力を養うための研修	5
サービス管理責任者研修	11.13 12.15~16	高知市	サービスの質の確保に必要な知識、技能を有するサ ービス管理責任者養成研修	1
第3回東部成年後見・日常生活支援事業調査研究会	11.19	田野町	成年後見制度等権利擁護の研修	1
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー	12.3~4	広島市	土砂災害を教訓とした防災気象情報とその利用に ついての学習等	1
特別養護老人ホームにおける看護リーダー養成研修	12.8~10	東京都	利用者の尊厳ある生活を支えるケアを指導するた めに必要な専門知識・技術の修得	1
第3回施設長実学講座	12.18~19	東京都	社会福祉法の見直しの動向と今後の施設運営管理 に向けたポイントの学習、適切な財務管理と中長期 計画の立案に向けての理解	1
給食施設関係者研修会	平成27年 1.10	安芸市	南海トラフ地震発生時の栄養・食生活ガイドライン の学習、ノロウイルスに関する Q&A、最近の食中 毒事例等の情報共有	1
上級リスクマネージャー養成講座	1.12~14	東京都	より実効性の高いリスクマネジメントの習得	1
介護福祉士が知っておくべきリスクマネジメントの視点	1.18	高知市	リスクマネジメントの基本的考え方と、事故事例を 用いて介護現場でのリスク軽減の対応方法の習得	1
相談員のためのスキルアップ研修	1.21、2.20	高知市	相談員業務の見える化と7つの専門機能及び相談 員の仕事力と役割の理解	1
第4回施設長実学講座	1.25~26	東京都	施設長としてのサービス管理を推進する視点、地域 との関係づくりや危機管理、権利擁護等の課題対応 力の習得	1
高知県障害者（児）施設協会生活部会	1.29	四万十市	サービスの質向上に向けての学習と情報共有	2
高知県障害者虐待防止・権利擁護研修会	2.5、2.25	高知市	障害者虐待防止の理解を深め、虐待を防止し障がい 者の権利利益を護っていくための具体的手法の習 得	1
高知県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	2.16~17	高知市	強度行動障害の特性の理解と適切な支援を実施す るための基礎研修	1
中・四国身体障害者施設協議会第2回施設長研修会	2.19~20	松山市	運営管理上の諸問題についての情報共有と解決に 向けた意見交換	1

2 リスクマネジメント対策の実施状況

(1) 総合的な防災訓練と避難訓練の実施状況

区分	月													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
避難誘導訓練		○			○						○		3	
消火訓練	○	○			○						○		4	
通報訓練		○			○		○						3	
地震訓練												○	1	
凶上訓練			○										1	
夜間想定訓練		○			○		○				○		4	
福祉避難所開設訓練				○									1	
その他の訓練							○						1	

(2) 施設内の事故防止を未然に防止するため、「ひやり・ハット報告」や「事故報告書」を活用し、要因分析と対策を実施して事故の予防と再発防止に努めた。

(3) 施設設備の管理や防災上の重要な場所または火気を扱う場所では、火元取締責任者を置き、責任体制を明らかにした。

(4) 業務上の各種マニュアルにより、利用者様の生命の安全、保健衛生の徹底に努めた。

(5) 施設に関する苦情やご相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「やながれ地区施設運営委員会」を設置して、目安箱による苦情の受け付けのほか、毎月1回外部の第三者委員による利用者様の意見聴取の機会を設けた。また、次のように苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情を受け付け、その解決にあたった。

苦情解決責任者	施設長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

(6) 平成26年度に寄せられた苦情等の概要は次のとおりであった。

区分	件数	左の内訳	
		施設内の問題	その他の問題
苦情等の申出窓口	2	2	0
やながれ地区施設運営委員会	0	0	0
福祉サービス困りごと解決委員会	0	0	0

3 日常生活や自立に向けての支援の実施状況

※日常生活プログラムは別表1のとおりである。

(1) 入浴回数、実施曜日、時間帯および入浴人員等の状況

(1 週間の実施状況)

入浴の方 法	一般浴	特 別 浴		入浴のできない者 への対応	
		ライナー浴	機械入浴		
入浴の回数など					
1人1週あたりの回数	2回	2回	2回	清 拭 更 衣 ドライシャンプー	
入浴実施曜日	火・金	火・金	火・金		
代替日（前年度実績）	なし	なし	なし		
時間帯	男	(火) 11:10~12:00	15:30~18:00		15:30~18:00
		(金) 10:10~11:10	14:00~16:30		14:00~16:30
	女	(火) 10:10~11:10	14:00~15:30		14:00~15:30
		(金) 11:10~12:00	16:30~18:00		16:30~18:00
対象者数	5人	8人	27人		
1回あたり入浴人員	5人	7人	22人		
1回あたり介助人員	5人	7人			

(2) 受診および入院の状況

① 月別受診件数

科目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科		15	7	10	7	10	12	17	17	9	8	6	9	127
耳鼻科		1	2	6	2	1	2	2	1	3	0	3	1	24
眼 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科		6	4	2	4	5	6	7	5	5	4	5	3	56
外 科		5	2	4	2	3	4	2	1	6	5	5	5	44
整形外科		1	1	1	1	0	2	1	0	1	1	0	2	11
泌尿器科		2	3	3	3	4	1	1	2	3	2	1	1	26
脳外科		0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	3
皮膚科		2	2	3	2	1	1	0	1	0	0	0	0	12
その他		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
歯 科		2	1	0	1	0	2	1	0	2	3	0	0	12
計		34	22	29	22	25	30	31	28	30	23	20	22	316

② 月別入院件数

科目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	内科		2	0	3	0	4	1	5	1	2	0	0	0
外科		1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4
精神科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計		3	1	3	1	4	1	5	1	2	2	0	1	24

(3) リハビリテーションの実施状況

職 種	人 員	勤 務 日、時 間
理学療法士	1人	月・木 (8:30~17:30) 火・水・金 (8:30~10:00、13:00~17:30)

(4) 給食業務は、業務委託業者と綿密な連携を図り実施した。

① 行事食のメニュー

行事名	メ ニ ュ ー
バイキング	おにぎり・サンドイッチ・シビの刺身・鰹のたたき・握り寿司 (エビ、玉子、鮭、穴子) 肉シュウマイ・サイコロステーキ・ フランクフルト・ハンバーグ・焼き鳥・鶏の唐揚げ・エビフライ・ カットケーキ・飲み物 (ジュース、アルコール類)
ラーメン屋台風	中華めん・ラーメンスープ (醤油、味噌、とんこつ)・トッピング (もやし、すまき、ねぎ、チャーシュー、コーン)・餃子・ 苺ムース・ジュース
年忘れ会	中巻き寿司 (五福、カルビ、サラダ、新香、鰻、シーチキン、 エビ胡瓜)・クロワッサンのサンドイッチ・エビフライ大・フ ランクフルト・ハンバーグ・鶏の唐揚げ・海老の天ぷら・さつ ま芋の天ぷら・焼き鳥・ケーキ・ドリンクバー (りんごジュ ース、オレンジジュース、飲むヨーグルト、炭酸飲料、紅茶、コ ーヒー、ココア)、アルコール類
新年祝賀会	皿鉢盛り合わせ・刺身盛り合わせ・すまし汁・お屠蘇・フル ーツポンチ・ドリンクバー (りんごジュース、オレンジジュース、 飲むヨーグルト、炭酸飲料、紅茶、コーヒー、ココア)、アル コール類

② 年間の給食費等の状況

期間	給食費（年額）	延べ利用者数（年間）	1日あたりの平均単価/人
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 3 月 31 日	12,218,333 円	14,860 人	823 円

③ 嗜好の把握と献立反映状況

嗜好の把握	回 数	献立への反映状況
嗜好調査	年 2 回	代替食・選択食
残滓調査	年 1,090 回	
給食懇談会	月 1 回	

4 文化的、社会的活動の実施状況

① 年間行事等

※安芸中学吹奏楽部演奏会は、10月13日の予定であったが、台風のため中止となった。

※感染症対策として年度途中から施設外出は控えた。

行 事 名	実施年月日	実施場所	参 加 者
花見	4月3・7日 H27年3月26・28・29・30日	安芸市内・芸西村	利用者様・スタッフ
外出	5月1・14・26・29・31日、 6月2・16・18・30日、 7月31日、8月18・23・28・30日	フジグラン野市・イオン高知・大山道の駅・牧野植物園・安芸市内	利用者様・スタッフ
レクリエーション大会	6月25日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
レクリエーション大会後の食事会	6月25日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
第30回 八流納涼祭	7月19日	多目的ホールほか	利用者様・スタッフ・ボランティア・地域住民
よさこい踊り子隊来園	8月2日	多目的ホール	利用者様・スタッフ・ボランティア
かき氷屋	8月14日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
彼岸法要	9月22日	八流荘2階	利用者様・スタッフ・住職
若草養護学校体験学習	10月15日	多目的ホールほか	生徒・教員・スタッフ
清水ヶ丘中学校体験学習	10月16日	施設内	利用者様・スタッフ・生徒
ラーメン屋台	10月22日	多目的ホール	利用者様・スタッフ・給食委託業者
年忘れ会	12月17日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
新年祝賀会	H27年1月1日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
節分豆まき	2月2日	多目的ホールほか	利用者様・スタッフ
彼岸法要	3月18日	八流荘2階	利用者様・スタッフ・住職

② 利便サービス

サービス名	内 容
買 い 物	利用者様の希望物品の買物代行（日曜日）
預金引出し	銀行が来園し、預金の預け入れや引出しを行う（火曜日、金曜日）
売 店	近隣商店の協力により菓子類を販売（木曜日）
衣料品販売	随時
図 書	定期的に市民図書館から本を借りる

③ サークル活動状況

サークル参加者

（平成 27 年 3 月 31 日現在）

利用者現員			参加者実人員			未加入者実人員		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
26 人	14 人	40 人	23 人	14 人	37 人	3 人	0 人	3 人

④ 運営・開催状況

（平成 27 年 3 月 31 日現在）

サークル	加入（在籍）人員			指 導 者	開催状況
	男	女	計		
珠のれん	7 人	5 人	12 人	スタッフ	月 2 回
園芸	3 人	3 人	6 人	スタッフ	月 2 回
絵画	5 人	8 人	13 人	スタッフ・ボランティア	月 2 回
生花	1 人	2 人	3 人	スタッフ・ボランティア	月 2 回
お茶	2 人	3 人	5 人	スタッフ・ボランティア	月 2 回
ふれあい	5 人	4 人	9 人	スタッフ	月 1 回
紙芝居	自 由 参 加			スタッフ	月 1 回
リズム	自 由 参 加			スタッフ・ボランティア	月 3 回
カラオケ	自 由 参 加			スタッフ	月 1 回
ビデオ	自 由 参 加			スタッフ	火・金
スポーツレク	自 由 参 加			スタッフ	月 1 回
生き生き	自 由 参 加			スタッフ	月 1 回

別表1
生活プログラム

サービス 区分	時間	日	月	火	水	木	金	土											
施設入所支援	6:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床											
	7:30	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食											
生活介護	9:00	自由時間	自由時	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間											
	10:00	テレビ 体操	テレビ 体操	テレビ 体操	テレビ 体操	テレビ 体操	テレビ 体操	テレビ 体操											
	10:15	リ ハ ビ リ	散髪 (月2回)	リ ハ ビ リ	入浴	リ ハ ビ リ	リズム音 楽 (月3回)	リ ハ ビ リ	懇談会 (月1回)	リ ハ ビ リ	入浴	絵画 (月2回)							
	11:00				ビデオ観 賞				集い (月1回)				ビデオ観 賞	珠のれん (月2回)					
	11:30																		
	12:15	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食										
	13:00	買物 (毎週)	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間										
	13:30	リ ハ ビ リ	生け花 (月2回)	リ ハ ビ リ	入浴	リ ハ ビ リ	季節行事 スポーツレク (月1回)	リ ハ ビ リ	売店 (毎週)	リ ハ ビ リ	入浴	園芸 (月2回)							
	14:00						紙芝居 (月1回)		移動図書 (月1回)				おやつ タイム	おやつ タイム	生き生き (月2回)				
	14:30						カラオケ (月1回)		おやつ タイム							おやつ タイム	おやつ タイム	おやつ タイム	
	15:00						生き生き ふれあい												
15:30																			
施設入所支援	17:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間											
	18:00	夕食	夕食	夕食	晩酌・夕食	夕食	夕食	夕食											
	22:00	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯											
	23:00	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯											

(注) この生活プログラムは、標準的なものであり、諸事情により内容が変更する場合があります。

別表 2

① 利用者様の傷害別人員・性別・年齢別

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

障害分類 区分	脳性マヒ	損 傷			脊髄マヒ	脳血管障害後遺	頭部外傷後遺症	リュウマチ	進行性筋萎縮症	その他	合計	左 の 内			
		頸椎損傷	胸腰椎損傷	脊髄損傷								精神病併発者	視覚障害保持	聴覚障害保持	
性別	男	4	0	0	1	0	11	2	0	0	8	26	4	1	1
	女	2	0	0	0	0	4	0	0	0	8	14	1	0	0
	計	6	0	0	1	0	15	2	0	0	16	40	5	1	1
手帳等級別	1 級	4	0	0	1	0	10	2	0	0	12	29	3	1	1
	2 級	2	0	0	0	0	4	0	0	0	4	10	2	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	計	6	0	0	1	0	15	2	0	0	16	40	5	1	1
年齢区分	20 歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20 ～ 29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	30 ～ 39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	40 ～ 49	2	0	0	0	0	2	0	0	0	5	9	2	1	0
	50 ～ 59	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	3	0	0
	60 ～ 64	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	6	0	0	0
	65 ～ 69	0	0	0	0	0	4	1	0	0	2	7	0	0	1
	70 歳以上	2	0	0	1	0	7	0	0	0	0	10	0	0	0
計	6	0	0	1	0	15	2	0	0	16	40	5	1	1	
傷害の類別比率(%)	15	0	0	2	0	38	5	0	0	40	100	—	—	—	

(注) 平均年齢 男性 55.6 歳 ・ 女性 64.1 歳

② 利用者様の主たる障害の原因の状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

障害の原因 性別	事 故					疾 病				合計
	交通 事故	労働 災害	その他 の事故	戦傷病 戦 災	小 計	先天性	後天性	その他	小 計	
男	1	1	2	0	4	4	18	0	22	26
女	0	0	3	0	3	3	8	0	11	14
計	1	1	5	0	7	7	26	0	33	40

③ 利用者様の身元引受人の状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合計
11 人	3 人	3 人	14 人	7 人	2 人	40 人

④ 利用者様の年齢の状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

	最年少	最年長	平均
男	22 歳	77 歳	56 歳 (55.6 歳)
女	47 歳	82 歳	64 歳 (64.1 歳)
全体	22 歳	82 歳	59 歳 (58.6 歳)

⑤ 利用者様の日常生活動作等の状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

介助区分	一部介助	全部介助	備 考
食事介助	7 人	16 人	一部：スプーン等を使用し、一部介助すれば食事ができる。 全部：臥床のままで食べさせなければ食事ができない。
排泄介助	5 人	31 人	一部：介助があれば簡易便器およびトイレでできる。 夜間はおむつを使用する。 全部：常時おむつを使用している。
着脱衣介助	1 人	34 人	一部：手を貸せば着脱できる。 全部：自分でできないのですべて介助を要する。
入浴介助	7 人	33 人	一部：身体を洗うときや、浴槽の出入りに介助を要する。 全部：自分でできないのですべて介助を要する。 特殊浴槽を使用している。
歩行介助	0 人	14 人	一部：付添が手や肩を貸せば歩ける。 全部：車椅子等への乗り移りに介助を要するが、自力で施設内を移動できる。
寝返り介助	3 人	26 人	一部：少し手を貸せば寝返りできる。 全部：1 人では寝返りできないのですべて介助を要する。
車椅子利用者数	40 人		
知的障害者数	6 人		※身体障害と重複
精神障害者数	5 人		※身体障害と重複
おむつ利用者数 (夜間のみ使用)	28 人 (1 人)		
褥瘡者数	0 人		

⑥ 利用者様の在籍状況および理由別入退所状況

区分 月	毎月初日の在籍者数	入所前の状況						退 所 理 由								
		家 庭	医 療 機 関	社 会 福 祉 施 設 (同 種)	社 会 福 祉 施 設 (他 種)	そ の 他	計	社 会 復 帰		家 庭 復 帰	医 療 機 関 入 院	社 会 福 祉 施 設 (同 種)	社 会 福 祉 施 設 (他 種)	死 亡	そ の 他	計
								就 職	自 営							
平成26年 4月	42															
5月	42															
6月	42															
7月	42										1					1
8月	41															
9月	41															
10月	41															
11月	41															
12月	41										1					1
平成27年 1月	40															
2月	40															
3月	40															
計	493										2					2

短期入所事業所 あき

I 事業の総括

当事業所は、障害者支援施設あきに併設されたもので、事業は障害者支援施設あきに準じて実施した。

II 事業の概要

1 職員の配置状況は、次のとおりであった。

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

職種名	所長	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	栄養士	事務員等	用務員等	合計
職員配置数	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	10(10)

(注) () 内は、兼務職員

2 短期入所利用者様に対する日常生活の支援は、障害者支援施設あき利用者への支援に準じて実施した。具体的内容は次のとおりであった。

(1) 安全で安心して生活できるように、事業所設備の維持管理と環境の保持に努めた。

- ① 基本的な日常生活の支援を行った。
- ② 自立生活を促進するために必要な支援と相談を行った。
- ③ 出来る限り在宅生活に準じた支援に努めた。
- ④ 適切な医療ケアと食事の提供を行い健康保持に努めた。

3 利用者様の状況は、次のとおりであった。

(1) 市町村別、年齢、性別等の状況

市町村名	年齢	性別	障害の程度区分	利用延日数
			区分	
安芸市	52	男	区分 6	232 日
安芸市	53	男	区分 6	33 日
安芸市	64	男	区分 3	252 日
安芸市	61	男	区分 3	8 日
計	4 名			525 日

特別養護老人ホーム 八流荘

I 事業の総括

- 職員は土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」を基本理念とし、利用者の立場に立った福祉サービスの提供につとめました。
- 職員は、事業体制と介護の質の向上をはかり、地域の拠点となる施設作りのために、行政、保健、医療、教育、その他の福祉サービスを提供する者との連携を密にし、地域住民の福祉ニーズに応えるようつとめました。
- ご利用者個々に対する介護計画に基づき、高齢者が安全で安心して自立した生活を送れるよう、各部署のスタッフが連携をとりながら、福祉サービスの提供につとめました。
- ①楽しい職場作り、②専門性への意識改革、③サービスの向上、④ご家族の安心、の目標に向かって、「連携して作る安心の輪」をスローガンに、事業達成につとめました。

II 事業の概要

- 良質の福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上をはかりました。

(1) 利用契約の状況は次のとおり。 平成 27 年 3 月 31 日現在

介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合 計
1 人	1 人	21 人	22 人	27 人	72 人

(2) 施設の利用月別稼働率は次のとおり。 (単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
93.0	92.2	91.7	89.7	93.2	93.5	91.2	91.0	90.5	90.8	90.6	91.4	91.6

(3) 職種・職員定数など配置基準を遵守し、優秀な人材の確保と処遇技術の質を高めるための職員研修を行い、その資質の向上につとめました。

① スタッフの配置人員は次のとおり。(短期入所を含む)

平成 27 年 3 月 31 日現在 (単位：人)

職種名 職員区分	施設長	施設長補(兼)	事務員	生活相談員	介護支援専門員	介護看護職員		管理栄養士	理学療法士(兼)	機能訓練指導員	医師	その他	合 計
						介護員	看護師						
正職員	1	1	1	1	2	25	3	1					35 人
臨時職員	常勤			1		11	2			1		2	17 人
	非常勤					5					3	3	11 人
年度末職員数	1	1	2	1	2	41	5	1		1	3	5	63 人

(調理業務は平成 23 年 6 月 1 日から業務委託したため、調理員数の掲載はありません。)

- (4) 提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、職場内研修を行い、ケースカンファレンスやパソコンネットワークによる情報の共有化により職員の意見交換や共通認識をもつことができました。また、次の研修および会議に職員が参加することで、知識技能の向上につとめました。

① 施設内研修

研 修 名	研 修 内 容	講 師	参 加 職 種
救命法講習会	普通救命講習・一般救命講習	安芸市消防署職員	全職種
医療基礎知識	腎臓の働きと検査	看護師長	全職種
医療基礎知識	たんの吸引について 検便キットについて	看護師長	全職種
褥瘡対策について	当施設の褥瘡の現状、対策について	看護師長	全職種
看取りケアについて	看取りケアとは 看取りに関する指針について	施設長	全職種
感染症について	食中毒、感染性胃腸炎 感染を予防するには	福留栄養士	全職種
事故対策について	福祉サービスのリスクマネジメント	施設長補	全職種
KYT 研修について	危険予知能力の向上	施設長補	介護職員
苦情について	苦情解決の仕組みについて	介護支援専門員兼 相談員	全職種
法人規定について	人事労務管理関係規定 法人関係規定について	施設長	全職種
虐待について	虐待防止の基本	介護主任	全職種
身体拘束について	高齢者ケアに関わるすべての人に	介護主任	全職種
感染症について	感染対策 ※八流ゾーン共有	ビデオ	全職員
看取りの研修会	看取りケアについて 看取りの事例について等	安芸総合病院 的場医師	全職員

② 施設外研修

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種
認知症ケア	三好春樹氏の『認知症講座』	介護職員
新会計研修	新会計基準移行実務について	事務職員
創傷ケア	褥瘡治療、除圧について、	介護職員、看護職員
社会福祉法人の地域貢献のあり方研修	社会福祉法人の地域貢献のあり方について	介護支援専門員兼 相談員
社会福祉法人合同視察研修	リスクマネジメント・人材育成について	施設長、介護職員、 事務職員、看護職員
指導職員研修（2日）	マネジメントの基本的枠組み、指導職の役割行動 OJT と職場の活性化について等	介護主任

ターミナルケア基礎研修	ターミナルケアの基礎、体制作り、ターミナル加算について等	介護職員、看護職員
第 63 回四国老人福祉施設関係者研究大会	福祉・介護に関する諸規定の動向について	管理栄養士
介護人づくり塾	自立支援型事例検討会、グループワーク・意見交換等	介護職員 機能訓練指導員
栄養士研修会	食事形態の見極め	管理栄養士
認知症ケア	はじめの一步	介護職員
感染症研修会	ノロウイルス対策研修会、実技演習・意見交換等	看護職員、 介護支援専門員
認知症ケア	高知県介護福祉士会第 2 回全体研修会 認知症ご利用者の生活を守るために	介護職員
福祉施設長専門講座	福祉施設長専門講座	施設長補
認知症実践者研修	認知症ケアの向上への取り組み	介護支援専門員兼 相談員、介護職員
滋賀県視察研修	淡海荘視察研修（看取りケア体制について視察） 草津市地域包括支援センターと訪問看護の視察 研修（在宅医療連携について視察）	施設長、介護支援専門員兼 相談員、介護職員、看護職員
施設機能訓練指導員研修	実務の進め方と注意点	機能訓練指導員
栄養士勉強会	摂食・嚥下障害の基礎知識について、情報交換	管理栄養士
介護研修会	インシデント、ヒヤリハット、クレーム適切な考え方、対応の仕方について	介護職員
相談員勉強会	看取りについて等	介護支援専門員兼相談員
県老協中間管理職研修会	中間管理職員の役割について等	介護職員
東ブロック介護職員勉強会（2回）	接遇・マナーについて、施設見学 基本なおむつのあて方について	介護職員
ユニットケア研修 前期（3日間）	ユニットケアの理念と意義、導入の過程、具体的方法、ユニットケア導入・運営計画演習等	介護主任、介護職員
ユニットケア研修 後期（5日間）	ユニットケア実施研修	
上級リスクマネジャー養成講座	リスクマネジメント概論、リスクマネジメント法律論、緊急時の初期対応、緊急時対応（演習）等	施設長補
看取りについての意見交換会	安芸市の現状と課題、今後の方向性等	施設長、看護師長
看護リーダー養成研修 （3日）	特別養護老人ホームにおける看護のあり方 利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 地域ネットワーク構築と人材育成への取組等	看護師長
介護支援専門員、相談員研修会	成年後見制度、職員接遇マナーについて 職員への伝達について、看取りについて等	介護支援専門員兼 相談員
社会福祉施設総合保険制度について	浜口保険事務所より説明	介護支援専門員兼 相談員、事務職員

(5) 諸会議等の開催状況は、次のとおりです。

① 施設運営関係

会議の名称	実施状況	記録	参加職種	会議の内容
職員会議	毎月1回	有	全職種	法人報告、出張報告、ミニ研修 各係からの提示課題検討
主任者会	毎月2回	有	施設長、施設長補、介護主任	各係から課題報告検討、調整 スーパービジョン
調整会	毎月2回	有	全職種	各部署からの議題検討等
安芸連絡会	毎月1回	有	やながれゾーンの主任クラス	ゾーンの報告、各部署の月間計画 ゾーン課題検討
安全衛生委員会	毎月1回	有	安全衛生委員	職員の労働安全・衛生
ゾーン調整会	毎月2回	無	施設長、施設長補、所長	ゾーンの議題検討、体制調整等
防災委員会	年2回 随時	有	防災委員	防災に関する全般の検討
事務会	随時	有	事務職 適宜施設長、所長	受付・事務としての問題点検討等

② 利用者処遇関係

会議の名称	実施状況	記録	参加職種	主な議題等
介護業務会	随時開催	有	介護職員・その他	介護職内の課題等検討
ケースカンファレンス	週6回程 随時開催	有	介護職員、機能訓練指導員、看護職員、管理栄養士、介護支援専門員(兼相談員)、その他	状況変化に合わせた対応変更 ケアプラン変更 事故予防対策
事故防止委員会	第3金曜日	有	施設長 施設長補 介護支援専門員(兼相談員) 看護師長、看護職員 介護主任、介護職員 管理栄養士 適宜事務職員 機能訓練指導員	事故予防対策と事故発生時の対策等
虐待防止委員会	第3金曜日	有		虐待防止法と虐待の理解・事例検討
身体拘束廃止委員会	第3金曜日	有		身体拘束廃止への取り組み
給食委員会	第2金曜日	有		献立、行事等の検討
感染症対策委員会	第2金曜日	有		感染予防、感染症発生時の対応検討
褥瘡予防委員会	第2金曜日	有		褥瘡予防対応策検討
痰吸引等安全対策委員会	1回/2ヶ月	有		施設長、施設長補、配置医、看護職員、介護主任、介護支援専門員(兼相談員)

2 ご利用者が安全で安心して日常生活を送ることができる環境の整備、充実とその維持管理につとめました。

(1) 設備の保守点検は、自主点検や外部委託の方法等により実施しました。

(2) 施設の修繕工事

設備の老朽化、劣化を起因とする修繕が増えてきたことにより、メンテナンス委託会社に予防のため点検を依頼し、大事とならぬよう早期の対応につとめました。

- ・自家発電機修理、部品交換工事
- ・新館エレベーター修理
- ・本館系統ウォーターチラー圧縮機交換工事
- ・新館浄化槽ポンプ取替工事

(3) 施設整備の改善、改修工事

現有の設備等の見直しを行い、処遇の向上、経費の削減、感染症対策、業務の省力化につとめました。

- ・エアーマット購入
- ・木風呂購入
- ・洗濯機
- ・加湿器

3 災害時に備えて、地域の方々の支援を仰ぐため、地域住民との連携を深めるようにつとめました。

(1) 総合的な防災訓練、避難訓練を実施しました。その内容は次のとおりです。

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導訓練		○			○						○		3
消火訓練	○	○			○						○		4
通報訓練		○			○		○				○		4
地震訓練												○	1
土砂災害訓練													0
図上訓練			○										1
夜間訓練		○			○		○				○		4
その他訓練	○												1

(2) 施設の内外に発生する傷害事故などの予防につとめました。

(3) 万一の事故発生を想定した事故防止対策会議を開き、問題点の把握と対策を検討し、事故の未然防止につとめました。

(4) 業務上の各種マニュアルを整備し、ご利用者の生命の安全の徹底につとめました。

4 自立した日常生活を営むことができるよう適切なサービスの提供につとめました。

(1) 相談

① 介護計画の見直しは、半年に1回、または、必要に応じて行い、作成した介護計画は、ご利用者およびそのご家族等に説明を行い、同意を得ました。

② 職員は、ご利用者およびそのご家族等の人権尊重、プライバシーの保護につとめるとともに、業務上知り得た個人の秘密は他に漏らしてはならないよう徹底しました。

③ 苦情解決の窓口は、次のとおりです。

(ア) 当施設等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために、「やながれ地区施設運営委員会」を設置し、苦情・ご意見箱は6カ所に設置しました。

(イ) アのほか施設には、次のような苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情の受付、解決にあたりました。

苦情解決責任者	八流荘施設長
苦情等の申出窓口	相談員：大町 裕子

(ウ) 平成26年度に寄せられた苦情・ご意見等の概要は、次のとおりです。

区 分	件数	左の内訳	
		施設内の問題	その他の問題
やながれ苦情等の申出窓口	6	6	0
やながれ地区施設運営委員会	0	0	0

④ 入所、退所および入退院などの手続きのほか、医療、保健、社会福祉等の社会資源その他関係機関への連絡、調整または支援を行いました。

⑤ ご利用者のご家族の関係または個々のご利用者が抱えている悩みや不安の解決やその調整につとめました。

⑥ ご利用者に対する、日常生活や社会生活上の諸相談、助言あるいは必要な支援を行いました。

(2) 介護

① 業務基準書に基づき、ご利用者の立場に立ったサービス提供につとめました。

② 身体拘束廃止への取り組みを、施設全体の重要課題としてここ数年取り組んできました。事故防止の観点からやむを得ない場合には、必要最小限の時間帯についてご家族等の理解と同意を得、安全ベルト等使用しました。また、職員の配置と補助具等により、身体拘束はゼロになるように努めました。

③ 虐待防止については、職員にアンケートを取り、実態把握に努めました。また、課題分析を行う中で目標を設定し、職員の意識向上に努めました。

④ 1回/月、一筆箋等の発送により、施設でのご利用者の様子をご家族へ伝えました。また、必要時には電話連絡を行い、ご家族との信頼関係の構築に努めました。

⑤ 褥瘡対策は委員会を設け、情報の共有をはかり予防に努めました。

⑥ 外来者による身だしなみや売店の開設などは、次のとおりです。

区 分	サービス事業の内容
散 髪	近隣の理美容店の協力を得て月2回実施
買 い 物	週1回（日曜日） 相談係が買物代行
衣料品販売	希望時、業者来園 展示販売

(3) 看護

① 医療サービスの状況

- (ア) 定期健康診断を行い、未受診者のないよう配慮しました。
- (イ) 特に加齢に伴う疾患（生活習慣病など）の予防とその対策に留意しました。
- (ウ) 保健衛生や健康に関する相談を受け付けました。
- (エ) インフルエンザや施設内感染症発生の予防につとめました。

② ご利用者が専門医師などの診察を必要とする場合は、ご本人の希望する病院又は協力病院において受診、治療できるよう配慮につとめました。

③ 受診および入院の状況は、次のとおりです。

(ア) 月別受診件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科	2	3	3	3	5	3	0	2	2	1	0	1	25
皮膚科	3	1	1	4	3	2	2	6	4	3	3	2	34
耳鼻科	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	15
眼科	3	2	2	1	1	1	1	2	1	2	2	1	19
精神科	3	4	1	4	1	4	0	4	7	6	6	5	45
整形外科	2	2	2	2	1	2	0	2	0	0	3	1	17
脳外科	5	5	5	3	4	2	5	2	3	5	3	3	45
内科	21	23	26	25	23	19	23	26	30	26	27	21	290
外科	1	2	0	3	4	6	1	3	2	2	4	5	33
泌尿器科	5	5	3	6	4	5	5	4	2	6	3	4	52
その他	3	2	3	1	1	1	1	0	0	0	0	0	12
計	49	50	48	53	48	46	39	52	52	52	53	45	587

(イ) 月別入院件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
内科	2	2	5	8	3	6	5	4	8	5	2	2	52
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	2	2	6	8	3	6	5	4	8	8	3	4	59

(4) リハビリ

① 機能訓練の運営態勢は、次のとおりです。

職 種	人員	勤 務 日、時 間
機能訓練指導員(柔道整復師) 常勤	1人	月～金 9:00～18:00

※総数 74 名の方に可動域訓練・ストレッチ・足踏み運動・立ち上がり訓練等の機能訓練を行いました。

(5) 給食

- ① 新鮮で季節感ある食材や行事を取り入れた食事内容としました。
- ② 新しい献立や季節料理、郷土料理を積極的に取り入れ、盛り付けや食器に工夫し食事の愉しみができるようにし、所要摂取カロリーは個人別に調整しました。
- ③ ご利用者と一緒に料理を作る機会としたおやつ作り、誕生会や行事等に取り組みました。

<おやつ作り>

- ・ホットケーキ ・お好み焼き ・ミックスジュース ・スイカ
- ・かき氷、綿菓子縁日風 ・デザートバイキング・栗入りぜんざい
- ・焼芋 ・ベビーカステラ ・どら焼き

<誕生会>

- ・2~3ヶ月毎に実施。見て楽しみ、おかわりが自由にできる皿鉢形式
- ・海鮮散らし寿司 ・天ぷら(実演) ・おむすびと秋刀魚塩焼き
- ・寿司(散らし・巻き)と刺身

- ④ ご利用者の日常的な体調や身体状況を常に把握し、摂食不良者にはご本人の嗜好に配慮し個別対応を行う等、個々に適した食事を提供しました。
- ⑤ 嚥下困難なご利用者には、医師、看護師および各部署が連携して食事内容や食事介助の方法に注意して事故防止につとめました。
- ⑥ 嗜好の把握および献立への反映

〔把握方法〕 嗜好調査 (年 2回)

- ・方法 アンケート・聞き取り(親和会や個別)
- ・残菜調査 (年1088回)
- ・嗜好カルテの作成や喫食状況の把握

〔反映状況〕 代替食 ・ 選択食

⑦ 食品、調理場その他器具などの衛生管理の徹底をはかりました。

⑧ 治療食(特別食)の提供

- ・食事の種類/ 常食・きざみ食(一口大・荒・中・細・ミキサー)、軟食、流動食、糖尿病食、高血圧食、心臓食、肝臓食、腎臓食、腎不全食、透析食、肥満食、貧血食検査食、経管栄養
- ・咀嚼、嚥下機能に合わせた食事、飲み込みやすく、見た目も普通食に近い形で食事ができるようにムース食の提供や粘膜への付着性を低くしたスライス法も行いました。

別表 1

利用者の状況

1 利用者の身元引受人の状況

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合 計
0	10	49	4	9	0	72

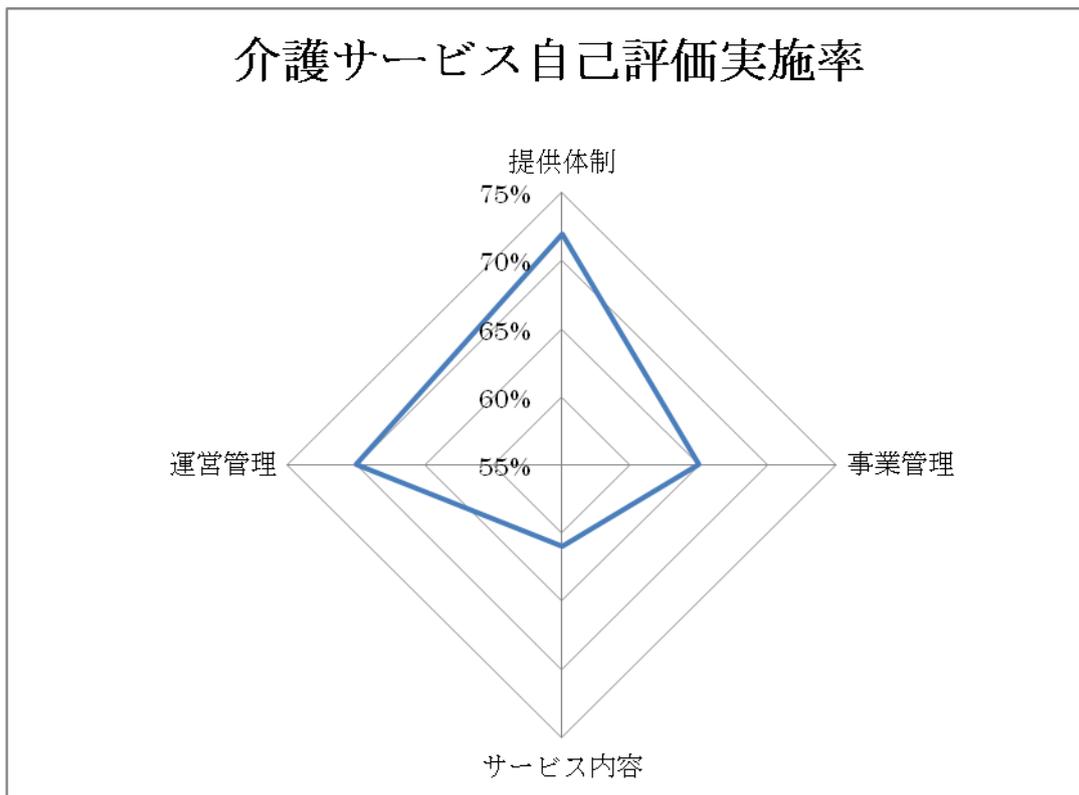
2 利用者の年齢の状況

	最年少者	最年長者	平均年齢
男	67 歳	91 歳	80.6 歳
女	71 歳	103 歳	88.7 歳
全体	67 歳	103 歳	87 歳

3 利用者の在籍状況および理由別入退所状況

区 分	初日 在籍者 数	入 所 者			新 規 入 所 者				退 所 者						当 月 在 所 延 人 数	当 月 短 期 入 所 延 人 数		
		県 内	県 外	入 院 在 籍 者	在 宅 か ら	病 院 か ら	そ の 他	計	社 会 復 帰	家 庭 復 帰	入 院	他 施 設	死 亡	そ の 他			計	
4 月	74	74			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2232	287
5 月	74	74			0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2288	270
6 月	74	74			1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2201	284
7 月	75	73		2	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	2225	327	
8 月	75	73		2	1	1	0	2	0	1	0	0	1	0	2	2311	285	
9 月	76	76			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2243	303	
10 月	74	72		2	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	2261	239	
11 月	73	73			1	0	0	1	0	0	1	0	2	0	3	2185	276	
12 月	72	71		1	3	1	0	4	0	0	3	0	2	0	5	2245	269	
1 月	75	74		1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	2252	248	
2 月	72	70		2	3	0	1	4	0	0	1	0	2	0	3	2029	212	
3 月	74	73		1	0	1	0	1	0	0	1	0	2	0	3	2266	244	
計	888	877		11	12	3	4	19	0	1	8	0	14	0	23	26738	3244	

大分類	○	△	×	計	実施率
提供体制	325	281	43	649	72%
事業管理	242	325	52	619	65%
サービス内容	400	703	135	1238	61%
運営管理	258	290	26	574	70%
合計	1225	1599	256	3080	66%



短期入所事業所特別養護老人ホーム 八流荘

I 事業の総括

この事業所は、特別養護老人ホーム八流荘に併設されており、事業は同施設に準じて実施した。

II 事業の概要

1 居室は、次の専用室を備え利用に供した。

居 室	室数	居室全床面積 (㎡)	1人当たりの面積 (㎡)
個 室	1 室	10.80	10.80
2 人部屋	2 室	33.50	16.75
3 人部屋	1 室	29.74	9.91
4 人部屋	1 室	36.00	9.00
合 計	5 室	110.04	—

2 職員の配置状況

(入所施設を含む)

(平成 27 年 3 月 31 日現在) (人)

職種名	施設長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	管理栄養士	機能訓練指導員	医師	その他	合計
職員配置数	1	2	1	2	41 (37.5)	5	1	1	3 (0.4)	6 (4.5)	63 (55.3)

※ () は常勤換算

3 短期入所利用実績

年間利用者数	年間延べ利用日数
71 人	3,244 日

デイサービスセンター やながれ

I 理念

会是である「愛情」「奉仕」「連帯」を基本理念とし、福祉サービスを利用される高齢者の方々に対して、個人の尊厳を旨とし、利用者の希望、置かれている環境、年齢及び心身の状況等に
応じた多様な福祉サービスを提供することにより、これらの人々が住みなれた地域で、社会の
一員として自立した生活をすると共に、社会、経済、文化、その他のあらゆる分野での活動等
に参加できるよう支援を行いました。

II 基本方針

- 1 高齢者の意向を尊重し、その人らしく、安全で安心して自立生活ができるよう介護、相談な
どの援助を行いました。
- 2 加齢に伴う心身の機能低下を防止するよう努めると共に、健康で心豊かな日常生活を送るこ
とができるように支援しました。
- 3 高齢者の方々の果たすべき社会的役割を促すと共に、社会的、文化的活動に参加できるサー
ビスの提供につとめました。

III 事業計画

重点目標：地域で信頼される事業所の確立。

【介護】

- 1 その方らしさを大切に、安心して在宅生活を送れるよう支援を行いました。
- 2 生活リハビリやレクリエーションを行い、日常生活動作の維持・向上を図りました。

【看護】

- 1 ご利用者の体調に応じて、健康チェックを随時実施しました。また必要に応じ、ご家族、
- 2 ケアマネージャー、医療機関との連絡を行い、疾病等の早期発見、早期治療に努めました。
- 3 感染症予防のための適切な対応及び対策の徹底を行いました。
- 4 ご利用者の希望や心身の状況に応じて歩行、移乗、立位保持、座位保持等の個別機能訓練を
行いました。

【相談】

- 1 積極的に地域の方々との交流を図り、地域に開かれた事業所運営に務めました。
- 2 機関誌やパンフレット配布による広報活動を行いました。
- 3 居宅事業所のケアマネージャーとの連携を強化することで稼働率の改善は見られましたが、
大幅な向上には至りませんでした。

事業所内研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加者
救命講習	普通(一般)救命講習	平成26年5月21日 平成26年6月25日	介護員 介護員
避難訓練	防災機器訓練	平成26年4月9日	介護員
	火災避難訓練	平成26年4月14日 平成26年8月13日	主任、相談員、看護師、介護員
	地震対策訓練	平成26年6月18日	主任
事故の発生や再発防止について	施設内の事故について、リスクマネジメント	平成26年4月8日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
健康管理について	バイタルサインとは意識消失時の対応について嘔吐時の対応について	平成26年5月8日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
送迎について	送迎時に困った事などの意見交換	平成26年6月12日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
認知症とは	認知症についての基礎知識、ケアの方法(事例検討)	平成26年7月22日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
感染症研修	ノロウイルス対策のためのDVD研修	平成26年10月16日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
身体拘束について	身体拘束がなぜ問題なのか	平成26年11月20日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
倫理について	倫理とは何か	平成27年1月22日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
プライバシー保護について	プライバシーとは何か プライバシー保護のために必要なことについて(事例検討)	平成27年2月13日	所長、主任、相談員、看護師、介護員
デイサービスについて	介護報酬改定をふまえての今後の方向性	平成27年3月12日	所長、主任、相談員、看護師、介護員

事業所外研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加者
介護人づくり塾	1. 通所介護事業所同士の意見交換、事業所見学 2. 高齢者虐待事例への対応方法についての研修会 3. 自立支援型事例検討会 4. 最新の創傷処置研修 Part1	1. 平成26年6月23日 2. 平成27年1月22日 3. 平成27年2月20日 4. 平成27年3月13日	1. 相談員、介護員 2. 相談員 3. 相談員 4. 主任、看護師
あき病院地域連携懇談会	新あき病院の概要と地域での役割。	平成26年7月18日	看護師、相談員
福祉避難所開設訓練	地震発生後の福祉避難所開設に向けた行政主催の訓練	平成26年7月30日	所長、主任
看取り視察研修 実際に取り組みをしている現場への視察。(滋賀県)	看取りを実施している施設の見学	平成26年8月19日～平成26年8月20日	主任
人を語らずして介護を語るな。	介護職員へ向けた講演	平成26年9月1日	介護員
認知症ケア	明日からすぐ使える認知症ケア	平成26年9月18日	主任、相談員、介護員
全国老人福祉研究大会	(分科会)在宅サービスの今後の方向性	平成26年10月27日～平成26年10月29日	相談員
相談員のためのスキルアップ研修	相談員業務の見える化と7つの専門機能	平成27年1月21日	相談員
デイサービスセンター一研修会	平成27年度介護報酬改定について・意見交換会	平成27年3月15日	所長、相談員

法人内研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加者
職場研修担当者研修会	社会福祉法人土佐厚生会の研修体制について	平成 26 年 6 月 4 日	主任
主任研修会	1.利用者満足度と職員満足度の向上にむけて 2.社会福祉法人の存在理由と施設における組織運営の原理 3.生産性の高い施設にするために 4.どのような施設にしたいのか 5.運営意識の醸成と生産性の向上について	平成 26 年 7 月 14 日	主任
	1.労務管理とモチベーションの向上 2.接遇とコミュニケーション	平成 26 年 7 月 15 日	主任
職種別研修	1.土佐厚生会の主体制について共通理解 2.各部門における年間計画 3.自施設での取り組みたいこと 4.各部門研修の課題について	平成 26 年 7 月 31 日	看護師
	1.利用者サービス向上のための取り組みについて 2.施設内の各部署との連携について～実践と課題～	平成 26 年 9 月 24 日	看護師
	各部門の年間計画について報告取り組みと今後の課題	平成 27 年 1 月 22 日	看護師
施設長、主任合同研修	人事考課について	平成 26 年 9 月 10 日	所長、主任
	1.社会福祉施設のリスクマネジメント 2.事故事例分析	平成 26 年 11 月 5 日	所長、主任
施設長・施設長補研修	法人一体経営とリーダーシップ	平成 26 年 6 月 25 日	所長
	人事管理と人事考課及び職員の士気向上について	平成 26 年 8 月 20 日	所長
	経営とサービスのリスクマネジメントと財務管理	平成 26 年 10 月 15 日	所長
	土佐厚生会の事業計画と部門計画の連動	平成 26 年 12 月 12 日	所長

行事の実施状況

実施月	行事名	実施月	行事名
4 月	お花見 苗植え	10 月	運動会
5 月	おやつ作り(はちみつカステラ) 赤野保育所園児との交流会	11 月	焼き芋
6 月	赤野カモメサロンとの交流会	12 月	年忘れ会
7 月	おやつ作り(フルーツゼリー)	1 月	新年会
8 月	縁日	2 月	節分(豆まき)
9 月	敬老会(穴内保育所園児との交流会) おやつ作り(綿菓子)	3 月	おやつ作り(ようかん)
その他	誕生会…随時 慰問訪問：よさこい鳴子踊り、ニコニコ一座講演 赤野公民館芸術祭への作品出展		

利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運営日数	30	31	30	30	30	30	31	30	30	28	28	31	359
延べ利用者数	284	310	359	337	296	300	334	347	385	349	345	378	4,024
延べ送迎数	565	619	717	671	589	600	665	694	765	698	689	755	8,027
延べ入浴数	213	250	308	276	236	246	287	302	322	291	284	314	3,329
延べ食事数	284	310	359	337	295	300	333	347	383	349	345	378	4,020
稼働率	37.9%	40.0%	47.9%	44.9%	39.5%	40.0%	43.1%	46.3%	51.3%	49.9%	49.3%	48.8%	(avg)44.9%

ホームヘルプステーション やながれ

I 理念

土佐厚生会（以下、「本会」という。）は会是である「愛情」「奉仕」「連帯」を基本理念とし、福祉サービスを利用される障害者や高齢者に対して、個人の尊厳、ご利用者の希望、置かれている環境、年齢及び心身の状況等に応じた多様な福祉サービスを提供することにより、これらの人々が住み慣れた地域活動等に参加できるよう支援に努めました。

II 基本方針

- 1 地域住民のニーズに応じた事業を継続かつ安定的に提供すると共に、経営基盤の強化に努めました。
- 2 個人の尊厳、社会的秩序（法令遵守）に努めると共に本会の基本理念である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を旨として、相互に切磋琢磨を怠らず、進んで研究、研修に努め、ご利用者の意向を尊重した適切な福祉サービスの提供に努めました。
- 3 職員は、地域福祉の拠点としての使命と役割を自覚すると共に、行政・保健・医療・教育、その他の福祉サービスを提供する者との連携を密にし、地域住民の福祉ニーズに即応できる事業所づくりに努めました。

III 事業計画取り組み

- 1 地域福祉の担い手として、長期に安定したサービスを提供するために、経営基盤の確立と強化に努めました。
 - (1) 地域住民の意向に鑑み、必要なサービスを提供すると共に、常にサービス内容の見直しを行い、適切なサービスが提供できるよう運営方法の改善に努めました。
 - (2) ご利用者、ご家族が住み慣れたご自宅で安全、かつ安心した日常生活が送れるよう支援するために、具体的な訪問サービス計画に基づき実施しました。
 - (3) 登録ヘルパーの確保については、職業安定所・新聞折込みチラシ・その他の関係機関等による募集活動に取り組み、2名の確保ができました。
- 2 個人の尊厳を保ち、希望される生活の実現を目指し、ご利用者サービスの質の向上に努めました。
 - (1) 笑顔で挨拶、心を込めた接遇に努めました。
 - (2) 毎週、全員参加のカンファレンスを開催し、個別介護方法の検討や職員相互の情報共有を密にするように努めました。
 - (3) ご利用者に自立した生活の継続を支援できるよう、職員相互の情報共有・技術の向上に努め、年間研修計画を作成し、サービス技術、法制度の理解、接遇、事故防止、事故・災害発生時の対応、感染症等についての研修を行いました。
 - (4) 高齢者の好む食材を使った調理法について、調理実習を計画的に行いました。

- 3 地域住民の福祉ニーズに即応できる事業所を目指し、努めました。
- (1) 潜在的ニーズやご利用者の満足度などを調査し、常に改善に取り組みました。
- (2) ご利用者及びご家族等からの苦情や相談には、誠意を持って敏速に対応、検討し、早期解決等に努めました。
- (3) 日頃から地域の行事等に参加し、広報活動に取り組みました。

IV 職員の資質向上を図るための研修

事業所内研修（全員参加）

	研修名	研修内容
技 術	調理実習	高齢者向け調理（いたどり・大豆サラダ・秋刀魚缶とオニオンソテー・ひじき寿司・春雨サラダ・炒め物・味噌汁・酢物等）
	新規採用職員研修	訪問の心得・事業所の基本方針・施設概要・職業倫理
	介護・接遇マナー・事例研修・介護方法	報告、連絡、相談・挨拶と言葉かけ・食事介助マニュアル・座位姿勢・各研修報告
	拘束・虐待	身体拘束・高齢者虐待についての理解
	認知症	認知症ははじめの一步・症状別対処の方法
	介護保険	法令遵守ヘルパーに求められる職業倫理と法令遵守
事故対応	救命講習	一次救命処置（心肺蘇生法）と AED の使用方法等（消防署員）
	感染症対策	ノロウイルスとインフルエンザ等
	事故対策	緊急時対応マニュアル・事例検討 危険予知トレーニング

事業所外研修

研修名	研修主催・場所	実施年月日	参加者
認知症はじめの一步研修	高知県社会福祉協議会 安田文化センター	26年6月19日	ヘルパー
高知県リハビリテーション研究大会	高知県リハビリテーション研究会 ふくし交流プラザ	26年7月6日	サービス提供責任者
法人合同視察研修	土佐厚生会 東京（先駆企業他）・福島	26年7月7-9日	サービス提供責任者
高齢者に多い精神疾患と認知症について研修	介護人づくり塾 あき総合病院	26年7月11日	所長・サービス提供責任者・ヘルパー
ワンコインセミナー	うえるば高知 障害者支援施設あき	26年9月4日	所長・サービス提供責任者・ヘルパー
人財育成研修	介護人づくり塾 安芸市会議室	26年9月19日	所長
安芸市ゆたかな看取りプロジェクト	安芸市 ホテルタマイ	26年10月11日	所長・サービス提供責任者・ヘルパー
サービス提供責任者研修	県ホームヘルパー連絡協議会 春野びあステージ	26年11月15日	サービス提供責任者
平成26年度第2回研修会	高知県福祉施設士会 オリエンタルホテル	26年11月18日	所長
企業防衛のためのマイカー通勤等リスク管理	あいおいニッセイ同和損害保険 サンピアセリーズ	26年11月23日	所長

いざという時に慌てない 救急講座	介護人づくり塾 安芸市防災センター	26年12月3日	所長・サービス提供責任者・ヘルパー
サービス提供責任者・初任者研修	県ホームヘルパー連絡協議会 ふくし交流プラザ	26年12月4日	所長
自立支援型事例検討会	介護人づくり塾 社会福祉センター	27年3月20日	所長・サービス提供責任者・ヘルパー
安芸市地域ケア会議	安芸市地域ケア会議準備会 安芸市市役所	27年3月20日	所長

V 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
ご利用者数	39	38	39	39	37	41	40	38	36	33	30	31	441
介護訪問(予防含む)回数	479	466	431	465	414	411	396	335	349	282	275	338	4641
保険外訪問回数	0	0	0	0	0	0	5	4	1	0	4	5	19

在宅介護支援センター やながれ

I 事業目標

- (1) やながれゾーン各事業所間での情報共有と共働を図り利用者の確保に努めました。
- (2) 地域に望まれ、地域に貢献できる事業所になるよう努めました。
- (3) 法人職員としての誇りと、やりがいを持って働ける職場作りをし、サービスの向上に努めました。

II 事業活動報告

- (1) 在宅支援部門連絡調整会を5、7、9、11、1、3月の第3金曜日に開催し、八流ゾーン介護サービス事業所間での情報交換を行い、サービス向上と利用者確保に努めました。
- (2) 安芸地域の行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センターなどとの情報交換会に参加し、地域との連携を密にするように努めました。
地域の公民館行事、民生委員の会へ参加し、地域住民との交流を図り地域の高齢者の困りごとなどの相談に努めました。
- (3) 移動時間、訪問予定の空き時間の有効活用を行い業務の効率化に努めました。
事業所内で事例の検討を行いよりよいサービス提供ができるように努めました。
ケアマネ定例会・地域の病院勉強会・安芸圏他職種合同研修会・高知県介護支援専門員会の研修に参加し各自の資質向上に努めました。

(4) 平成26年度 サービス作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	80	82	85	85	90	87	86	88	97	92	90	91	1053
予防	8	8	8	8	8	9	10	8	9	9	8	8	101

- (5) 新規契約件数（要介護） 47件
地域包括支援センターからの照会 39件
他事業所からの照会 6件
利用者本人からの依頼 2件

小規模多機能型居宅介護事業所 南風

I 基本方針

土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」を基本理念とし、福祉サービスを利用される障害者や高齢者に対して、個人の尊厳、利用者の希望、置かれている環境、年齢及び心身の状況等に応じた多様な福祉サービスを提供することにより、これらの人々が住みなれた地域で、社会の一員として自立した日常生活をすると共に、社会、経済、文化、その他あらゆる分野での活動等に参加できるよう支援に努めました。

II 事業総括

- 1 高齢者の在宅生活の継続を維持するため、本人や家族の変化に応じて、さまざまな介護サービスが切れ目なく提供できる地域の拠点となるように努めると共に安定した事業運営に努めました。
- 2 本会の基本理念である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を旨とし、相互関係を大切にし「その人らしい生活の実現」に向けチームワークで取り組みました。
- 3 提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、その評価を行い、又、結果を公表するなどに努めました。
- 4 地域福祉の拠点としての使命と役割を自覚し、地域から受け入れられ、地域活動や人々との関わりを持つことを積極的に努めると共に、住民や行政等との協働により「安心して暮らせる事業所」づくりを目指しました。

III 事業の概要

良質の福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実をと職員資質の向上を図るための職員研修を行い、その資質の向上に努めました。

1 職員配置状況

職種	人数	業務内容
所長	正職 1	事業全般の総括、勤務調整、職員育成、日常生活全般の援助補佐
介護支援専門員 兼介護員	正職 1	利用申し込み受付、契約、サービス計画の作成、担当者会議とサービスの調整、日常生活全般の援助、相談
看護師	嘱託 1	健康管理、通院介助等医療全般に関わるサービス及び日常生活全般の援助、相談等
介護員	正職 2 嘱託 9	日常生活全般の援助、相談等

2 職員の資質向上をはかるための研修等

(1) 事業所内勉強会

実施日	内容	参加者
H26 4	小規模多機能型居宅介護について	全職種 9名
5	業務改善について	全職種 9名

6	認知症について	全職種 10名
7	リスクマネジメント	全職種 12名
8	食事摂取、介助の基本、脱水予防、バイタルサイン	全職種 12名
9	KYT活動	全職種 11名
10	事例検討	全職種 14名
11	感染症について	全職種 14名
12	食べるを支援するを考える	全職種 14名
H26 1	事業計画について	全職種 13名
2	終末期について	全職種 11名
3	図上訓練（グループワーク）	全職種 10名
その他 ・ノロウイルス研修・・・2名		

(2) 事業所外研修会

実施日	研修主催	研修名	参加者
H26 6/19	高知県社協	認知症はじめの一步研修会	介護1名
6/25	高知県社協	新会計基準研修会	事務1名
7/16	あいおい損保	事例から学ぶ管理者の事故対応	所長
7/8～9	全国老施協	四国老人福祉施設関係者研究大会	看護1名
8/19～20	安芸市	安芸市看取りプロジェクト会議視察研修	所長
9/1	高知県老施協	「人を語らずして介護をかたるな2」	介護2名
9/4	うえるば高知	ワンコインセミナー	介護2名
10/11	安芸市	石飛幸三氏講演会	介護、看護5名
10/7～11	高知県	H26年度認知症介護実践者研修	介護1名
10/23	安芸保健所	ノロウイルス対策研修会	介護1名
10/27～29	全国老施協	全国老人福祉施設大会	所長
11/11	高知県社協	食べるを支援する基礎研修	介護1名
11/14	あいおい損保	「マイカー通勤、自転車リスク管理」	所長
11/18	県福祉施設士会	H26年度第2回研修会	所長
11/30	県看護協会	「移乗、移動のコツ」	介護2名
12/11	県小規模連絡会	小規模多機能連絡協議会勉強会	介護、看護3名
12/11	県老施協	社会福祉法人の社会貢献のあり方研修会	所長
H27年 1/10	高知県社協	姿勢管理 基礎研修	介護2名
2/7	県看護協会	「高齢者の end of care にて」	看護
3/8	地域ケア総合研究所	ケアプラン原案、個別介護計画作成研修	ケアマネ
その他 介護人つくり塾 6/23 1名 7/11 4名 7/18 1名 10/24 1名 11/13 1名 11/21 1名 12/2 6名 12/16 1名 1/22 1名 2/20 1名 3/13 4名			

(3) 事業運営関係

項目	実施状況	内 容	参加者
職員会議	月/1	情報の共有、出張報告、行事の起案、反省 事業計画、外部評価、施設運営全般の関する情報共有、検討課題等の意見交換	全職員
事故検討会	随時	事故検証その防止策、ヒヤリハット	事故対策委員
ケースカンファレンス	週/1	ケアプラン、事例検討	出勤者
業務改善会	随時	業務の課題、改善について検討	業務改善委員会
安芸連絡会	月/1	やながれゾーンの報告、月間計画の確認 ゾーンの検討課題	安芸ゾーンの各職種
安全衛生委員会	月/1	職員の安全、衛生に関する事	安全衛生委員
運営推進会議	2ヶ月/1	現況、活動報告、地域との協働について 防災対策、意見交換など	運営推進委員、その他
何でもしゃべろう会	月/1	利用者と職員との意見交換、アンケート調査	利用者 担当職員
家族との情報交換会	H26年 11/16	サービス向上に向けての情報交換会 家族からの悩み等聞き取り	職員9名 家族5名

IV 活動実施状況

実施日	内 容
H26、4/7～8	2日間に分けてのお花見（橋の元公園）
4/21～24	内原野公園への外出
6/16～24	外食、買い物（安芸市、香南市）
7/7	七夕まつり
8/29	縁日（安芸保育所、近隣事業所参加）
9/12	長寿を祝う会
10/14～23	個別外出（安芸市内）
10/26	ふれあいバザー 出店
11/6	浜弁当
11/28～29	焼き芋パーティー
12/2	日赤訪問
H27年 1/8	新年会（運営推進員委員会）
2/3	節分
3/2	ひな祭り
3/23～27	チューリップ見学
その他	5, 7, 8, 10, 11, 1, 2, 3月誕生会 6月、7月、9月、10月、11月買い物ウィーク

V 利用実績報告 (H26年4月1日～H27年3月31日)

1 登録者数及び営業日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
登録者数	15	16	16	15	14	15	17	16	19	21	21	19	平均 204
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	合計 365

2 月別サービス利用状況 (訪問：回数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	307	322	311	323	300	325	373	339	342	381	335	382	4040
宿泊	22	31	31	38	29	33	37	29	28	25	27	31	361
訪問	38	37	33	20	17	9	26	5	13	16	72	68	354
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	22

3 一日平均利用者数

通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス	その他
11.0	1.0	1.0	0.1

4 年齢別、介護度別利用状況 (人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
70～74歳	1	1				2
75～79歳			2	1		3
80～84歳		1		2		3
85～89歳	1	2	2			5
90～94歳	1	2		2		5
95歳以上		2				2
合計	3	8	4	5		20

*平均年齢 86.8歳 最高年齢 101歳 最低年齢 72歳

障害者支援施設 とさ

I 事業の総括

土佐厚生会の基本理念・基本方針を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、人としての尊厳を重んじ、利用者一人ひとりの想いに沿った支援を心がけました。また、利用者、家族等との信頼関係をさらに深め、安全で安心して豊かな生活を送ることが出来る体制づくり、環境づくりに努めました。

障害者総合支援法に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準に定める内容のほか、関係法令を遵守しました。

1 生活介護

生活介護を必要とする利用者に対し、昼間において入浴、排泄、食事等の介護を行うとともに創作活動等の機会の提供を図り、日中活動の充実に努めました。

2 施設入所支援

施設入所支援を利用する利用者に対し、昼間実施する生活介護の提供日・時間以外の夕方から翌朝における夜間等での生活を中心とする健康管理、排泄、食事、その他日常生活の支援に努めました。

II 事業の概要

1 質の高いサービスの提供に努めました。

- (1) サービスにあたっては、法令に沿った人員配置を維持して提供しました。(別紙1)
- (2) サービス管理責任者が中心となり、アセスメント、生活支援検討書作成、生活支援計画書作成、利用者への説明と承諾、支援実施モニタリングのプロセスごとに、チームアプローチを行う事により、利用者の状況やニーズ等をチーム全体として把握し、利用実施していない内容については、少なくとも6ヶ月に1回はサービス内容が適切か、また計画にそったサービスが行われているか等について評価を行いました。
- (3) 実施していない内容については、少なくとも6ヶ月に1回はサービス内容が適切か、また計画にそったサービスが行われているか等について評価を行いました。
- (4) 日常の支援を客観的にみて、ケアプランにそって提供されたサービスに効果が認められなかった場合は、再度、アセスメント修正やケアプランの修正を行うなどサービス提供体制の検討とサービス提供職員の資質や専門性の向上等への取組に努力しました。(別紙2)
- (5) 施設内のルールやハード面についても利用者に配慮した対応を心がけました。

2 事業の運営体制の充実に努めました。

- (1) 諸制度の見直しを把握しながら、事業運営の安定を図れるように努めました。サービスの充実に図るためにサービスの基盤整備を図れるように努めました。
- (2) 報酬の加算にかかる検討を行い、専門的な支援体制を整えました。
- (3) 福祉事業の運営にあたっては、利用稼働率100%に向けて、年度ごとの目標を定め、利用者の確保に努めました。
- (4) 日中活動の場としての「生活介護」、夜間生活の場としての「施設入所支援」のサービス充実に努めました。日中活動の目標は以下のとおりでした。

- ① 利用者の笑顔・やりがいにつながる生活の支援
 - 室内娯楽 ○外出・作業系 ○学習系 ○音楽、言語療法 ○園芸療法 ○その他
 - ② 利用者の社会参加を促進する支援
 - 社会参加（外出） ○生産活動
 - ③ 利用者の機能低下防止と、自立生活に向けた支援
 - リハビリ
- (5) 主な日中活動は、別紙3の内容で提供しました。
- (6) 年間の主な行事は、別紙2-オのとおり実施しました。
- (7) 各部署職員がそれぞれの業務内容を理解し、全職員相互に、「報告」・「連絡」・「相談」・「確認」の確立を図り、各部署が連携を密にし、チームワークをもって良質な福祉サービスの提供に努めました。
- (8) 各委員会の活動および推進を、別紙4のとおり実施しました。
- (9) 苦情や相談についても、別紙5のとおり対応しました。

3 職員の資質向上を図りました。

- (1) 職員としての知識、技術、価値観を深めるため研修の実施と参加に努めました。また職種における業務の目的と責任範囲を明確にしました。
- ① サービス管理責任者の仕事内容と業務目標
 - ・利用者の状態を把握し、サービス提供開始から終了までの管理を行いました。
 - ・サービスが利用者の意向に沿って提供がされているか等をサービス提供職員に対して指導、助言しました。
 - ・ケア会議等を企画運営し、サービス提供職員の意思統一を図りました。
 - ・施設長への連絡、報告を行い、障害者支援施設として利用者の自立と生活の質を高めるとともに、質の高いサービス達成に向けた体制の維持に努めました。
 - ② 主任の仕事内容と業務目標
 - ・職員指導（人事考課）に関わる事項
 - ・リーダーの育成（リーダー会）
 - ・運営方針、計画策定、周知、徹底、点検
 - ・各部署間の連携（チームワーク、報告、連絡、相談、確認）
 - ・各委員会活動の指導
 - ・サービス管理責任者と連携し、利用者へ質の高いサービス提供ができるよう協力しました。
 - ③ リーダーの仕事内容と業務内容
 - ・個別支援計画書、生活支援実施書に沿った支援
 - 個別支援計画書の理解と徹底指導
 - 利用者の実態把握
 - ・接遇の基本的姿勢の徹底指導
 - 利用者の自立（自己決定、自己選択）に立った支援
 - 利用者のニーズを尊重する支援
 - 利用者のエンパワメントの向上を目指す支援
 - 利用者の人権を尊重した支援
- (2) 福祉理念や事業の見直し、目標、事業計画についての徹底を図りました。
- (3) 適正な支援計画の作成とそれに基づく日常支援が適切に出来る職員の育成に努めました。法人外研修状況は、別紙6のとおりです。

- 4 快適な施設環境作りのための施設整備の充実とその維持管理に努めました。
- (1) 利用者が安全で安心して日常生活が送れるように、施設敷地内の環境について、常に問題意識を持ちながら改善することでサービスの向上に努めました。
 - (2) 保守点検・修理、および花壇等の整備を継続し、利用者が住みやすく、心安らぐ環境作りに努めました。
 - (3) 施設設備の状況は、別紙7のとおりです。
- 5 地域福祉の拠点としての施設づくりに努めました。
- (1) ショートステイおよび障害者就労継続支援B型事業所カトレアと一体となり、多機能型「とさゾーン」として充実した内容を備えた地域福祉サービスの提供を行いました。
 - (2) 施設のホームページ等で、広く福祉サービスの情報を提供するよう努めました。
 - (3) 地域住民、施設ボランティア等との交流を深め、地域住民の一員としての自覚を促し、社会的文化的活動への参加を勧めました。(別紙8ーア、別紙8ーイ)
 - (4) 福祉専門学校等の実習生を受け入れ、福祉人材への育成に努めました。(別紙8ーウ)
 - (5) 地域住民や在宅障がい者等との結びつきを大切にすると共に、市町村、医療、保健、教育その他福祉サービス事業者及び関係団体との連携を図り、地域福祉とのニーズに応えることで、開かれた施設づくりを目指しました。(別紙9)
- 6 利用者の尊厳を旨とした支援を行いました。
- (1) 利用者の人権尊重とプライバシーの保護に努めると共に、利用者の意向を尊重した福祉サービスの提供に努めました。
 - (2) 事業所は、利用者に対する身体拘束廃止について、「身体拘束廃止等検討会」の機能を発揮させ、迅速かつ適切な処置を講ずるよう努めました。
 - (3) 事業所は、利用者に対する虐待防止について、「虐待防止委員会」の機能を発揮させ、迅速かつ適切な処置を講ずるよう努めました。
 - (4) ご家族へ利用者の日常生活状況などの情報発信に努めました。
- 7 防災対策に努めました。
- (1) 防災計画の見直しと立案を行いました。
 - (2) 避難訓練および消火訓練の実施を別紙10のとおり行いました。
 - (3) 地震に対してのマニュアル作成を行いました。

Ⅲ 利用者の概要

(平成27年3月31日現在)

1 利用契約の状況(生活介護および施設入所支援)

障害程度区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
生活介護	0人	0人	6人	19人	23人	24人	72人
施設入所支援	0人	0人	4人	17人	16人	13人	50人

2 障害別人員（入所支援）

	性 マ ヒ	脊 髄 損 傷			脊 髄 マ ヒ	脳 血 管 障 害 後 遺 症	頭 部 外 傷 後 遺 症	リ ュ ウ マ チ	進 行 性 筋 萎 縮 症	そ の 他	計	左 の 内		
		ケ イ 髄 損 傷	脊 髄 損 傷	小 計								精 神 病 併 発 者	視 覚 障 害 保 持 者	聴 覚 障 害 保 持 者
性 別	男	4	2	2		9	5		1	11	32	1	2	1
	女	5	1	1		6				6	18	2		
	計	9	3	3		15	5		1	17	50	3	2	1
手 帳 等 級 別	1 級	4	3	3		13	5		1	13	39	1	1	1
	2 級	3				2				3	8	1	1	
	そ の 他	2								1	3	1		
	計	9	3	3		15	5		1	17	50	3	2	1
年 齢 構 成	20 歳未満													
	20～29	2								1	3			
	30～39		1	1			1			1	3	1		1
	40～49	3								4	7	1	1	
	50～59	2				3	1		1	1	8			
	60～64					2	3			2	7	1		
	65～69	1				6				4	11			
	70 歳以上	1	2	2		4				4	11		1	
計	9	3	3		15	5		1	17	50	3	2	1	

3 主たる障害の原因

	事 故					疾 病				合 計
	交通事故	労働災害	その他の の事故	戦傷病 戦 災	小計	先天性	後天性	その他	小計	
男	6	1	1		8	8	16		24	32人
女	2		2		4	3	11		14	18人
計	8	1	3		12	11	27		38	50人

4 利用者の身元引受人の状況

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合 計
12人	6人	8人	19人	5人	0人	50人

5 利用者の年齢の状況

	最 年 少	最 年 長	平 均
男	23才	81才	54.1才
女	22才	78才	50.7才
全 体	22才	81才	52.7才

6 日常生活動作等の状況

介助の項目	一部介助	全介助	備 考
食事介助	2人	7人(経口) 2人(経管)	一部：スプーン等を使用し、一部介助すれば食事ができる。 全部：臥床のままですべて介助を要する。
排泄介助	12人	11人	一部：介助があれば簡易便器及びトイレでできる。 夜間おむつを使用する。 全部：常時おむつを使用する。
着脱衣介助	27人	13人	一部：手を貸せば着脱できる。 全部：自分でできないのですべて介助を要する。
入浴介助	32人	15人	一部：身体を洗うときや浴槽の出入りに介助を要する。 全部：自分でできないのですべて介助を要する。 特殊浴槽を利用する。
歩行介助	2人	36人	一部：付添が手や肩を貸せば歩ける。 全部：車椅子等への移乗に介助を要する。
寝返り介助	5人	11人	一部：少し手を貸せば寝返りできる。 全部：1人では寝返りできないのですべて介助を要する。
車椅子使用者	47人		
知的(精神)障害者	10人		
おむつ使用者	10人(10)		夜間のみ、おむつ使用者は()書き
褥瘡者	0人		施設内で発症 0人
			施設外で発症 0人

7 月別在籍状況及び理由別入退所状況(施設入所支援)

	在籍者数 (月初)	入所前の状況(人)					計	退 所 理 由(人)							計		
		家庭	医療機関	同種施設	多種施設	その他		社会復帰		家庭復帰	入院	同種施設	多種施設	死亡		その他	
								就職	自営								
26年4月	51																
5月	51													1			1
6月	50																
7月	50		1				1										
8月	51																
9月	51																
10月	51									1				1			2
11月	49																
12月	49																
27年1月	49																
2月	49																
3月	49			1			1										
計	600		1	1			2			1				2			3

別紙1 職員の配置状況

施設長	施設長補	事務員	管理責任者	サービス	理学療法士	医師	看護師	栄養士	生活支援員	夜間警備員	用務員	合計
1	1	4	1	0.9	0.03	2.9	1	32.4	1	1.3	47.5人	

※数字は常勤換算、平成27年4月1日現在

別紙2 日常生活の支援

(ア) 日課

	月	火	水	木	金	土	日
6:00	起床						
7:40	朝食						
8:30	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎		
9:30	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回
10:00	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	朝礼	職員朝礼
10:30	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動○	日中活動		シーツ交換○
11:00							うたの集い○
11:40	昼食						
13:00	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回
13:30	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動		
14:00							カラオケ 余暇活動
15:00							
15:30	巡回						
15:45	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎		
16:30	ふれあいタイム						
17:15	引き継ぎ						
17:30	夕食 就寝介助						
20:00	巡回						
22:00	消灯						

※ 通所休業日月当たり8日とし午前と午後の送迎はありません。

※ 日中活動○→月1回集い 及び懇談会・シーツ交換○→月3回実施、うたの集い○→月1回実施

(イ) 入浴

	一般浴	特別浴(機械入浴)	備考
入浴対象者	35人	15人	
1人当たりの回数	2回/週	2回/週	
入浴日	月・火・木・金	月・火・木・金	
男性入浴時間	火 9:30-11:30・13:00-15:30 金 9:30-12:00・13:00-15:30	火 9:30-11:30・13:00-15:30 金 9:30-12:00・13:00-15:30	当日入浴できなかった利用者については、清拭または次回入浴で対応しました。
女性入浴時間	月 9:30-12:00・13:00-15:00 木 9:30-12:00・13:00-15:00	月 9:30-12:00・13:00-15:00 木 9:30-12:00・13:00-15:00	
入浴人員	男性 22人/回	男性 10人/回	
	女性 13人/回	女性 5人/回	
介助の人員	8人/回	8人/回	

(ウ) おむつの回数および種類

おむつ交換の回数	1日定期8回(夜間4回)他随時
おむつの種類	紙おむつまたは布おむつ

(エ) 生活利便のサービス

	内 容
預金引出(銀行)	毎週木曜日に銀行員が来所し利用者の通帳処理を行う。
買物	毎週土曜日に希望日用品を代行して購入してくる。
ミニ売店	毎週水曜日に施設内で菓子類を販売する。
衣料品の販売	業者に来所をお願いして、年4回衣料品を販売する。

(オ) 施設の行事

行 事 名	年 月 日	実施場所
中庭昼食	5/8	施設中庭
ワックスがけ	5/18、5/24、5/25	施設内
ふれあい交流会	6/28	とさホール
実習生レクリエーション	7/1	とさホール
彼岸の法要	9/19	楓の間
佐伯北斗様ギターコンサート	9/22	とさホール
太陽福祉園祭り	9/27	太陽福祉園
スピリットアート出展	10/2	高知県立美術館
地域祭り(おなばれ)	10/19	施設浴道
辻幹雄様ギターコンサート	10/23	とさホール
涼風祭	10/27	施設敷地内
ワックスがけ	11/1、11/2	施設内
ワックスがけ(剥離)	11/16、11/23、11/29、11/30	施設内
堀内佳様コンサート	12/4	施設内
新春の祝い	1/1	とさホール
新年会	1/17	施設内
ジャズコンサート	1/20	とさホール
栃煌山関交流会	1/27	とさホール
節分豆まき	2/3	小ホール
チェロコンサート	3/17	とさホール
彼岸の法要	3/20	楓の間

(カ) 健康管理

① 看護師による処置の内容

	人数	備 考
経管栄養	3人	
バルンカテーテル留置	6人	
吸引/吸入		随時
慢性創傷及び皮膚科処置		随時

② 健康診断の状況

	区分	利用者	職 員	計
胸部検査	対象者数	22	54	76
	受診者数	22	54	76
	直接撮影者	22	54	76

精密検査	精密検査対象者	1	0	1
	精密検査受診者数	1	0	1
	断層撮影者数	1	0	1

③ インフルエンザ予防接種の状況

	男性	女性	計
利用者	36	20	56
職員	25	31	56

※介護デイサービスセンターとさ、カトレア、古里の家各利用者も、予防接種を実施しました。

④ 協力病院の状況

名 称	診療科目	所 在 地
土 佐 市 民 病 院	内科／外科／その他	土佐市高岡町甲 1867
細 木 病 院	内科／外科／その他	高知市大膳町 37

⑤ 医療機関受診の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	9	13	6	7	7	11	9	7	9	5	6	7	96
外 科	3	3	0	1	1	0	0	0	3	0	0	2	13
脳神経外科	5	4	3	1	3	3	3	4	3	2	5	4	40
整形外科	7	4	3	7	8	7	7	5	4	3	3	4	62
泌尿器科	5	3	5	3	3	4	6	2	3	3	5	6	48
眼 科	2	3	2	1	0	1	2	2	1	2	1	0	17
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	1	1	2	0	1	3	2	1	2	0	13
精神科	6	1	4	4	7	4	4	3	7	4	6	3	53
歯 科	0	2	1	1	2	1	2	3	1	0	1	1	15
婦人科	0	0	1	3	1	1	2	1	0	0	0	0	9
その他	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	17
計	39	34	27	30	35	33	39	33	34	21	30	28	383

⑥ 入院の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	4	3	0	1	4	2	4	2	1	0	0	0	21
外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4
計	4	3	0	1	5	2	6	3	2	0	0	1	27

(キ) 健康管理

職 種	人員	実 施 日	実 施 時 間
理 学 療 法 士	1 名	月曜日～金曜日	9:00～12:00 13:00～17:15

- ・対象者は障害者支援施設とさ、介護デイサービスセンターとさの利用者でした。
- ・生活リハビリテーションを重視し、各部署と連携しながら、利用者一人ひとりの障害の状況や年齢に応じた機能訓練を計画的に実施しました。
- ・利用者の身体的・精神的現状を把握した上で、障害を克服するように自立意識を引き出し、残存機能の維持向上に努めました。
- ・利用者の高齢化や障害の重度化に伴い、排泄・入浴・摂食などの日常生活の処遇方法について各部署と連携をとりながら、一人ひとりの最大能力の保持と健康の増進に努めました。
- ・利用者一人ひとりの能力に応じたトランスファーの方法を指導するとともに、施設内外での転倒事故等の防止に努めました。
- ・利用者の補装具や自助具および車椅子などの検討、管理や調整などを実施し、日常生活の支援に努めました。

(ク) 食事の提供

① 栄養量

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 G	カルシウム Mg	鉄 mg	ビタミンA ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB 2mg	ビタミンC mg
H25年4月	1,698	65.7	47.9	590	7.7	614	0.78	0.96	60
5月	1,688	64.6	45.1	535	7.2	475	0.77	0.95	67
6月	1,723	66.4	47.7	601	7.7	615	0.77	1.00	61
7月	1,689	64.4	46.3	541	7.1	620	0.76	0.93	65
8月	1,681	64.0	46.0	589	7.7	613	0.77	0.93	61
9月	1,668	61.4	45.5	538	6.7	377	0.78	0.85	61
10月	1,702	64.8	46.8	526	7.1	414	0.76	0.97	63
11月	1,691	62.7	47.5	534	7.1	611	0.81	0.95	62
12月	1,705	65.6	48.4	531	7.1	604	0.81	0.95	65
H26年1月	1,676	61.6	45.9	498	7.3	396	0.77	0.89	62
2月	1,655	62.7	44.0	507	6.8	417	0.76	0.91	67
3月	1,695	63.0	46.3	522	6.8	595	0.80	0.91	65
平 均	1,689	63.9	46.5	543	7.2	529	0.78	0.93	63

② 嗜好の把握と献立反映

嗜好調査（年1回）・残食調査（毎食）・給食委員会（年12回）をもとに行事食、献立、選択食に反映しました。

③ 快適な食事への配慮

- ・温冷配膳車を使用し、乾燥予防のふたやラップをかけ、生野菜は別皿に盛り付けました。
- ・深鉢、平皿、ラーメン鉢、角皿など献立にあった食器を使うように配慮しました。
- ・吸盤皿、特殊スプーン、滑り止めマットなどの自助具を活用しました。

- ・身体的機能に応じた食事（おかゆ・軟飯・一口大・荒刻み・細刻み等）をその時の症状に合わせて提供するよう努めました。
- ・医師、看護師及び支援員と常に連絡を取り、書面にて回覧、確認を行いました。
- ・選択食の聞き取りの際などに食事、栄養等への問い合わせについて返答し、バランスの良い食事が摂れるようアドバイスを行いました。

別紙3 日中活動

種目	目 標	実施内容
室内娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力を高める ・協調性を養う ・心身のリラックス ・感受性を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・もぐらたたき・魚釣り・風船バレー・すごろく・かるた ・ビンゴ・卓球バレー・的あて・ホーリング・DVD鑑賞・トランプ ・玉入れ・スコットボール・バールンホッケ・ゲーム(Wii) ・駒回し、けん玉
作業系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・心身の耐久性を高める ・協調性、思考性、感受性を養う ・意思・意欲の向上 ・認知能力を高める ・生活のリズムを整える ・自立生活能力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・餃子・ベビーカステラ・竹輪の磯辺あげ・ミニパフェ・きんぴら・レアチーズケーキ・パンプキンパイ・炒め物・パンケーキ・蒸しパン・手巻き寿司・クッキー・スピリットアート展示品作品・保険証入れ・写真立て・ひな人形・小物入れ
学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・協調性を養う ・思考性を養う ・感受性を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書・脳トレ・写真・書道・ペグボード・ぬり絵 ・絵手紙・クロスワード・カレンダー作り・ビンゴ ・新聞作り・折り紙・間違い探し・ひな人形作り ・文字学習・カード作り・チラシ作成・朗読・回想法 ・スピリットアート展出品
音楽療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップやリラックス ・仲間作りや雰囲気づくり ・発声訓練と精神的なリラックス ・手足、身体の体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞
園芸療法系	<p>作物の成長の育つ過程の変化に触れ、感動を得て、心を活性化させる。又、収穫の喜びを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手・指の操作性 ・身体の動き ・観賞、食する喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ・なす・えんどう豆・ピーマン・かぼちゃ・いも・きゅうり・にんにく・ほうれん草・さつまいも・大根・園芸の新聞・作物や畑の観賞・草引き・収穫したものの調理
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換 ・社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物・ドライブ・花見・パチンコ
生産活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加 ・協調性や自活能力を高める ・意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りパン販売
機関紙編集	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を養う ・仲間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ、誌面づくり、校正、送付準備など
美 活	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持・心身のリラックス ・意思・意欲の向上 ・気分転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア・ハンドケア・ネイルケア・ヘアメイク
美 食	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換 ・意思・意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い・スイーツ等取り寄せ・会食

別紙4 会議および委員会の活動

(ア) 施設運営関係

名 称	頻 度	回数	h y j	参加者	備考（主な議題等）
職 員 会	月1回	12	有	職員	施設運営全般に関する連絡、研修、意見交換及び話し合い、研修報告など
安全衛生委員会	月1回	12	有	施設長・衛生管理者・安全衛生委員	職員の安全と保健衛生に関する事柄を検討する
施設運営委員会	定例会年3回 月例会年9回	12	有	施設運営委員・施設長・サービス管理責任者	利用者、家族等からの苦情・意見等の対応とその協議、利用者と施設運営委員との意見交換
連 絡 会	月～金		有	施設長・部署の長	日々の利用者の状態、各部署からの連絡事項、行事等の確認、緊急な検討事項の協議等
主 任 者 会	月1回	12	有	施設長・部署の長	施設運営検討事項の協議

(イ) 利用者サービス関係

名 称	頻 度	回数	記録	参加者	備考（主な議題等）
懇 談 会	月1回	12	有	施設長・部署の長	利用者との意見交換、施設の状況、時事問題の説明等
つ ど い	月1回	12	有	施設長・部署の長	各部署、自治会からの連絡と利用者との意見交換
自治会連絡会	月1回	12	有	自治会役員・施設長・部署の長	月間計画、利用者の意見・要望等を協議
給 食 委 員 会	月1回	12	有	自治会役員・施設長・部署の長・栄養士	自治会役員を交え、日々の献立にかかる意見・要望を協議
個別支援計画策定会議	不定期	50以上	有	施設長・部署の長	個別支援計画についての検討
サービス改善委員会	月1回	12	有	施設長・サービス改善委員	業務改善の評価、サービス内容の検討
事故防止委員会	月1回	12	有	施設長・事故防止委員	施設内事故の調査、原因究明、事故防止対策を検討
虐待防止委員会	月1回	12	有	施設長・虐待防止委員	虐待防止に向けた意識調査や学習会の実施
身体拘束廃止等検討会	年4回	4	有	施設長・身体拘束廃止委員	利用者への身体拘束の廃止・身体拘束継続の検討

別紙5 苦情や相談

(ア) 苦情・相談の体制

苦 情 解 決 責 任 者	施 設 長
苦 情 等 の 申 出 窓 口	サービスマニージャー

(イ) 苦情や意見等の状況

受 付 先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	7	0	7回
とさ地区施設運営委員会	0	0	0回

別紙6 法人外研修の状況

研修・セミナーの名称	月日(開催期間)	場所	人数	参加者
コミュニケーション研修	05/13～05/14	高知市	1	生活支援員
食と栄養の会	06/05、02/18、09/10	高知市	1	栄養士
施設長実学講座	06/10～06/11 10/16～10/17 12/18～12/19 01/25～01/26	東京都	1	施設長補
恵寿会・土佐厚生会 合同視察研修	07/07～07/09	東京都等	3	看護師、生活支援員
社会福祉会計簿記 講座(初級)	07/22～07/23	高知市	1	事務員
第38回全国研究大会	07/29～07/30	神奈川県	1	施設長
中四身障協事務管理研修会	08/28	徳島県	1	生活支援員
福祉施設のBCP作成研修会	10/02	高知市	1	施設長補
給食施設関係者研修会	10/28	いの町	1	栄養士
第39回中四身障協研修大会	10/9～10/10	山口県	2	施設長、生活支援員
中四国身体障害者施設 協議会支援職員研修会	11/05～11/07	高知市	5	施設長、施設長補、 看護師、生活支援員
企業防衛の為のマイカー 通勤・自転車通勤リスク管理	11/14	高知市	1	施設長
職場環境改善・メンタルヘルス対策 促進講習会	11/26	高知市	1	施設長補
認知症ケア研修会	12/21、01/25	土佐市	1	サービス管理責任者
上級リスクマネジメント 養成講座	01/12～01/14	東京都	2	施設長補、サビ管
高知県身体障害者(児)施設 協会生活部会	01/29	中村市	3	施設長、生活支援員
高知県身体障害者(児)施設 協会施設長セミナー	02/12	高知市	2	施設長、施設長補
中四国身体障害者施設長 研修会	02/19～02/20	愛媛県	1	施設長
栄養士育成研修会	03/02	高知市	1	栄養士

別紙7 施設設備の状況

- ・快適で潤いのある生活環境を作るよう努めました。
- ・安心して快適な日常生活が送れるように努めました。
- ・施設整備の改善、改修工事は以下のとおりです。

ア	05月	ガステーブル購入	180千円
イ	07月	3モーターベッド	342千円
ウ	08月	衣類乾燥機修理	321千円
エ	08月	昇降機基盤など修繕	492千円
オ	10月	居室ナースコール追加装置	313千円
カ	10月	高架水槽水漏れ修理	889千円
キ	10月	冷房用冷却塔水槽内板取替え	125千円

別紙 8 地域福祉への貢献

- (ア) 風水害時の一般避難所に加え、震災時の福祉避難所の指定を受けました。
- (イ) 土佐市自立支援協議会に積極的参加、地域福祉の諸問題を各機関と共に検討しました。
- (ウ) 下記、福祉専門学校等の実習生を受入れました。

学校・団体名	年月日	人数
平成福祉専門学校	H26. 06. 16～H26. 07. 19	2人
平成福祉専門学校	H26. 10. 14～H26. 10. 25	2人

別紙 9 地域住民との交流

行 事 名	年月日	実施場所
波介小学校 入学式出席	04/07	波介小学校
すみれ保育園 夕涼み会	07/05	すみれ保育園
波介地区 納涼祭	08/26	波介部落
土佐市から始まる MUSIC STEP 佐伯北斗様ギターコンサート	09/22	とさホール
波介小学校 運動会参加	09/28	波介小学校
波介山清掃	06/08、10/12	波介山
地域祭り (おなばれ)	10/19	施設沿道
土佐市から始まる MUSIC STEP 辻幹雄様ギターコンサート	10/23	とさホール
涼風祭	10/27	施設敷地内
高岡高校文化祭 (出店)	11/08	高岡高校
土佐市ふれあいフェスタ	11/09	土佐市とんぼ公園
土佐市から始まる MUSIC STEP 堀内佳様コンサート	12/04	とさホール
土佐市から始まる MUSIC STEP ジャズコンサート	01/20	とさホール
土佐市から始まる MUSIC STEP チェロコンサート	03/17	とさホール
波介小学校 卒業式出席	03/23	波介小学校

別紙 10 防災訓練の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
避難誘導		5/28						11/26					2回
消 火		5/28						11/26					2回
通 報		5/28						11/26	12/10				3回
地 震										1/28			1回
図 上		5/28						11/26		1/28			3回
夜間避難		5/28						11/26					2回
救 急 法							10/28						1回

障害者短期入所事業所 とさ

I 事業の総括

当事業所は障害者支援施設とさに併設されるものであって、事業は障害者支援施設とさに準じて実施しました。

II 事業の概要

1 障害者自立支援制度に伴う職員の配置状況は次のとおりでした。

施設長	事務員	サービス管理責任者	理学療法士	医師	看護師	栄養士	生活支援員	夜間警備員	用務員	合計
1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(3)	1(1)	1(1)	12(12)

※ 平成27年3月31日現在。ただし、()内は兼務

2 短期入所利用者に対する日常生活の支援は本体の障害者支援施設のサービスに準じて行い、具体的な内容は次のとおりでした。

- (1) 安全で安心して生活を営むことができる設備の維持管理と環境の保持に努めました。
- (2) 自立生活を促進するに必要な支援と相談を行いました。
- (3) 基本的な日常生活の支援を行いました。
- (4) 医療ケアと適切な技術に基づいた助言を行いました。
- (5) 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。

3 利用者の状況はおおむね次のとおりでした。

(1) 市町村別、年齢、性別、障害の程度区分など

市町村名	年齢	性別	支援区分	延利用日数
高知市	40	女	5	98
高知市	28	男	6	2
高知市	39	男	5	142
高知市	49	女	3	4
高知市	63	男	5	12
高知市	30	男	6	5
土佐市	37	男	5	69
土佐市	29	男	6	26
土佐市	54	女	4	119
土佐市	43	女	4	72
土佐市	36	男	6	127
土佐市	48	男	3	182
土佐市	35	女	6	43
土佐市	32	男	6	2
土佐市	32	男	6	37

市町村名	年齢	性別	支援区分	延利用日数
土佐市	32	男	6	43
土佐市	27	男	5	106
土佐市	59	男	3	2
東洋町	22	女	3	6
いの町	64	男	3	106
日高村	48	女	5	2
計	21人			1205日

デイサービスセンター とさ

I 事業の総括

- 1 加齢に伴って心身に変化を来す事の実態を踏まえ、最も支援を必要とする高齢者に対し、安全で安心して日常生活が出来るよう介護サービスを提供するとともに、その培ってきた知識と経験を生かして、心身の健康保持、社会的活動に参加できるよう支援しました。
- 2 職員は、会是「愛情」、「奉仕」、「連帯」の精神を遵守し、個人の尊厳とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者を中心に据え、全職員協同して福祉サービスの提供に努めました。
- 3 利用者個々に対する介護サービス計画に基づき、常時介護を必要とする在宅の利用者の自立の促進、生活の改善、心身機能の向上をはかるとともに、入浴、排泄、食事等の介護支援、創作活動、機能訓練、社会適応訓練等の各種サービスを提供しました。
- 4 地域社会や在宅者との結びつきを重視し、市町村、医療、保健およびその他福祉サービスを提供する事業者と連携を保持し、地域住民の福祉ニーズに応える活動を行いました。

II 事業の概要

- 1 質の高いサービスの提供に努めました。

- (1) 各職域において、目標管理制度を導入し職員に徹底、法人内研修の充実に努めました。
- (2) 利用契約の状況は次のとおりです。

利用時間	要支 (軽度)	要介護 1~2(中度)	要介護 3~5(重度)	合 計	備 考
6 時間以上 8 時間未満	1 人	1 人	6 人	8 人	併設型

- (3) 利用契約の状況は次のとおりでした。

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	稼働日数	1日平均
4月	8	9	0	28	29	0	74	21	3.5
5月	8	7	0	22	25	0	62	20	3.1
6月	8	9	0	26	23	0	66	21	3.1
7月	9	8	0	20	27	0	64	22	2.9
8月	7	7	0	15	23	0	52	20	2.6
9月	6	8	0	17	20	0	51	20	2.6
10月	6	8	0	13	24	0	51	22	2.3
11月	7	6	0	16	21	0	50	18	2.8
12月	7	8	0	15	20	0	50	19	2.6
1月	4	7	0	12	21	0	44	19	2.5
2月	7	7	0	18	2	0	34	19	2.3
3月	8	9	0	21	26	0	64	22	1.8
合計	85	93	0	223	261	0	680	243	2.7
1日平均	0.3	0.4	0	0.9	1.1	0	2.7		

- (4) 職員の配置状況は次のとおりでした。

施設長	生活相談員	理学療法士	看護師	栄養士	介護員	合 計
1(1)	2(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(2)	9人(7)

※ () 内は、臨時または兼務職員とし、合計人員に含まれます。

就労継続支援B型事業所 カトレア

I 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識および技能を高める就労継続支援に向けて、会是の「愛情」、「奉任」、「連帯」の精神を遵守し、目標の達成に努力しました。

<目標>

- 1 利用者様の人権を尊重し、利用者様中心のサービス提供を行いました。
- 2 利用者様の自己決定自己選択を保障した支援に努めました。
- 3 個別支援計画に基づいて利用者様の自立に向けた支援と利用者様が意欲的に取り組める生産活動の充実に努めました。
- 4 利用者様の安全確保に向けて取り組みを行い財源確保に努めました。
- 5 良質の福祉サービスを提供するため職員の資質の向上を図りました。
- 6 利用者様の安全、安心が保障されたサービスの提供と環境の整備と維持管理に努めました。
- 7 利用者様が経済的に自立できるよう工賃向上計画を作成し、その目標達成に努めました。

II 事業の概要

- 1 利用者様の人権を尊重した支援に努めました。障がいを持つ人も、持たない人も人間として同等の人的尊厳と人権を有するというノーマライゼーションの理念を施設の理念や基本方針に明示し職員に徹底し実践できるよう努めました。
 - (1) 職員の人権意識の徹底への取り組みとして
 - ① ノーマライゼーションや福祉の理念、人権擁護などについての学習会を行い、法人の理念や目標の理解と徹底を図りました。
 - ② 利用者様の障がい特性や事例検討についての学習を行いました。(定期的、施設内研修会、法人研修会)
 - ③ 日々の支援活動の中で、利用者様の人権を意識した支援についての検討や反省について、ミーティングで検証していきました。
 - ④ 同僚間で注意し合い、互いを高めていく努力をしました。
- 2 利用者様の自己決定自己選択を保障するサービスに努めました。
 - (1) 利用者様一人ひとりの想いを大事にし、自己決定、自己選択ができる場面設定や、意思表示の手段等に配慮のあるサービスを行うため、以下の課題について学習に取り組みました。
 - ① 利用者様が自己決定、自己選択できる能力の養成への取り組みを行い、利用者様のコミュニケーション能力を個々の障がい特性に応じ高めていく支援を心掛けました。
 - ② 利用者様が自己決定、自己選択できる場所、機会を設定するよう努力しました。
 - ③ 情報の提供に努めました。
 - ④ 利用者様との信頼関係の構築に努め、利用者様に想いを話してもらえる関係を深めるよう努めました。

- ⑤ 日課の中の、朝夕の集いや自治会活動、行事への取組等の支援の中で、利用者様が自主的、積極的に、意見や要求が出せるような環境を整え、全ての関わりの中で配慮した対応をするよう努めました。

3 個別支援計画書の策定とそれに沿った支援に努めました。

- (1) 全職員が利用者様のニーズに応えられる支援計画が立てられる力量、またエンパワメントの視点で支援できる力量をつける取り組みを進めました。

- ① 利用者様の個別支援の課題設定は、個別支援計画をプログラム化し、目標達成に向けて、意欲的に取り組めるよう支援しました。
- ② 支援のサイクルとして、観察、(記録)集約、分析、目標設定、手だて(5W2H)実践、評価で行い、利用者担当が、定期的にモニタリングを行い確認しました。

- (2) 基本的な日常の自立生活へ向けての支援に努めました。

- ① 利用時様には、利用者様個人個人に応じた個別支援計画書の作成を行い、また、必要に応じ、その見直しを行いました。
- ② 作成した個別支援計画書は、利用者様および契約支援者(扶養義務者)に十分な説明を行い、理解を得るように努めました。
- ③ 職員は、利用者様およびその扶養義務者の人権の尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らさないよう徹底しました。
- ④ 苦情解決の窓口は、次の通りでした。

(ア) カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために、「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付のほか、毎月1回、利用者様の意見聴取の機会を設けました。

(イ) アの他に施設には、次のような苦情などの申し出窓口を設けて、常時、苦情の受付解決にあたることにしました。また、毎月1回、利用者懇談会を実施し、意見交換などを行いました。

苦情解決の責任者	カトレア施設長
苦情の申し出窓口	サービス管理責任者

- ⑤ 利用者様と家族様の関係または個人個人の利用者が抱えている悩み、不安の解決や調節に努めました。
- ⑥ 利用者様に対する日常生活上の相談、助言あるいは必要な支援を行いました。

- (3) 利用者様の日常生活を通じて文化的、社会的活動への参加に努めました。

<係活動>

係名	人数	取り組みの内容
日直	当番制	司会、挨拶、作業予定、曜日
給食	8人	給食メニューの確認、連絡、配膳・下膳の手伝い
整理	7人	水やり、ペーパータオル・トイレトペーパー・マスク手袋の管理、掃除の配分 掲示物のチェック

<平成 26 年度年間行事>

実施年月日	内容	実施場所	参加利用者数
平成 26 年 4 月 2 日	花見	いの町・波川公園	18
6 月 1 日	障害者スポーツ大会	春野運動公園	7
7 月 5 日	日高養護学校・なつまつり	日高養護学校	—
9 月 20 日	こくふ村まつり	こくふ	—
10 月 13 日	高知リハビリテーション学院祭	高知リハ学院	—
10 月 18 日	とさゾーン涼風祭	カトレア	12
11 月 9 日	ふれあいフェスタ	土佐市市民公園	—
11 月 21 日	日帰り旅行	愛媛県・日本食研	16
平成 27 年 1 月 17 日	新年会・成人の祝い	土佐市・グランディール	13
3 月 30 日	花見	牧野植物園	17

<クラブ活動>

月	実施状況	場所
4 月	カラオケ・DVD鑑賞	カトレア
5 月	障害者スポーツ大会練習・DVD鑑賞	カトレア
7 月	カラオケ	カトレア
9 月	カラオケ・DVD鑑賞	カトレア
10 月	涼風祭	支援施設とさ
12 月	カラオケ	カトレア
2 月	カラオケ	カトレア

(4) 給食サービス

- ア カトレアの出勤日、すべての日にサービスの提供をしました。
- イ サービスの提供は昼食のみとし、その時間は12時から13時までとしました。
- ウ 2種類の選択メニューから、その日の主菜を利用者様に選んでもらいました。
- エ 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。
- オ 季節感のある食事や行事食の工夫をして、食事のゆしみができるようにしました。
- カ 所要摂取カロリーは、580 キロカロリーを基準としました。
- キ 給食委員会を定期的開催し、利用者様の意見や要望を取り入れるようにしました

<平成 26 年度各月の給食費の状況>

区分	給食費 (円)	延べ利用者数 (人)	単価 (円)
平成 26 年 4 月	77,068	223	346
5 月	80,870	234	346
6 月	77,068	223	346
7 月	76,723	222	346
8 月	64,972	188	346
9 月	78,796	228	346

10月	90,201	261	346
11月	71,539	207	346
12月	90,547	262	346
平成27年1月	80,524	233	346
2月	78,451	227	346
3月	89,510	259	346
平均	79,689	231	346

平成26年度各月の栄養量

区分	エネルギー kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
26年4月	574	21.8	106	2.2	384	0.27	0.25	29
5月	588	22.4	121	2.7	204	0.26	0.24	31
6月	606	22.7	135	2.5	400	0.27	0.25	28
7月	585	22.6	117	2.7	384	0.25	0.24	29
8月	629	23.9	143	2.7	431	0.27	0.31	33
9月	564	19.7	105	2.0	129	0.22	0.22	30
10月	576	21.7	124	2.7	169	0.27	0.22	31
11月	597	22.7	135	2.6	190	0.28	0.24	29
12月	575	21.8	118	2.4	422	0.29	0.25	32
27年1月	565	19.7	104	2.3	129	0.26	0.16	30
2月	568	20.8	107	2.3	163	0.25	0.21	34
3月	581	21.7	117	2.6	386	0.28	0.23	30
平均	584	21.8	119	2.5	283	0.26	0.24	31

(5) 健康管理とその保持に努めました。

定期健康診断実施状況（嘱託医の伊与木クリニック）

利用者様	従業者	計
15	7	22

インフルエンザ予防接種状況

利用者様	従業者	計
7	7	14

4 利用者様の確保に向けた取り組みに努力しました。

(1) 利用契約者 25 名を目標に下記の取り組みを行いカトレアのPRに努めました。

- ① 特別支援学校や地域活動支援センターとの連携を密にしました。施設見学などを通して、実習生の受け入れや学校行事にも積極的に参加しました。
- ② 行政との連携による情報聴取に努める利用者様の実態把握、紹介依頼、施設の状況報告、ケース会などへ積極的に参加しました。
- ③ 地域との連携に努めました。民生委員、地区老人会、JA、婦人部等団体との交流や、行事、作業を通して親睦を図り、協力体制を築いていくよう努めました。
- ④ 各種イベントに積極的に参加しました。ふれあいフェスタ、高知リハビリテーション学院祭、障がい者スポーツ大会等に参加しました。
- ⑤ 各部会への参加を通じて情報交換の場を作り、施設間の連携を図りました。

(2) 平成 26 年 4 月以降、5 名の新規契約があり、利用契約者が 25 名となりました。

① 利用契約の状況 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

障がい 区分	規模 利用時間	身体	精神	知的	計
契約者	併設型	0 人	3 人	22 人	25 人

男女 別月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人 数	男	1 6	1 6	1 6	1 6	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 5	1 8
	女	7	7	7	7	8	8	8	7	7	7	7
	合 計	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 2	2 2	2 2	2 5

② 年齢別

	身体	精 神	知 的	合 計
1 8 ~ 1 9 歳	0	0	3	3
2 0 ~ 2 9 歳	0	0	1 0	1 0
3 0 ~ 3 9 歳	0	1	2	3
4 0 ~ 4 9 歳	0	1	4	5
5 0 ~ 5 9 歳	0	1	2	3
6 0 ~ 6 9 歳	0	0	1	1
合 計	0	3	2 2	2 5

③ 月別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/@
平成26年度	利用契約者数	23	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	25	21.4
	開所日数	22	21	22	22	18	21	23	19	21	20	20	22	251.0
	出勤のべ人数	324	308	309	311	253	306	339	275	319	283	267	330	3624
	稼働率	73.6%	73.3%	70.2%	70.7%	70.3%	72.9%	73.7%	72.4%	76.0%	70.8%	66.8%	75.0%	72.2%
23年度	利用契約者数	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	19	18	17.8
	1日平均	12.9	13.8	13.8	13.3	13.1	14.5	13.7	14.3	14.4	14.1	13.0	13.5	13.7
	稼働率	64.5%	69.0%	68.9%	66.3%	65.7%	72.6%	68.4%	71.4%	71.8%	70.3%	64.8%	67.3%	68.4%
24年度	利用契約者数	19	19	19	19	21	22	23	23	23	23	23	23	21.4
	1日平均	14.8	14.8	14.4	14.8	14.7	16.8	16.8	15.6	15.4	15.4	14.9	16.0	15.4
	稼働率	73.8%	73.9%	72.1%	74.1%	73.3%	84.0%	84.1%	78.2%	76.9%	76.8%	74.3%	79.8%	76.8%
25年度	利用契約者数	19	19	19	19	21	22	23	23	23	23	23	23	21.4
	1日平均	15.4	16.2	15.4	14.0	13.7	12.8	11.9	11.7	11.7	12.8	12.6	13.3	13.5
	稼働率	76.8%	80.9%	77.1%	70.0%	68.5%	63.8%	59.6%	58.3%	58.5%	64.0%	63.0%	66.7%	67.4%

5 職員の資質の向上のための取り組みに努力しました。福祉の理念の徹底、就労支援施設の目標についての学習を行い、利用者様に質の高いサービスが提供できる職員の養成に努力しました。

(1) 目標

- ① 利用者様の障がい特性に対する理解の徹底を図りました。
- ② 施設内外、法人の研修会への参加を推進しました。
- ③ 福祉の理念、福祉に携わる職員としての心得、障がいと支援、質の高いサービスの提供等についての学習を行いました。
- ④ 業務改善提案表彰制度を活用し、気付きの心を持って支援にあたりました。
- ⑤ 報告、連絡、相談の徹底

(2) 職員の配置状況

職種名	施設長	管理責任者 サービス	事務員	生活支援員	職業指導員	運転手	パート技師	医師	看護師	栄養士	合計
職員配置数	1	1	1(1)	1	3	2	1	1(1)	1(1)	1(1)	12(4)

()内は、兼務職員

(3) 会議等の開催状況

① 施設運営関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
朝のミーティング	出勤日・朝	有	送迎当番以外の職員	出欠状況、当日の予定
夕礼	出勤日・夕	有	送迎当番以外の職員	当日の作業、支援報告
職員会	月1回以上	有	全職員	施設運営全般
安全衛生委員会	月1回	有	施設長・サービス管理責任者	利用者様・職員の安全衛生対策
サービス改善委員会	月1回	有	施設長・サービス管理責任者	業務改善提案審査
虐待防止委員会	月1回	有	施設長・サービス管理責任者	虐待防止の取組
ゾーン連絡会	月1回	有	施設長・サービス管理責任者	翌月の予定、連絡事項
個別支援会議	随時	有	全職員	個別支援計画書作成
施設運営委員会	定例会年3回 月例会年9回	有	施設長・サービス管理責任者	利用者様、家族様からの苦情解決機関

② 利用者サービス関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
利用者懇談会	月1回	有	全職員	施設運営などの意見交換
給食委員会	定期的	有	栄養士、全職員	給食についての意見交換
施設運営委員相談日	月1回	有		第三者委員の相談受付
自治会	月1回	有	全職員	自治会運営について

(4) 学習会、研修会参加状況

研 修 会	実施年月日	実施場所	人員	参加者
土佐厚生会法人研修・施設長研修会	平成26年6月、8月、10月	南国市	1	所長
土佐厚生会法人研修・職場研修担当者研修会	平成26年6月、7月、平成27年1月	南国市	1	職員1名
土佐厚生会法人研修・主任者研修会	平成26年6月、7月、8月、11月	南国市	1	職員1名
土佐厚生会法人研修・サービス管理責任者研修	平成26年6月、8月、10月、12月	南国市	1	職員1名
土佐厚生会法人研修・エルダー研修会	平成26年6月、8月、平成27年1月	南国市	1	職員1名
食品衛生講習会	6月25日	土佐市	1	職員1名
高知大学教育学部附属特別支援学校参観	6月25日	高知市	1	職員1名
障害者相談支援事業のあり方に関する研修会	6月30日	高知市	2	所長・職員1名
刈払機取扱作業講習会	7月2日	高知市	1	職員1名

今後のサービス等利用計画について	8月22日	高知市	1	職員1名
障害福祉サービス事業所説明会	10月10日	高知市	2	職員2名
フォークリフト運転技能講習会	11月6日～13日 (4日間)	高知市	1	職員1名
高知みかづき分校学校参観日	11月19日	高知市	1	職員1名
高知県社会就労センター協議会管理者研修会	平成27年2月12日	高知市	1	所長
高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	平成27年2月20日 ～2月21日	高知市	1	職員1名
AED 夜間研修会	2月12日	土佐市	3	職員3名
サービス管理責任者等スキルアップ研修	2月26日～27日	高知市	1	職員1名

6 利用者様の安全、安心が保障されたサービスの提供に努めました。

(1) 利用者様の安全、安心への取り組み

- ① 毎月1回、利用者懇談会を実施し利用者様からの要望や意見を聴く機会を作りました。
- ② 11月より3月末まで感染症対策で毎週月曜日に施設内消毒を実施しました。
- ③ リスクマネジメントに力を入れました。
 - ・ヒヤリハット、事故報告書の報告用紙の記載内容の検討と作成
 - ・定期的に、事故の要因の分析、事故予防対策について検討しました。

(2) 施設・整備の充実とその維持管理に努めました。

- ① 施設内の整理整頓および清掃による環境美化に努めました。
- ② プランターに四季の花を植え、快適で潤いのある生活環境を作るようにしました。
- ③ 設備保守点検は、自主点検や外部委託などの方法等により十分配慮しました。

(3) 施設の災害や利用者様の事故防止など、安全対策に努めました。

- ① 非常災害時に備えて、地域の方々の協力を得るため、地域住民との連携を深めるように努めました。
- ② 総合的な防災訓練、避難訓練の内容は、次の通りでした。

<避難訓練等の実施状況>

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/28						11/26					2
消火訓練		5/28						11/26					2
通報訓練									12/10				1
地震訓練													0
図上訓練		5/28						11/26					2

- ③ 施設の内外に発生する傷害事故などの予防に努めました。
- ④ 万一事故が発生した場合、速やかに事故防止対策会議を開き、その解決に努めました。
- ⑤ 施設設備の管理や防災上で重要な場所または、火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにしました。
- ⑥ 施設整備の点検は別に定める方法で行い、改善の結果はお知らせするよう努めました。
- ⑦ 業務上の各種マニュアルを整備して、利用者様の生命の安全、保健衛生の徹底に努めました。

7 作業運営

(1) 利用者様の工賃アップへの取り組み

- ① 各事業部に事業運営委員会を設置。(職員の運営委員会、利用者様の運営委員会) 責任者を決め、各事業部の事業内容や、収益高、問題課題について定期的に報告発表を行い、改善についての検討を行いました。(商品の品質の改善、販売先の確保、作業時間の検討)
- ② 工賃向上計画を作成し、その目標達成に向けて努力いたしました。

(2) 事業の拡大への取り組み

- ① 乾燥工場が26年2月に完成し、本格稼働を目指し大口取引先との交渉を進め、生姜チップ・ブロッコリーチップの取引を開始しました。
- ② 乾燥工場を毎日稼働する為に、土佐市の商店と契約し、生姜洗浄作業を請け負い、毎日生姜洗浄作業に取り組む事を開始しました。
- ③ しょうが粉などはターゲットを絞った営業活動を実施し、新規顧客の拡大、販売量のアップを図りました。高知県工賃向上アドバイザー事業を活用し、ショウガ粉製品の新たなレベルを開発しました。
- ④ 新規販売先として、とさの里と契約し商品販売を行い、毎月1万円の売上額を実績とし上げる事が出来ました。
- ⑤ 新商品として、ブロッコリー粉を開発しました。今後は、営業活動を行い販路拡大を目指していきます。
- ⑥ ウィール社、ファーストと協力し、作業や販売網の連携、新規自主商品の開発などを図ります。

(3) 各事業部売り上げ実績は次の通りでした。

	24年度売上	25年度売上	26年度売上	月平均	差額	対前年比
バイオディーゼル生成販売	2,622,605	2,354,530	1,150,525	95,877	-1,204,005	48.9%
廃油販売	1,037,300	1,589,600	1,078,970	89,914	-510,630	67.9%
食品加工(ミョウガ、生姜粉)	1,991,340	1,203,135	1,093,478	91,123	-109,657	90.9%
農場	41,640	55,670				
喫茶	2,606,147	2,280,425	1,766,955	147,246	-513,470	77.5%
空調清掃	197,000	205,200	205,200	17,100	0	100.0%
リサイクル	119,704	97,226	87,213	7,268	-10,013	89.7%
いりこ			322,558	26,880		
しょうが洗浄			851,480	70,957		
しょうが転売			7,687,680	640,640		
乾燥野菜			11,342,808	945,234		
その他	550,295	622,618	191,515	15,960	-431,103	30.8%
合計	9,166,031	8,408,404	25,778,382	2,148,199	17,369,978	306.6%

(4) 各事業部の取組

① バイオディーゼル部門

バイオディーゼルの販路拡大に取り組んで来ましたが、バイオディーゼルの売上増が今後見込めない為、平成 27 年 3 月 31 日で事業を廃止する事とし、廃油回収については平成 26 年 11 月 30 日で終了する事としました。

② 食品加工部門(ショウガ粉等の加工販売等・いりこ請負作業)

地域の特産品を利用した加工品作りの、カトレアでは 1 番古い作業部門であります。

③ 喫茶部門

3 名の利用者様が作業を行っており、顧客は施設職員や入所者とその家族がほとんどであったが、波介地区老人会にて毎月数回の利用が継続して行われています。イベント出店や法人研修の弁当注文により、安定した売上額を保つ事が出来た。今後は、法人による福利厚生事業により昼食注文の増が見込まれており売上増が期待されます。

④ 生姜・野菜乾燥工場

平成 26 年 2 月に完成し、4 月より生姜の乾燥チップ製造に取り組み、年間にして 2388kg の生姜乾燥チップ製造を行い、10,316,160 円の売上額を実績として上げる事が出来た。平成 27 年 2 月からは、ブロッコリー乾燥チップの製造にも取り組み、604kg の製造が出来、913,435 円の売上額を実績として上げる事が出来た。今後は、年間を通して乾燥チップの製造に取り組む事が出来る様に考えていきます。

⑤ 請負作業部門(空調清掃)

支援施設とさの空調清掃を年 2 回、使用量が増える前(5 月、10 月)に実施しています。今後も継続して作業を行っていきたいと考えています。

⑥ リサイクル部門

空き缶などの回収は廃油回収時に行っていたこともあり、廃油回収廃止に伴いリサイクル事業は平成 27 年 3 月 31 日で事業を廃止する事となりました。

障害者共同生活援助事業所 古里の家

I 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、自立生活を目指す障がい者が地域社会の一員として共同生活を営むため、健康管理をはじめ、安定した日常生活を心豊かに明るく過ごすことが出来るよう下記の目標を設定し、目標達成に努めた。

<目標>

- 1 利用者様の自立に向けた日常生活に必要な援助を行い、地域住民の一員として快適な生活が出来るよう支援する。
- 2 利用者様の満足度を高めることができるように運営体制の充実に努める。
- 3 利用者様が安心して住める住宅の維持管理と、環境の整備充実に努める。
- 4 災害時の利用者様の生命と安全を守るため、その対策に努める。
- 5 入所者様の尊厳を旨とし、業務上知り得た個人情報などは厳重に管理した。

II 事業の概要

1 施設利用状況（利用定員 5人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考
利用契約者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
(区分3)	19	21	21	22	16	20	22	20	19	18	18	22	238	
(非該当)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
日数合計	49	52	51	53	47	50	53	50	50	49	46	53	603	

2 平成 26 年度活動状況

実施年月日	活動内容	参加者
平成 26 年 6 月 18 日	GH懇談会	利用者 2 名、世話人、職員
9 月 25 日	GH懇談会	利用者 2 名、世話人、職員
10 月 18 日	涼風祭	利用者 2 名
12 月 17 日	GH懇談会	利用者 2 名、世話人、職員
平成 27 年 3 月 26 日	GH懇談会	利用者 2 名、世話人、職員

- ① 地域の行事に参加するよう支援した。
- ② 利用者様の趣味、教養、娯楽等の活動が出来るよう設備の充実に努めた。
- ③ 利用者様一人ひとりの健康状態や嗜好を把握したプログラムや、カロリー食の配食サービスを利用し健康管理に努めた。

3 利用者様の健康管理

年月	症状と対応	対応者	支援先
毎月 1 回	定期健診通院	家族様	土佐市民病院
2ヶ月 1 回	定期健診通院	職員	土佐市民病院

- ・服薬管理
- ・消毒の実施

- ① 利用者様や世話人、地域の方からの要望や改善点などを把握するため定期的に懇談会を実施し、要望など対策や支援を行った。
- ・外出時やイベントなどの申し送りの徹底
 - ・GH前の道路の安全対策
 - ・キッチン、トイレ水漏れ修理
 - ・浄化槽の保守点検
 - ・GHに隣接するビニールハウスにかかる枝を撤去
 - ・非常持出袋の点検

4 施設運営状況

① 職員の配置状況

職種	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	合計
職員配置数	1 (1)	1	2	1 (1)	5 (2)

<職員の勤務体系>

管理者 1名 (カトリア施設長兼務 8:30~17:30)

生活支援員 1名 (カトリア生活支援員兼務 8:30~17:30)

世話人 2名 16:00 から翌9:00 (月~木)

② バックアップ事業所との連携

- ・毎日朝・夕 (ホーム日誌、食事メニュー、鍵、連絡事項と申し送り等の確認)
- ・生活用品の発注、受取
- ・毎月食費会計報告と精算

③ 利用者様が地域において安全で安心して生活が出来るよう、支援計画を作成し、本人や家族様に理解をいただいたうえで実施した。

④ 防災対策

- ・6月、9月、12月、27年3月に火災想定訓練を行った。3月には、地震想定訓練を行い、南海大震災に備えた。
- ・消火器や火災報知機などの適正配置、検査の確認を行った。
- ・避難防災設備を備え付けた。

5 今後の課題

- ① 定員5名の中、2名の入居となっているため、満床にするために市町村や支援学校などにPRに努めたが、新規利用には至らなかった。今後、どの様にしていくのか法人として検討していく必要がある。
- ② 週末は世話人が不在のため、利用者様の週末の支援体制を今後どうするか検討していく。
- ③ 地震や津波などに対する防災対策 (マニュアルの整備と避難訓練の実施)。

障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

I 事業の総括

- 1 ノーマライゼーションとリハビリテーションの理念に基づき、利用者が地域社会の一員として自立生活ができるよう支援を行うとともに、利用者の主体的意欲を尊重し、経済的、文化的活動に参加できるよう支援を実施した。
- 2 職員は、会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者の立場にたった福祉サービスの提供に努めた。
- 3 障がい者が地域において自立生活ができるよう、支援および医療、リハビリテーションなどを行い、その福祉の向上に努めた。
- 4 地域社会や在宅者との結び付きを重視し、利用者・市町村・保健・医療およびその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する就労継続支援B型事業所「ウィール社」とともに総合的な運営を行った。

II 施設運営

- 1 会是「愛情・奉仕・連帯」の精神を重んじ、利用者本位の福祉サービスに努めた。
 - (1) 会是の精神にもとづき、利用者の立場で福祉サービスを行った。
 - (2) 一人ひとりに思いやりと気づかいの出来る、適切な支援を心がけた。
 - (3) スタッフは、自己啓発に努め、自らの視野を広め、援助者として抱擁力のある姿勢で支援を行った。
- 2 快適な施設、設備づくりと安全な生活環境づくり
 - (1) 施設内は、清潔に努め、常に快適で潤いのある生活環境に努めた。
 - (2) 施設の防災設備は、常に良好な状態で維持し、正常に作動するよう、保守点検を行った。
 - (3) 非常災害に備え、消防計画に沿った総合的な防災、避難訓練を実施した。
 - (4) 浴槽の水漏れに対する改修工事を行った。
 - (5) 耐震対策として、全ての窓ガラスに飛散防止フィルム貼りを行った。
 - (6) その他の修繕は発生の都度対応し、住居環境にふさわしい状態を維持した。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/21							12/3			3/12	3
消火訓練		5/21										3/12	2
夜間通報訓練								11/14					1
図上訓練													0
夜間訓練													0
防災地震訓練									12/3				1

- (7) 施設内の事故防止に心がけると共に、万一事故が発生した場合でも、関連機関及び家族への連絡など迅速な対応がはかれるよう、訓練を実施した。
- (8) 万一の災害に備え、各種保険制度へ加入している。

Ⅲ 生活と自立への支援

- 1 利用者の日常の基本的な生活習慣の獲得にむけての援助や残存機能の維持、さらに就労意欲の高揚をはかり、生活の安定と職業的自立に向けた取組みを図った。
- 2 コーポラスこくふはウィール社の利用者や他施設の利用者との仲間意識を育む等、互いの労働意欲を高める交流の場としての役割を果たしてきた。
- 3 コーポラスこくふ周辺にスーパー等の店がないため、食品や日常生活用品の買物のために、週に一度最寄りのスーパー等への買物送迎を行った。
- 4 施設利用者間の協調性も生まれ、共通の諸行事もスムーズに行われた。
- 5 自動車免許所持者で通勤や生活のために自動車を所有している方には、駐車場を用意している。
- 6 コーポラスこくふの利用状況
満 18 歳以上の障がい者であって、働く意欲のある方を対象者とする。
 - (1) 企業への就労や作業施設に通所される予定のある方、または働いている方。
 - (2) 日常生活動作の自立と身の周りの整理等ができ、地域社会の一員としての生活ができる方。
 - (3) 原則として自己の責任において家賃や生活費を賄うことのできる方。
 - (4) 伝染病等の疾病がなく共同生活を営むことができる方。
- 7 コーポラスこくふの利用状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

区分	階層	戸数	居住面積	設備の状況	利用できる方	和・洋の区分	利用状況	家賃の額
単身者向住宅Ⅰ	1階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	トイレ、洗面台 流し台、寝台 冷暖房設備、浴室は 共用(男女別)	車椅子生活者	洋室	4人	月20,000円
	2階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	4人	月20,000円
単身者向住宅Ⅱ	1階	1戸	43.8㎡	トイレ、洗面台 流し台、寝台 浴室、冷暖房設備	車椅子生活者	洋室	1人	月30,000円
	2階	1戸	43.5㎡	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	1人	
共用施設	1階	管理人室 談話室 浴室 その他	33.75㎡ 34.50㎡ 52.50㎡ 93.15㎡	2階 小集会室 物置 その他	62.00㎡ 34.00㎡ 66.45㎡	駐車場	10台	すべて利用する (共同利用する) 共益費 2,000円～

8 利用契約者の状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

障害の種類 区分	身体	知的	精神	合 計
契 約 者	6 人	4 人	0 人	10 人

9 コーポラスこくふの職員

管理者 1 名（ウィール社所長ファースト所長兼務）

管理人 1 名（17：30 ～ 8：30 勤務）

10 今後の支援方法の検討課題

- (1) 入居者の高齢化に機能低下が伴って、常時車椅子使用入居者が 4 名になっている。日常生活活動に支援を必要とする方が増えてくることが予想される。日常生活活動レベルの維持とそれに向けた支援の提供をどのようにしていくか。特に機能上入浴動作や洗身動作が不十分となる方が出てくるであろう。
- (2) コーポラスこくふは、日常生活が自立している方の入居となっているため介護人がいない。部屋の掃除や洗濯が一人では困難となってきた 2 名の方の内 1 名は週に 1 度、他の 1 名は 2 週に 1 度ヘルパーを活用している。1 名については、67 歳につき、介護保険の対象であり、介護度調査の結果、要支援 2 である。今後、自立に向けての支援には限度があり、介護保険の制度を利用し、支援を受けながらの生活となるであろう。介護認定が要支援から要介護となれば退室せざるを得ない。このことを視野に入れ、ケアハウスや介護老人ホーム等コーポラスこくふ以外での生活の場の準備を、ケアマネージャーと連携をとり検討を始めている。
- (3) 入居者 10 名中 7 名（内車椅子 4 名）は、休日の三食を隣接する障害者支援施設こくふのシンフォニーで食事をしている。（片道約 100m）管理人のいない昼食において悪天候時は食べに行くことも大変な状況となってきた。

◎公益を目的とする事業

I 医療保健事業

本会定款第 24 条に定める医療保健の事業の状況は、高齢者や障害者が入所または通所している以下の施設で医療や心身の状況に応じ、治療のみならず疾病の予防のための処置、その他リハビリテーションを実施した。

その内容は以下のとおりである。

事業所名	設置場所	配置人員	開設年月日	指定診療所
安芸療護園 診療室	安芸市赤野甲 564 安芸療護園内	常勤医師 1 人 看護師(兼)1 人	昭和 60 年 7 月 29 日	医療法第 1 条の 5
国府寮診療所	南国市左右山 290-2 国府寮内	嘱託医師 1 人 看護師(兼)1 人	昭和 63 年 6 月 1 日	〃

II その他の事業（公益を目的とする事業）

- 1 居宅介護支援事業
- 2 小規模作業所ファーモニー